

VI マタギ資料館収蔵の用具

ここに掲載する資料はマタギ資料館に展示あるいは収蔵されているものをまとめた。現時点で未調査のため旧所有者が不明であるが、3地区の聞き取り調査で得られた情報を念頭にこれらの資料群を観察すると、「またぎ（狩猟）」に関する用具は一式揃っており、すべて阿仁マタギの文化を色濃く投影した極めて貴重な資料群である事を確認できた。一度失われると再生産のできない貴重な文化財である事は他地区の場合も同様であるが、いずれの地区においても保管状態に難を感じている。薫蒸処理等を施し地域の財産として未来へしっかり伝達してほしいと思う。

1 またぎ（狩猟）用具

衣類

実測図78の「かっぱ」は、マタギの営みがいかに過酷なものかを実証してくれる衣類である。表面に白抜きの模様が見えるため、よくよく観察したところ、それは模様ではなく汗で退色した「はらかけ」の痕である事が分かった。新品の時の身頃は、表裏同じ生地を合わせて刺し子を施して縫い合わせたものだが、表側に「はらかけ」の痕が白く抜けているという事は、裏地の方は汗をより多く受け止める分、表地以上に劣化した可能性がある。そこでこの「かっぱ」の作り手は、別の生地を裏地にして仕立て直したのだろうと推測できる。他の各部も様々な端切れで構成されている。この資料はマタギの活発な動きと共に、「はらかけ」を常時着用した時代の衣類である事も証明している。そして更に細やかに頭を使いながら手を動かしている女の様子まで語っている。所有者は分からなくても、「もの」がありさえすれば、見方によって、「もの」から大事な情報を汲み上げる事が可能なのである。

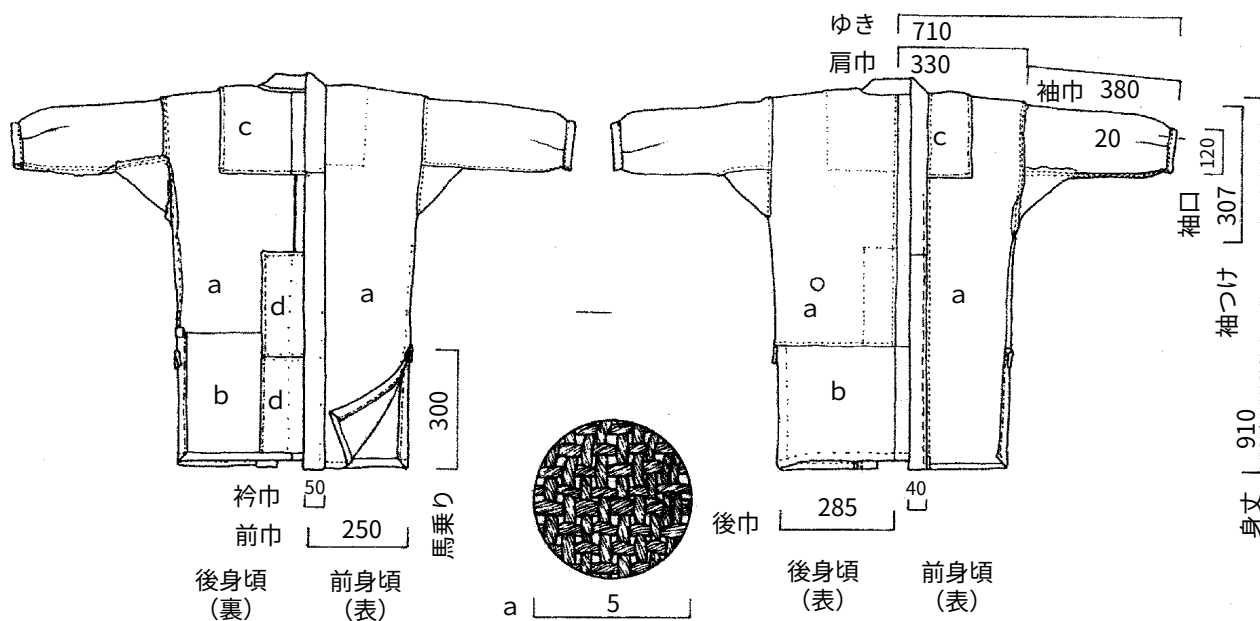
実測図92の「はばき」は「またぎ（狩猟）」に直接関係する資料ではないが、収蔵庫に眠らせておくのは勿体ない資料のため実測図を作製した。この資料は大変丁寧に作られており、高い技術力を感じた。



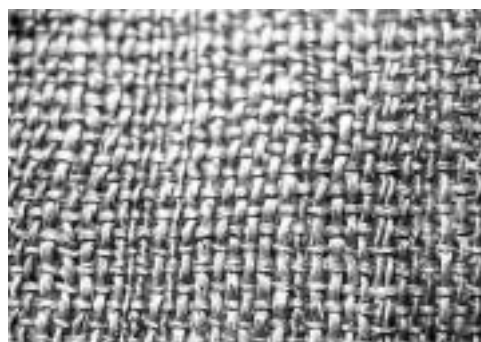
写真番号 161

写真番号	161
分類名	上衣
地区別の呼称	根子地区…やまいしょ 比立内地区…かっぱう 打当地区…てっぱうぼど
重量	410 g
収蔵施設	マタギ資料館（展示室）

実測図 77



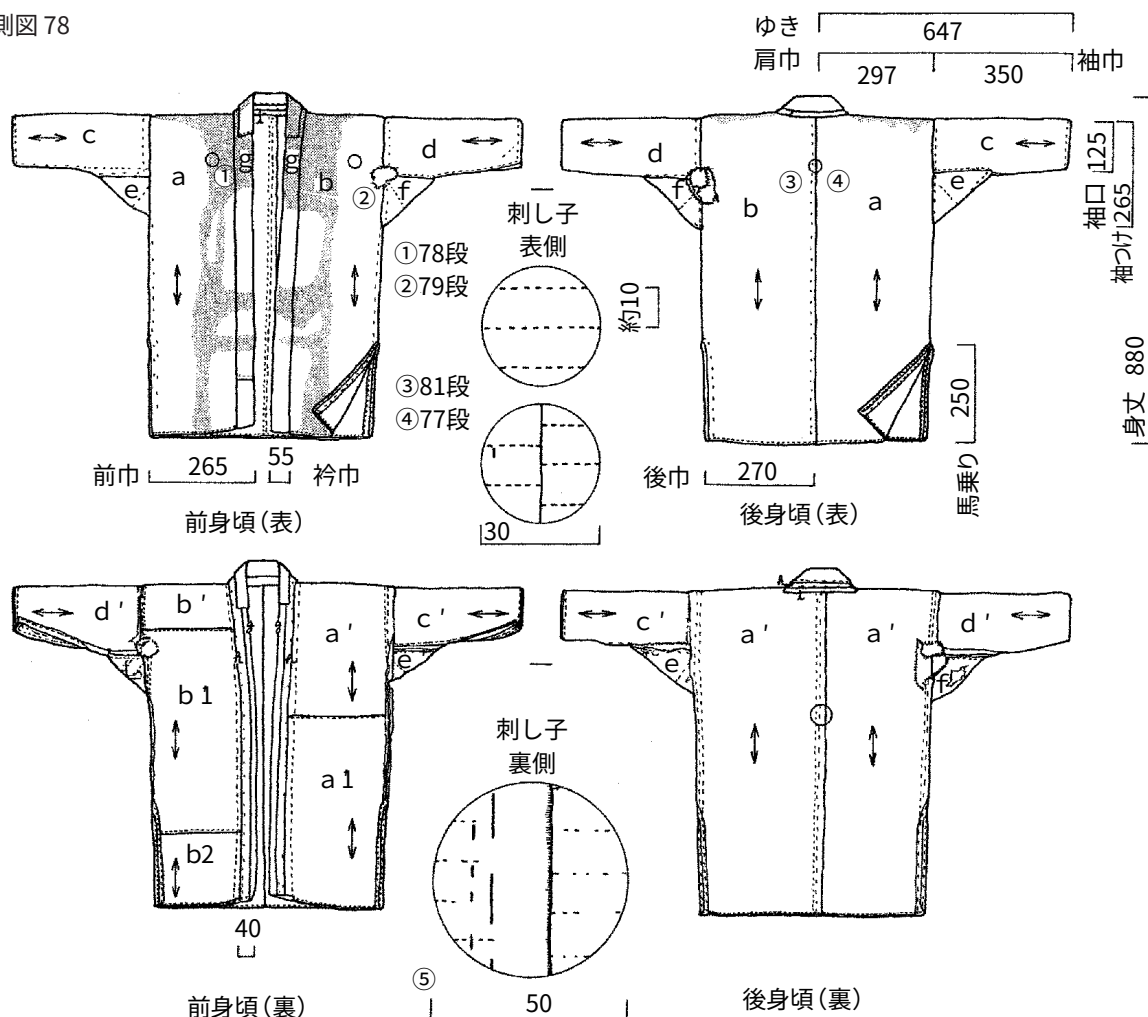
写真番号 162



写真番号 163 麻布の拡大写真

- 写真番号 162
 実測図番号 77
 分類名 上衣
 資料名(地方) かっぱ
 よみ Kappo
 地区別の呼称 根子地区…やまいしょ 比立内地区…かっぱう 打当地区…てっぱうぼど
 重量 318 g
 材料 表地 a…麻布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸8本×緯糸8本)・糸の太さはばらつきがある(0.3~0.5)・無地・藍の先染め。表地 b…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸8本×緯糸8本)・糸の太さは均一化・無地・藍の先染め。肩当て布 c…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸8本×緯糸8本)・糸の太さは均一化・一部分明るい藍がかかっている・後染め。腰当て布 d…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸8本×緯糸8本)・糸の太さは均一化・白の無地。縫い糸…黒の木綿糸。
 用途 「またぎ(狩猟)」に行く時に着用する
 製作(入手)方法 手縫い。単衣仕立て。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 名久井芳枝

実測図 78



写真番号 164
 実測図番号 78
 分類名 上衣
 資料名(地方) かっぱ
 よみ Kappo
 地区別の呼称 根子地区…やまいしょ 比立内地区…かっぱう
 打当地区…てっぱうぼど

重量 415 g

材料 表地 a b…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸10本×緯糸9本)・無地・藍の先染め。表地 c d…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸12×緯糸11本)・無地・藍(紺)の先染め。表地 e f…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 糸11本×緯糸11本)・濃紺の無地・先染め。表地 g…表地 e fと同じ生地と思われる。表地 h…綿布・地織り格子縞・糸の密度(5mm四方 経糸16本×緯糸10本)。表地 i…綿布・緑色系の地織り縞・糸の密度(5mm四方 経糸15本×緯糸15本)。表地 j…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸15本×緯糸11本)・藍の無地・先染め。裏地 a'…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸9本×緯糸8本)・無地・元は白色。裏地 a'1…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸9本×緯糸6本)・型染め。裏地 b'…表地 bに同じ。裏地 b'1…(もとは表地裏地共に同じ生地であったと思われる)裏地 b'2…裏地 a'1に同じ。裏地 c'd'…綿布・平織り(手ぬぐい?)・糸の密度(5mm四方 経糸9本×緯糸8本)・白地に亀、花のプリント。裏地 e'f'…綿布・えんじ色系の地織り縞。糸の密度(5mm四方 経糸23本×緯糸17本)。縫い糸…黒色の綿糸。

用途 「またぎ(狩猟)」に行くとき着用

製作(入手)方法 手縫い。仕立て直した衿と思われる。構造は、まず左身頃・右身頃となる部分の表地裏地を合わせて、約10mm感覚で刺し子を施し(袖の部分は刺し子をしていない)、その後縫い合わせている。

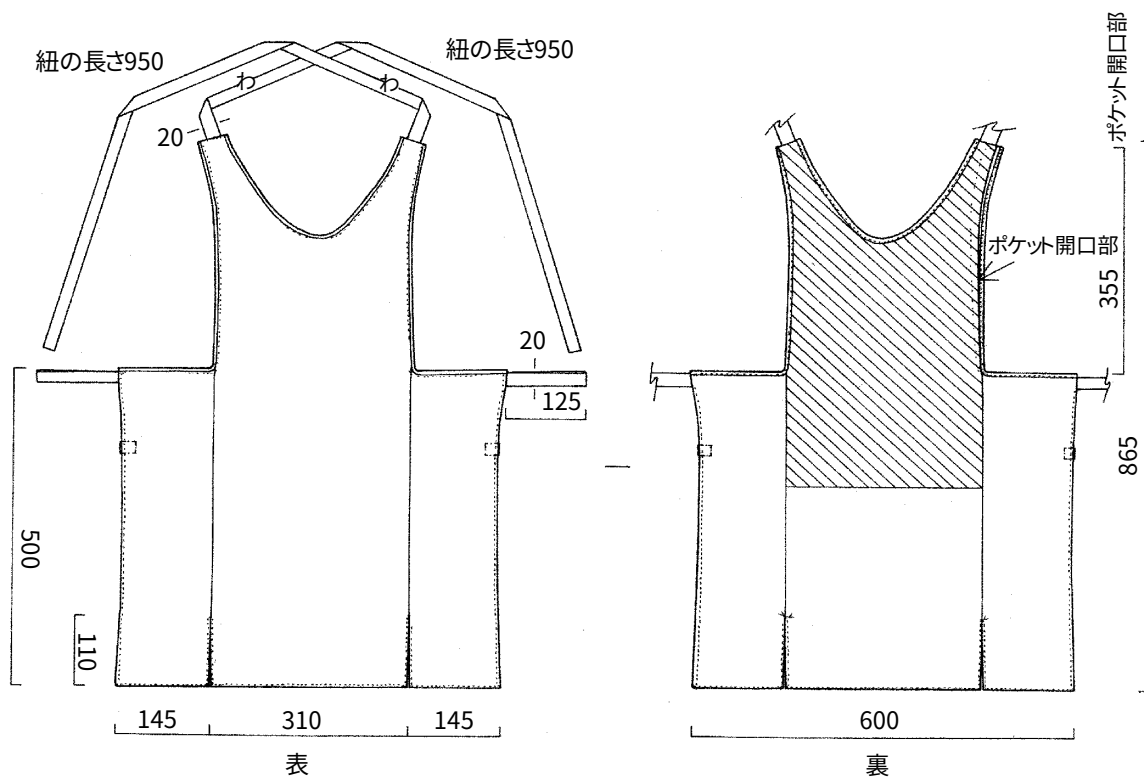
備考 仕立て直される前のものは、身頃の部分の表地裏地共に同じ生地であったと思われる。身頃の表地の退色は汗によるものと思われるが、裏側が劣化したため、別の生地を裏地として仕立て直したものである。各部は様々な端ぎれで構成されている。

収蔵施設 マタギ資料館(展示室)

作図者名 名久井芳枝



写真番号 164



実測図 79

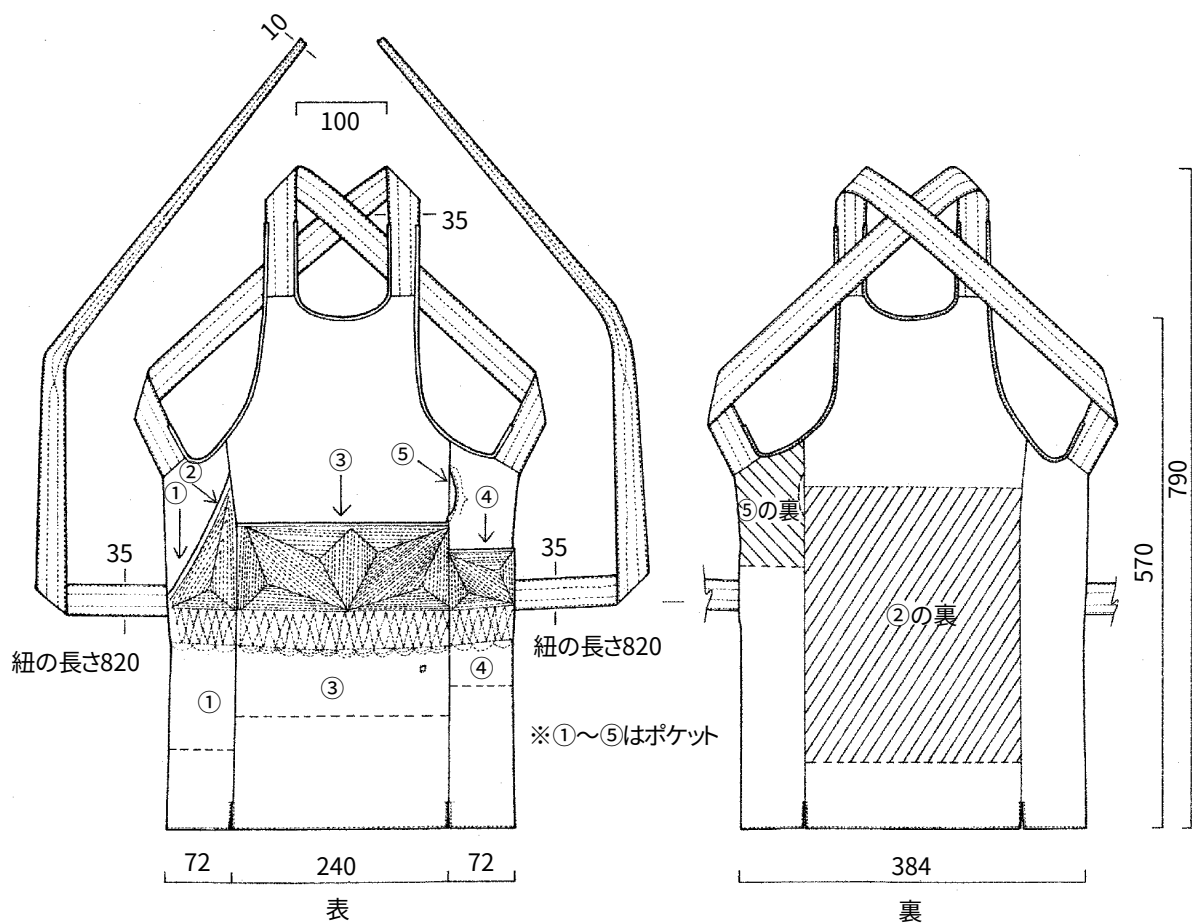


写真番号 165



写真番号 166

- 写真番号 165・166
 実測図番号 79 (写真番号 165)
 分類名 上衣
 資料名 (地方) はらかけ
 よみ Hara-kake
 地区別の呼称 根子地区…はらかけ 比立内地区…はらかけ・まえかけ 打当地区…はらかけ・まえかけ
 重量 165…160 g 166…230g
 材料 表地…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方 経糸15本×緯糸12本)・黒色の無地。裏地…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方 経糸16本×緯糸15本)・紫色の無地。紐…表地と同じ。縫い糸…黒色の綿糸。
 用途 「またぎ (狩猟)」に行くとき着用。ポケットが沢山付いており、またぎに使う用具を仕分けして収納。
 製作(入手)方法 手縫い。衿仕立て。
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 角館さえ



実測図 80

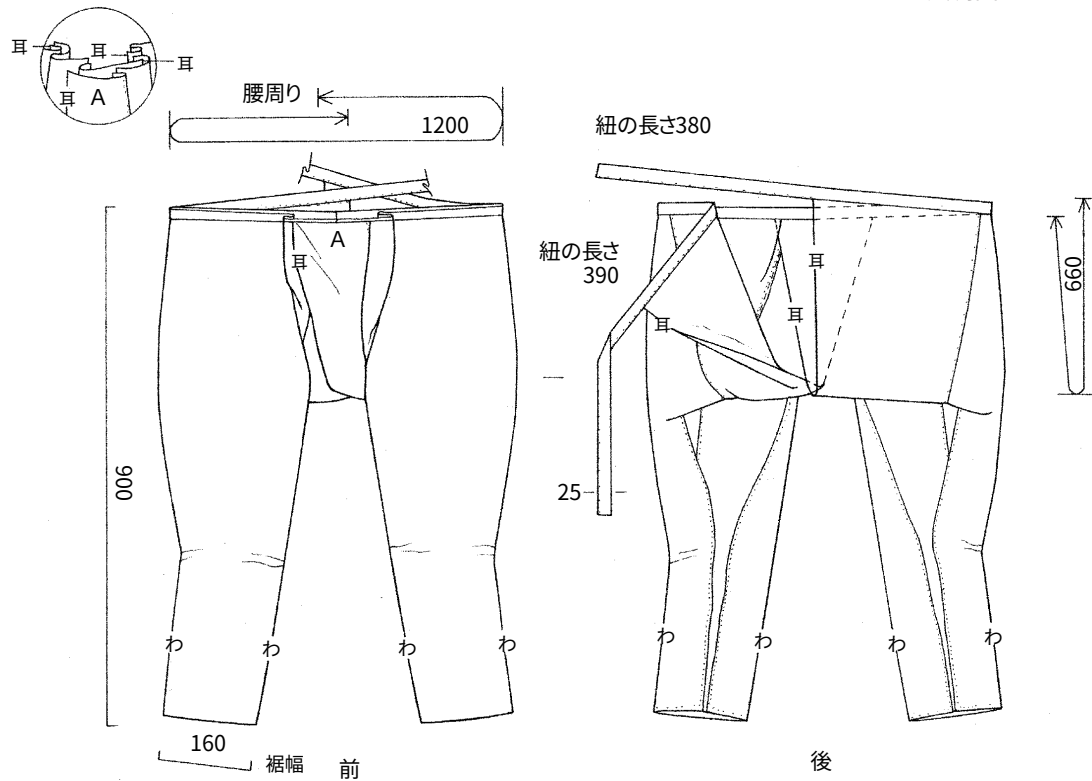


写真番号 167

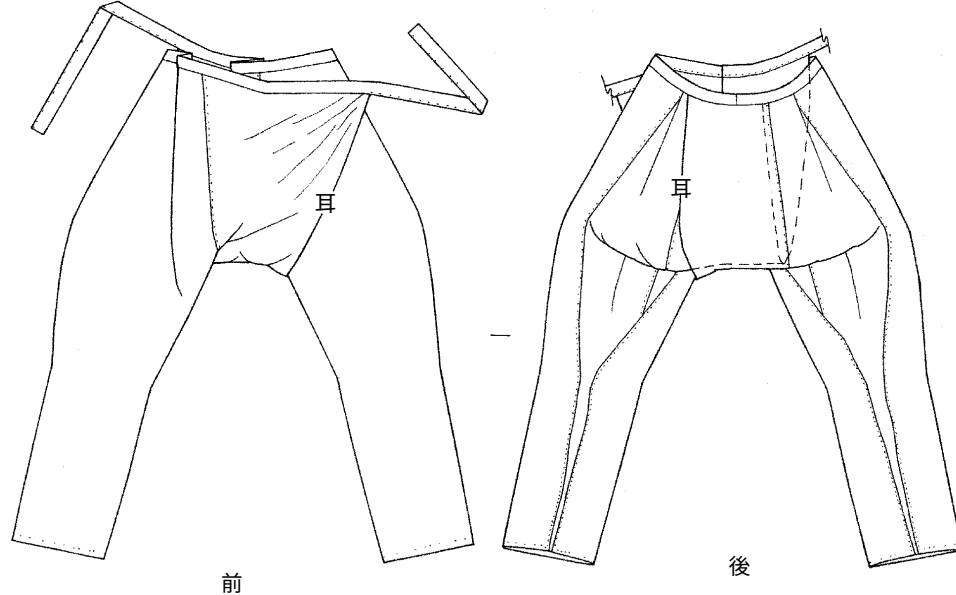
- 写真番号 167
 実測図番号 80
 分類名 上衣
 資料名(地方) はらかけ
 よみ Hara-kake
 地区別の呼称 根子地区…はらかけ 比立内地区…はらかけ・まえかけ 打当地区…はらかけ・まえかけ
 重量 420 g
 材料 表地…綿布・綾織り・糸の密度(5mm四方 経糸14本×緯糸13本)・紺色の無地。裏地…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸19本×緯糸10本)・黒色の無地。紐…表地と同じ。縫い糸…黒色。
 用途 「またぎ(狩猟)」に行くとき着用する。ポケットが沢山付いており、またぎに使う用具を仕分けして収納した。
 製作(入手)方法 ミシン縫い。模様部分はミシン刺繍。
 備考 松橋時幸さんが所有していたものとそっくりだが、時幸さんのものは刺繍の模様が星形だったという事で模様が違う。また実際にこの「はらかけ」を時幸さんに着けて頂いたが、小さくて寸法が合わなかった。時幸さんによればミシンによる刺繍は補強のためだと言う事であった。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 角館さえ

A部の布の合わせ方

実測図 81



着用した場合



写真番号 168・169・170
 実測図番号 81 (写真番号 168)
 分類名 下衣
 資料名 (地方) もんぺ (尻が割れている形態)
 よみ Monpe
 地区別の呼称 根子地区…もんぺ 比立内地区…もんぺ 打当地区…もんぺ
 重量 168…255 g 169…190g 170…280g
 材料 表地・紐…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方 経糸 12 本×緯糸 11 本)・紺色の無地。縫い糸…黒色の綿糸。
 用途 「またぎ (狩猟)」に行く時に着用。雪の少ない時は「三尺ふんどし」や「六尺ふんどし」をしてから、[もんぺ (尻の割れている形態)] を穿き、その上に「はかま」を重ねて穿く。
 製作(入手)方法 手縫い 単衣仕立て
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 角館さえ



写真番号 168



写真番号 169



写真番号 170

写真番号 171・172・173
 分類名 下衣
 地区別の呼称 根子地区…はかま 比立内地区…はかま
 打当地区…はかま
 重量 171…250g 172…235g 173…230g
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)



写真番号 171



写真番号 172



写真番号 173

写真番号 174-1・174-2
 実測図番号 82
 分類名 下衣
 資料名(地方) 麻ばかま
 よみ Asa-bakama
 地区別の呼称 根子地区…麻ばかま 比立内地区…麻ばかま 打当地区…麻ばかま
 重量 365 g
 材料 生地…麻布・平織り・糸の密度(5mm四方 経糸3~4本×緯糸2~3本)・糸の太さにばらつきあり(粗い)・生成・無地。腰紐…本体に同じ。縫い糸…白色の綿糸。紐の素材はアサ?
 用途 秋から冬にかけて「またぎ(狩猟)」の時に着る衣類。[麻ばかま]は雪が付きにくく、雪がついても凍らないので、一番外側に着用した。
 使用方法 着用時は紐の裾を絞り込んで結ぶ。
 製作(入手)方法 手縫い。単衣仕立て。この[麻ばかま]は男物であるが、前の股部分に開きがない。
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 名久井芳枝



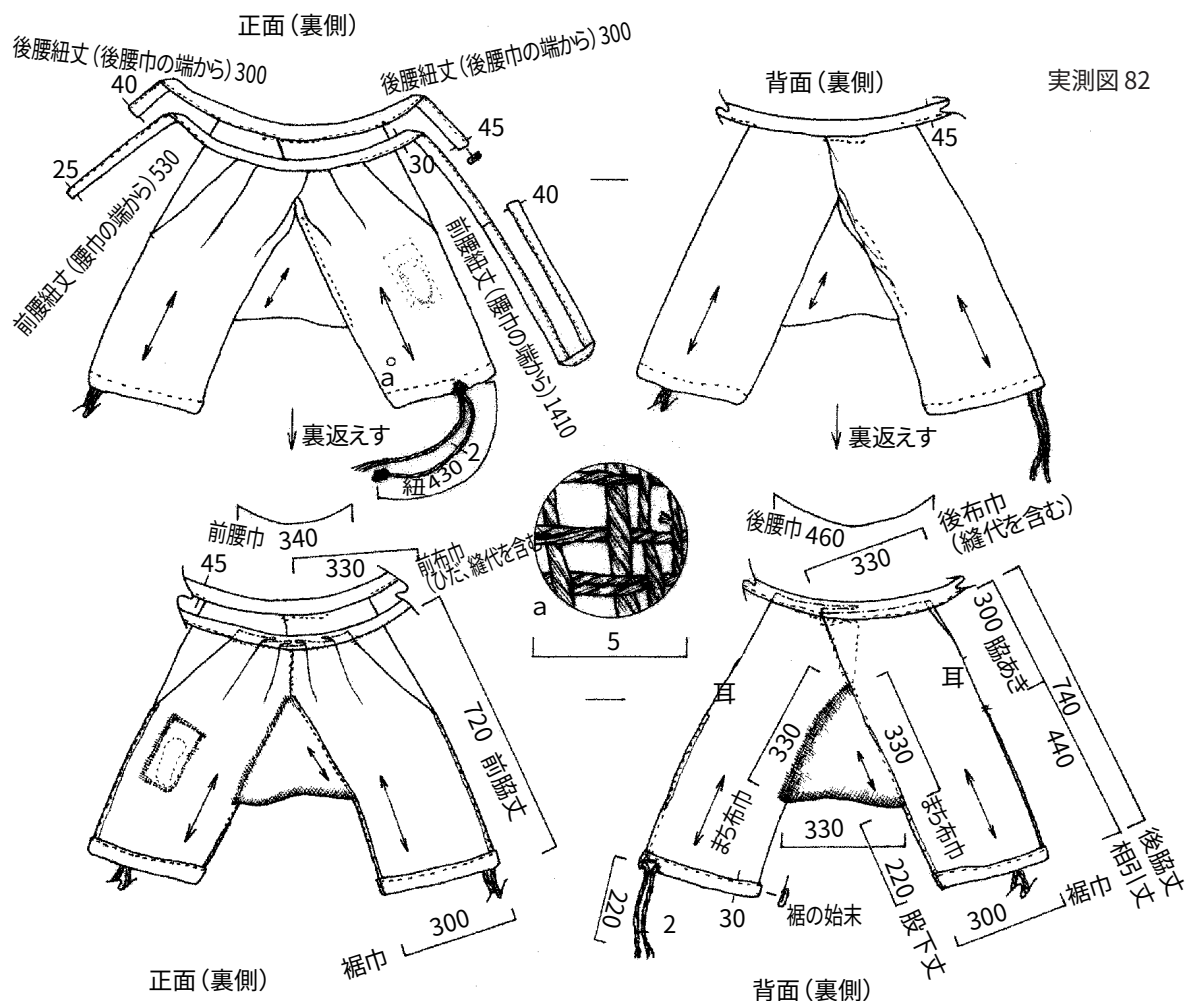
写真番号 174-3・174-4 麻布の拡大写真



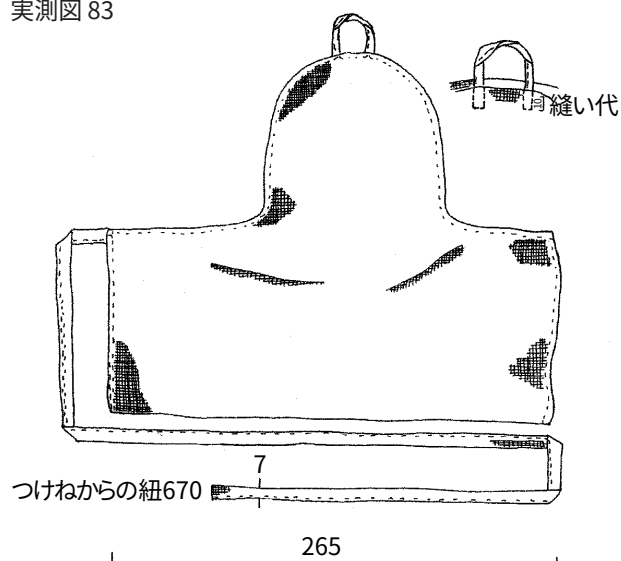
写真番号 174-1



写真番号 174-2



実測図 83



- 写真番号 175
 実測図番号 83
 分類名 手に着けるもの
 資料名 (地方) てうえ (3地区ともに同じ呼称)
 よみ Te-ue
 重量 35g
 材料 表地・裏地…メリンス地・平織り・糸の密度 (5mm四方経糸12本×緯糸12本)・黒色の無地。縫い糸…黒色の綿糸。
 用途 手の保護
 製作(入手)方法 手縫い 衿仕立て
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 武田千鳥



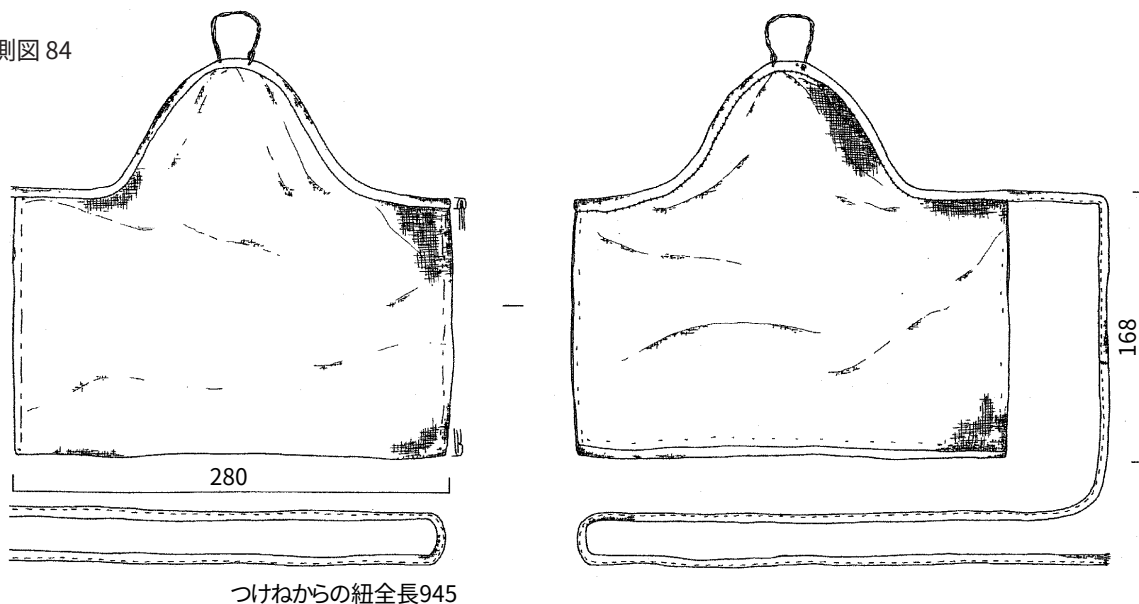
写真番号 176

写真番号 175

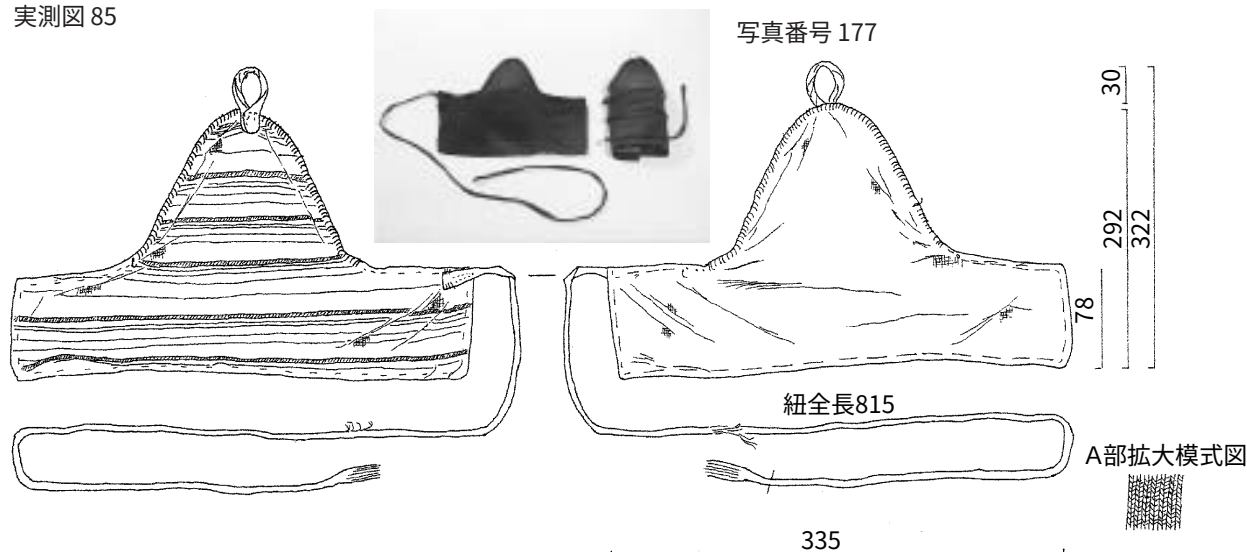


- 写真番号 176
 実測図番号 84
 分類名 手に着けるもの
 資料名 (地方) てうえ (3地区ともに同じ呼称)
 よみ Te-ue
 重量 55g
 材料 表地…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方経糸10本×緯糸10本)・紺色の無地・先染め。裏地…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方経糸10本×緯糸9本)・水色の無地・後染め。縫い糸…黒色の木綿糸。
 用途 手の保護
 製作(入手)方法 手縫い 衿仕立て
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

実測図 84



実測図 85



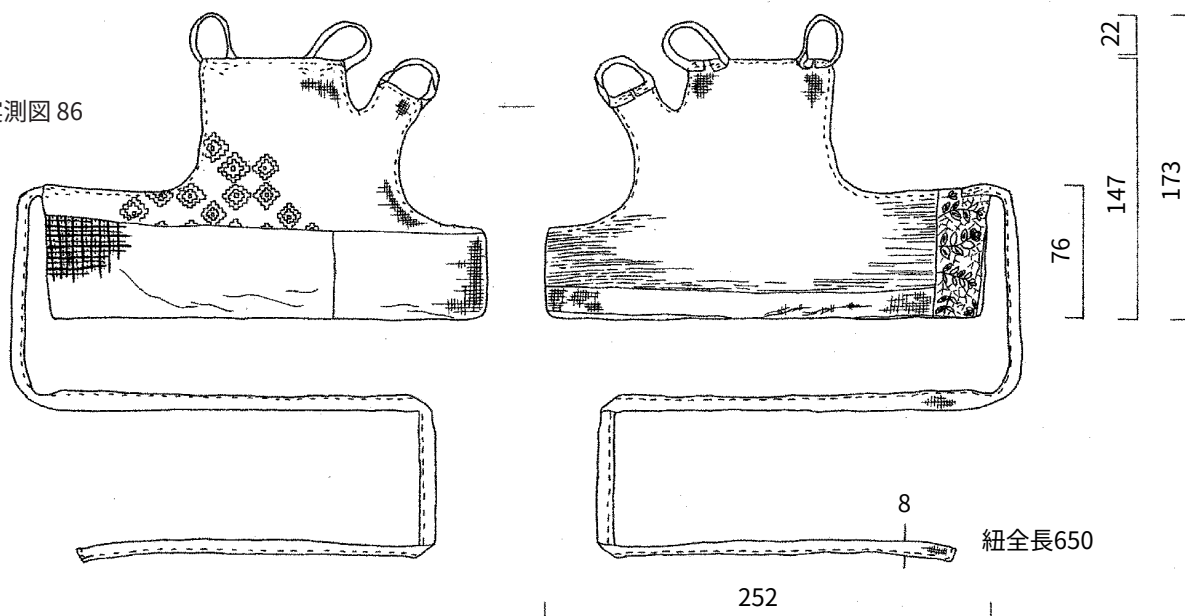
写真番号 177
 実測図番号 85
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てうえ(3地区ともに同じ呼称)
 よみ Te-ue
 重量 52g
 材料 表地…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸12本×緯糸12本)・紺色の無地。裏地…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸8本×緯糸8本)・紫色の地に薄茶色の縞模様。
 用途 手の保護
 製作(入手)方法 手縫い 袷仕立て
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 湯沢こずえ

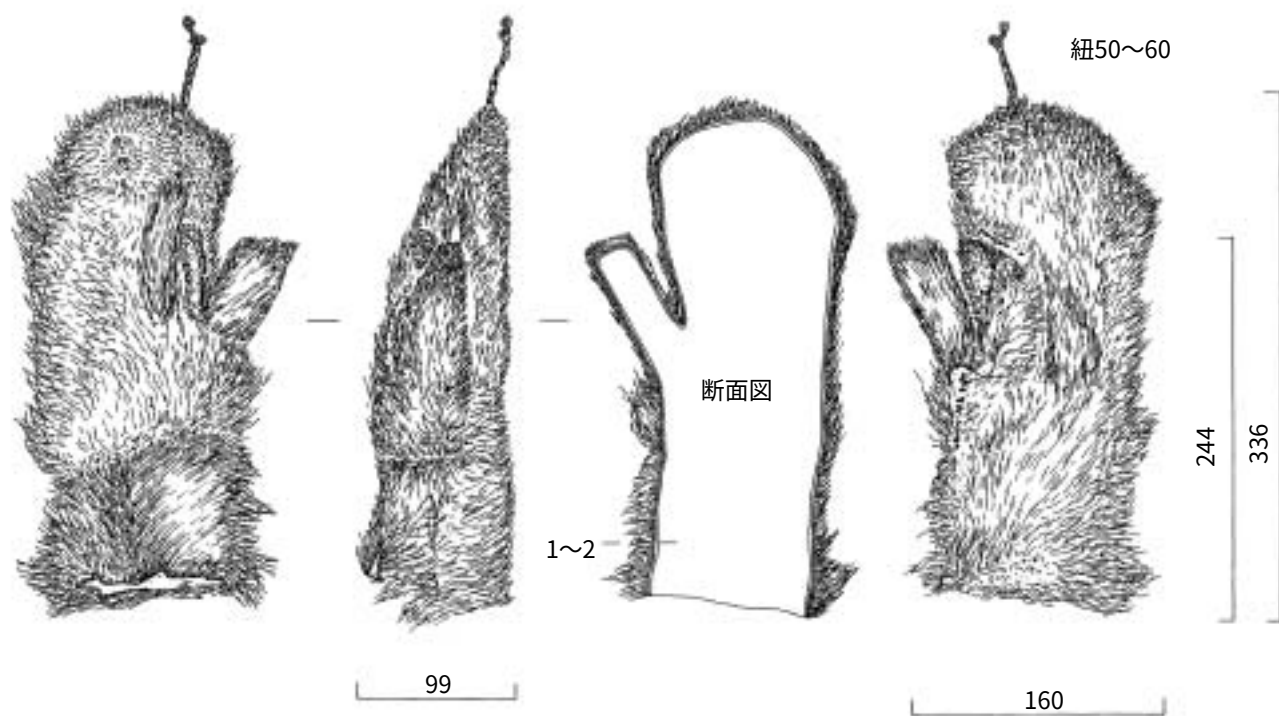


写真番号 178

写真番号 178
 実測図番号 86
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てうえ(3地区ともに同じ呼称)
 よみ Te-ue
 重量 片方 10.5 g
 材料 生地A…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸16本×緯糸18本) 生地B…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸13本×緯糸17本) 生地C…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸15本×緯糸13本)。生地D…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸12本×緯糸12本)。生地E…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸16本×緯糸12本)。生地F…綿布・平織り・糸の密度(5mm四方経糸13本×緯糸12本)。縫い糸…黒色の綿糸。
 用途 手の保護
 製作(入手)方法 手縫い 袷仕立て
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 菅原一彦 田崎美紀子

実測図 86





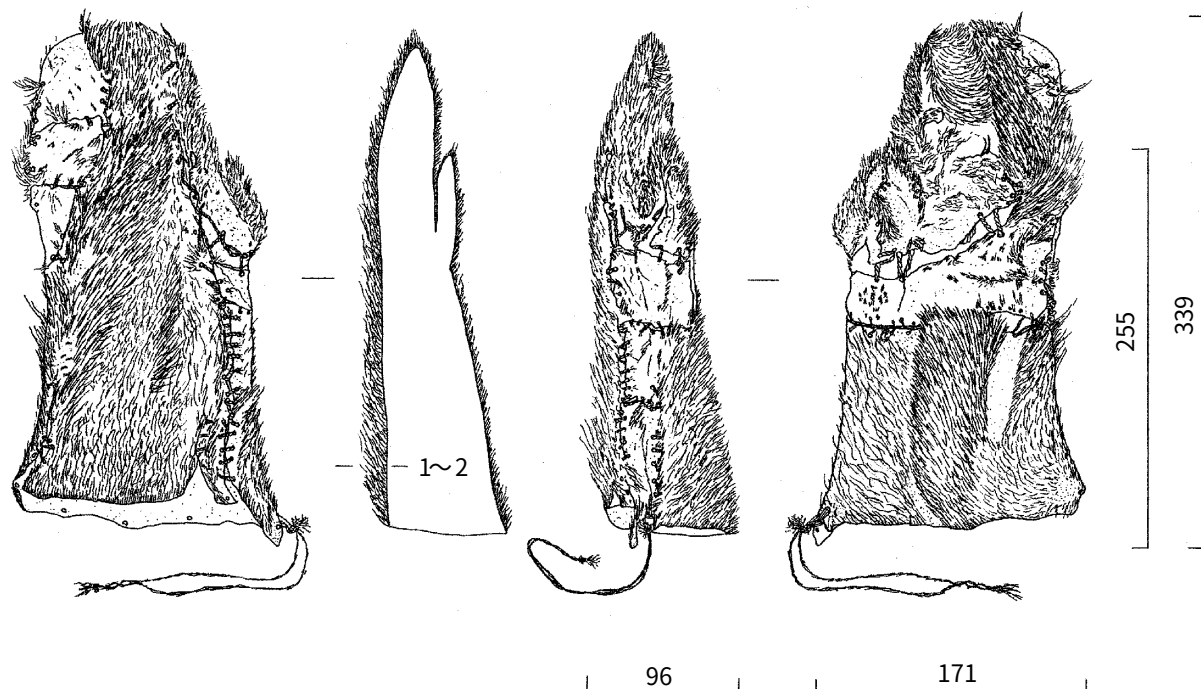
実測図 87



写真番号 179

写真番号 179
 実測図番号 87
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てつきやあし(てくりきやあし)
 よみ Tekkyashi(Tekurikyashi)
 地区別の呼称 根子地区…てつきえあす 比立内地区…てつきやあす 打当地区…てつきやあし
 重量 右手 123 g
 材料 アオシシ(カモシカ)の毛皮
 用途 防寒
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

実測図 88



写真番号 180
 実測図番号 88
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てっきやあし(てくりきやあし)
 よみ Tekkyashi(Tekurikyashi)
 地区別の呼称 根子地区…てっきえあす
 比立内地区…てっきやあす
 打当地区…てっきやあし
 重量 左手 100 g
 材料 アオシシ(カモシカ)の毛皮
 用途 防寒
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子



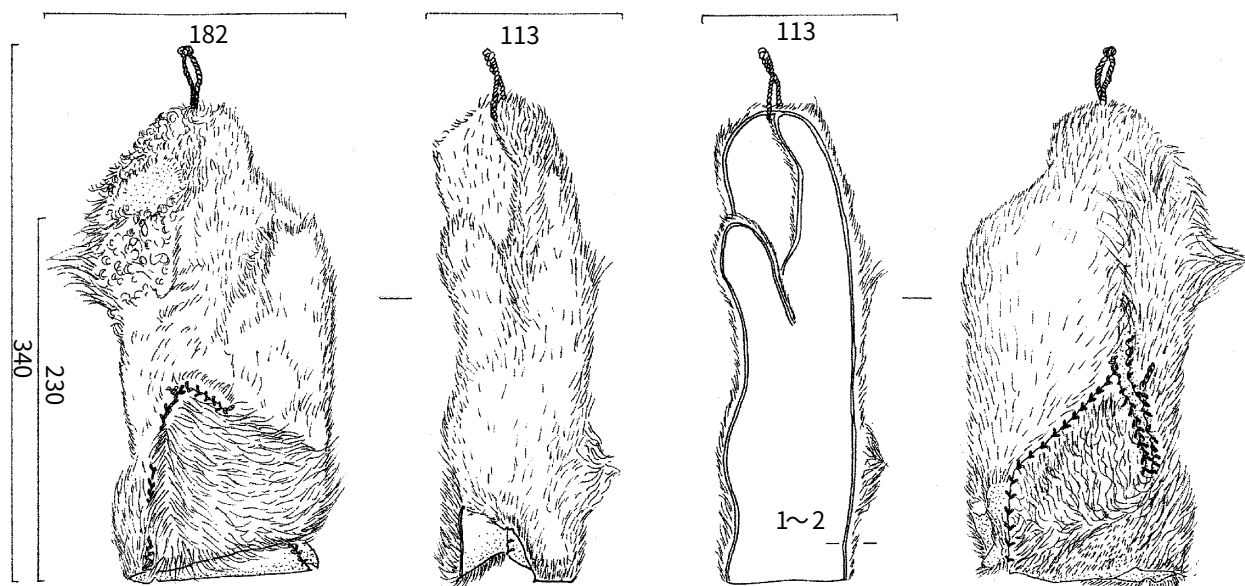
写真番号 180



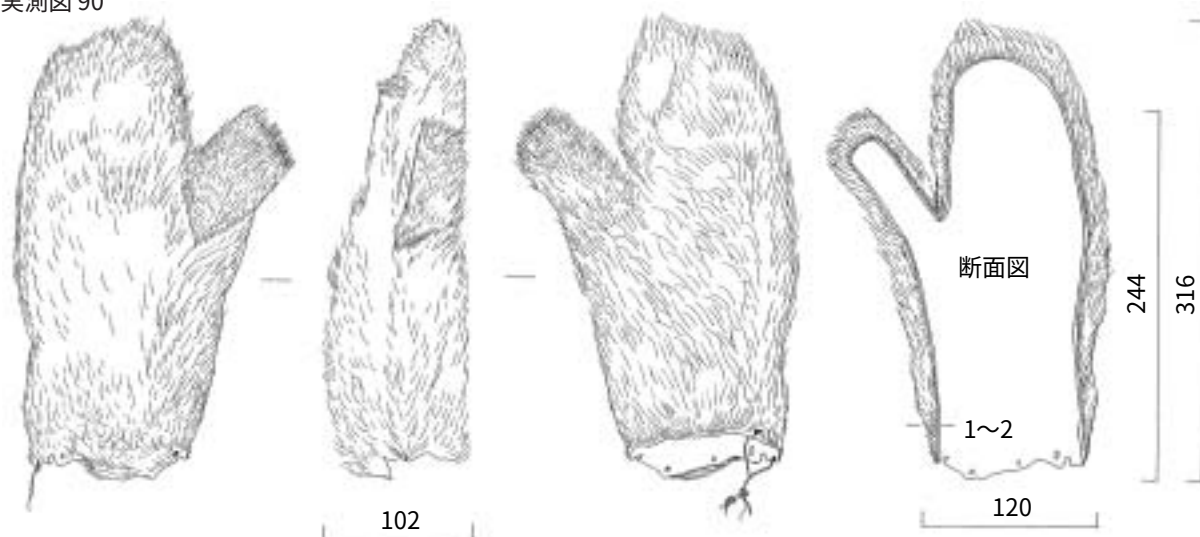
写真番号 181

写真番号 181
 実測図番号 89
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てっきやあし
 (てくりきやあし)
 よみ Tekkyashi(Tekurikyashi)
 地区別の呼称 根子地区…てっきえあす
 比立内地区…てっきやあす
 打当地区…てっきやあし
 重量 両方で 315g
 材料 アオシシ(カモシカ)の毛皮
 用途 防寒
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 武田千鳥

実測図 89



実測図 90



写真番号 182



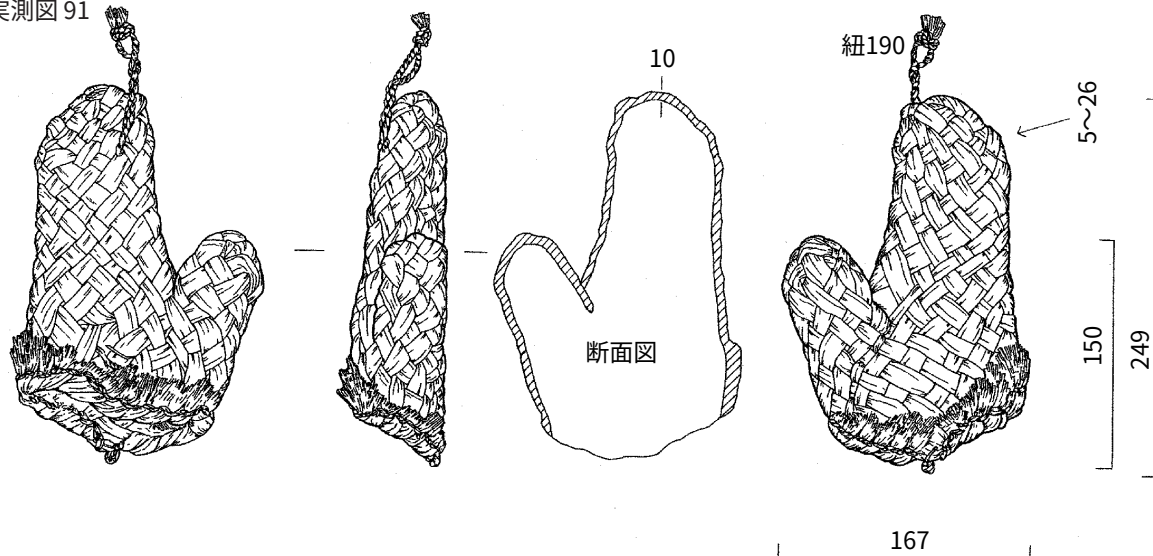
写真番号 182
 実測図番号 90
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てっきやあし(てくりきやあし)
 よみ Tekkyashi(Tekurikyashi)
 地区別の呼称 根子地区…てっきえあす
 比立内地区…てっきやあす
 打当地区…てっきやあし
 重量 片方 130g
 材料 アオシシ(カモンシカ)の毛皮
 用途 防寒
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

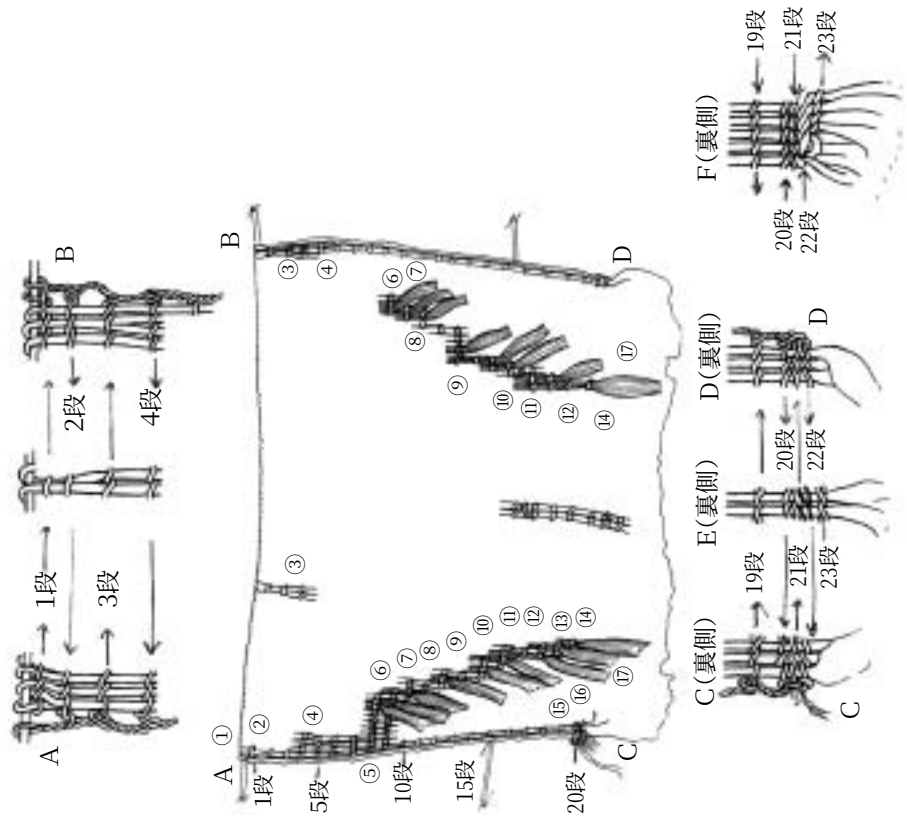
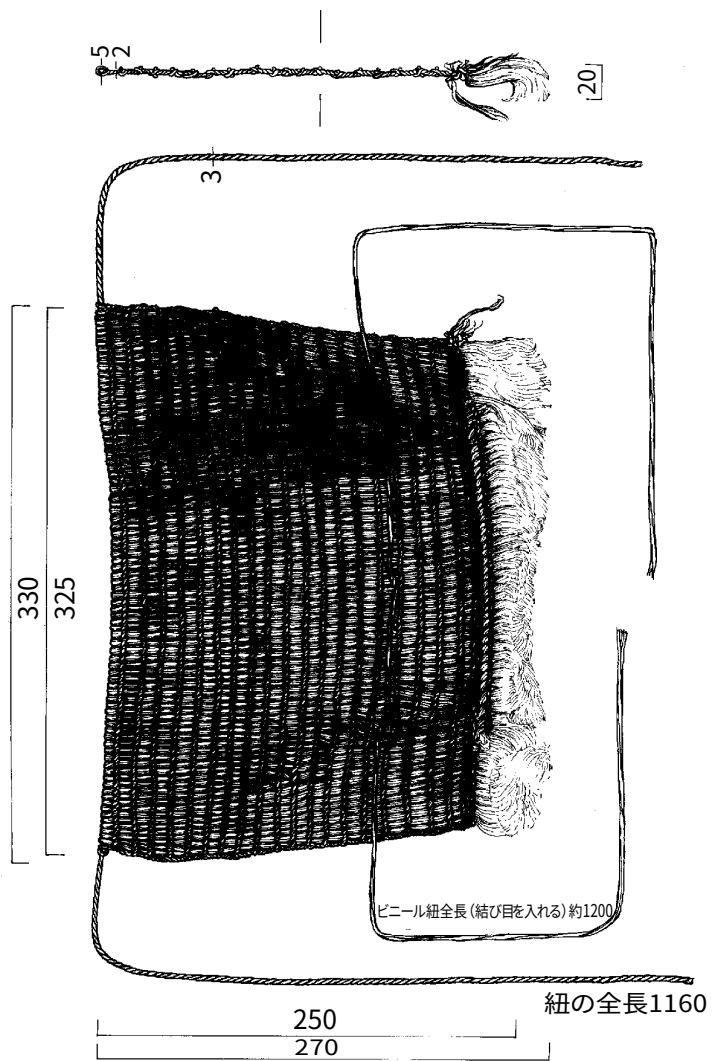
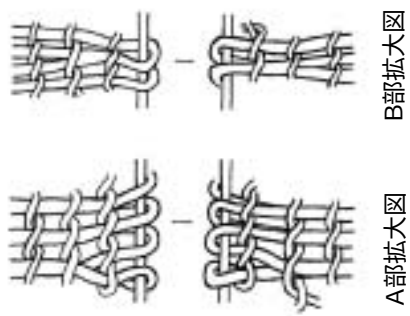
写真番号 183



写真番号 183
 実測図番号 91
 分類名 手に着けるもの
 資料名(地方) てっきやあし(てくりきやあし)
 よみ Tekkyashi(Tekurikyashi)
 地区別の呼称 根子地区…てっきえあす
 比立内地区…てっきやあす
 打当地区…てっきやあし
 重量 左手 78 g
 材料 藁材
 用途 防寒。「またぎ(狩猟)」用ではない。
 旧所有者 戸嶋清勝(三枚地区、寄託)
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子

実測図 91





実測図番号 92 「はばき」

「はばき」の構造と製作手順（聞き取り調査ができないため、製作手順は推測である）

資料の裏面にて説明

目は全て裏面の各段左側から数える。

1. 全長 1160mm の「みご縄」を用意し、張り渡す。

① 「みご縄」の 390mm の所から経芯 81 本をかける。目は 825 目

② 緯芯 1 段を編み始める (A)。1 本目の材の半分が 2 本目の材の片側に重なるように分けて 1 目編み、2 本目の片側の材は 3 本目の片側の材に重なる。1 段目の最後の部分 (B) でも順序は逆になるが同様の作業を行う。

2. 次に編み芯を、張り渡した「みご縄」に引っ掛けて、撚りあわせながら 2 段目に入る (B)。2 段目はそのまま編み進み、3 段目に入る前に A 図のように張り渡した「みご縄」に引っ掛ける。以後 20 段まで両側の始末は同様に行う。

③ 3 段目は 28 本目と 81 本目で 2 分される。2 目増える。

④ 5 段目は経芯 4 本目と 5 本目、さらに 82 本目と 83 本目が合わされ 2 目減る。

⑤ 8 段目で 1 本目と 2 本目を合わせて 1 目減る。

⑥ 9 段目で経芯 9 本目が裏側に抜ける。さらに経芯 71 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑦ 10 段目で経芯 9 本目が裏に抜ける。さらに経芯 69 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑧ 11 段目で経芯 10 本目が裏に抜ける。さらに経芯 67 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑨ 13 段目で経芯 12 本目が裏に抜ける。さらに経芯 62 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑩ 15 段目で経芯 13 本目が裏に抜ける。さらに経芯 59 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑪ 16 段目で経芯 14 本目が裏に抜ける。さらに経芯 57 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑫ 18 段目で経芯 14 本目が裏に抜ける。さらに経芯 54 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑬ 19 段目で経芯 15 本目が裏に抜け 1 目減る。

⑭ 20 段目で経芯 15 本目が裏に抜ける。さらに経芯 51 本目が裏側に抜け 2 目減る。

⑮ 21 段目を 64 目今までと同じように、右下がりに編み込む。

⑯ 22 段目は 64 目を左下がりに編み込む。

3. 房となる材を加える (C・D・E・F)。

⑰ 23 段目は表側から 10 目左下がりに編み込み、11 目で材を絡げてとめる。12 目から房となる材を E のように加えながら 54 目まで編み込み、55 目で材を絡げてとめる。

※裏面には 9 箇所糸を縫い合わせている結び目がある。



写真番号 184

写真番号 184

実測図番号 92

分類名 足に着けるもの

資料名 (地方) はばき

よみ Habaki

地区別の呼称 根子地区…はばき 比立内地区…はばき

打当地区…はんばき

重量 片方 135 g

材料 みご (稲藁の穂先の部分) 材

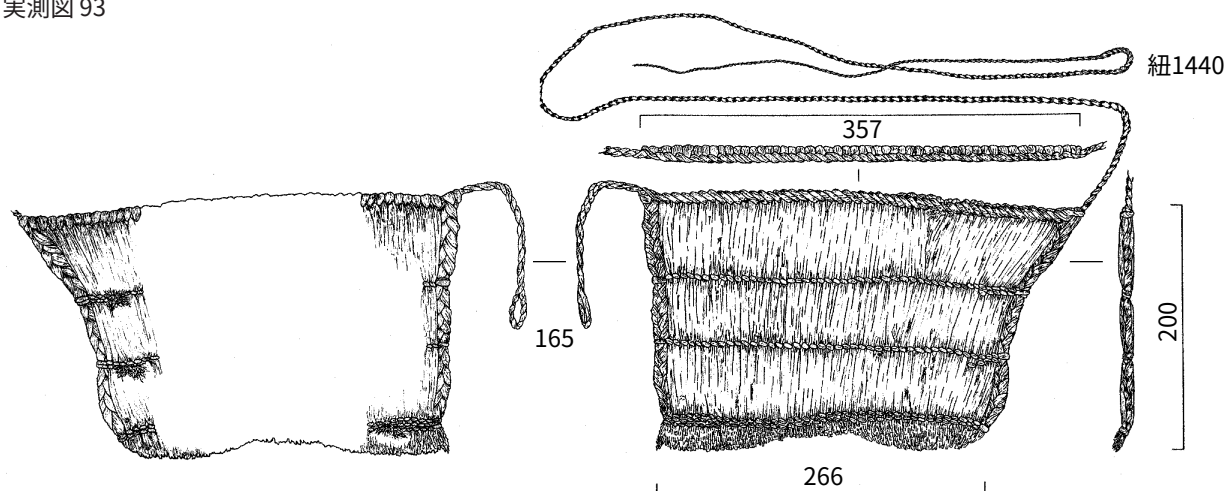
用途 柴などで脛が傷つかないように保護する。「またぎ (狩猟)」用ではない。

旧所有者 戸島敬三郎 (寄託)

収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)

作図者名 名久井芳枝

実測図 93

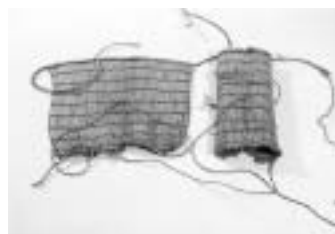


写真番号 185
 実測図番号 93
 分類名 足に着けるもの
 資料名（地方） はばき
 よみ Habaki
 地区別の呼称 根子地区…はばき 比立内地区…はばき
 打当地区…はんばき
 重量 片方 100 g
 材料 藁材
 用途 柴などで脛が傷つかないように保護する。
 収蔵施設 マタギ資料館（収蔵庫）
 作図者名 田崎美紀子

写真番号 186
 実測図番号 94
 分類名 足に着けるもの
 資料名（地方） はばき
 よみ Habaki
 地区別の呼称 根子地区…はばき 比立内地区…はばき
 打当地区…はんばき
 重量 片方 110g
 材料 ガマ材
 用途 柴などで脛が傷つかないように保護する。
 収蔵施設 マタギ資料館（収蔵庫）
 作図者名 武田千鳥

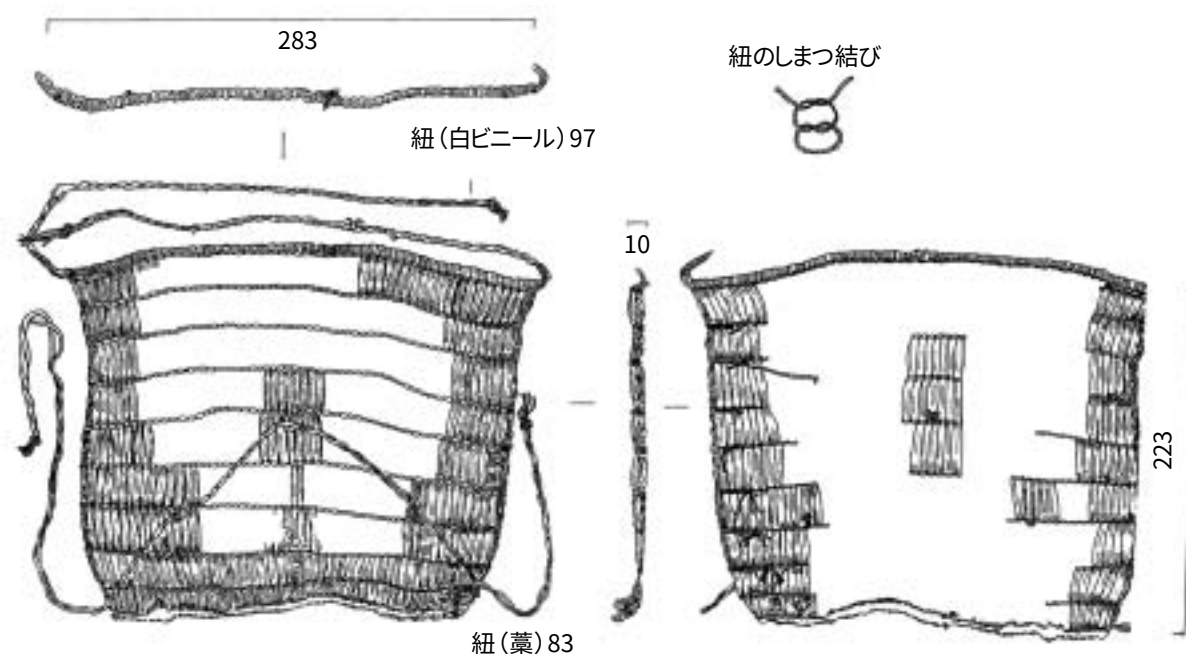


写真番号 185



写真番号 186

実測図 94

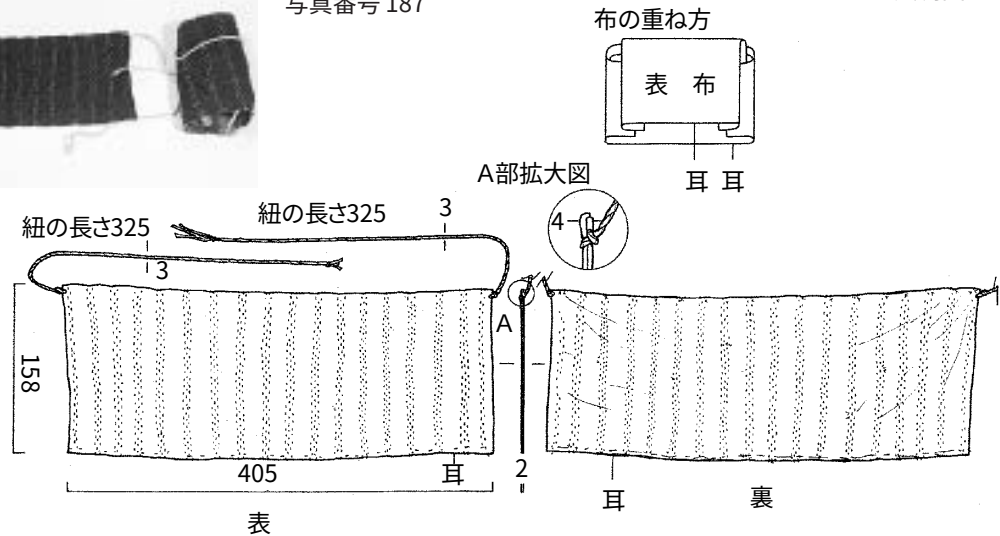


紐(藁)83

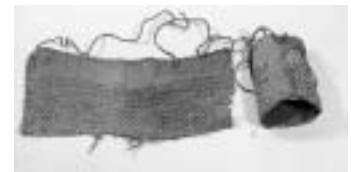


写真番号 187

実測図 95



- 写真番号 187・188・189
 実測図番号 95 (写真番号 187)
 分類名 足に着けるもの
 資料名 (地方) こはばき
 よみ Ko-habaki
 地区別の呼称 根子地区…こはんばき 比立内地区…こはばき 打当地区…こはんばき
 重量 187…片方 26 g 188…70g 189…50g
 材料 表地…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方経糸 10本×緯糸 11本)・紺色の無地。裏地…綿布・平織り・糸の密度 (5mm四方経糸 9本×緯糸 9本)。縫い糸…黒色綿糸の 1 本どり。刺し糸…白色綿糸の 2 本どり。紐…麻布。
 用途 [毛たび] を履く際に「あくど (踵)」に巻き付けて雪が入らないようにした。[毛たび] の場合は着けない場合もあったが、[つまご] を履く時には必ず着けた。
 製作 (入手) 方法 手縫い。拾仕立て。表地と裏地を合わせて仕立て、その上で刺し子を施す。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 角館さえ



写真番号 188

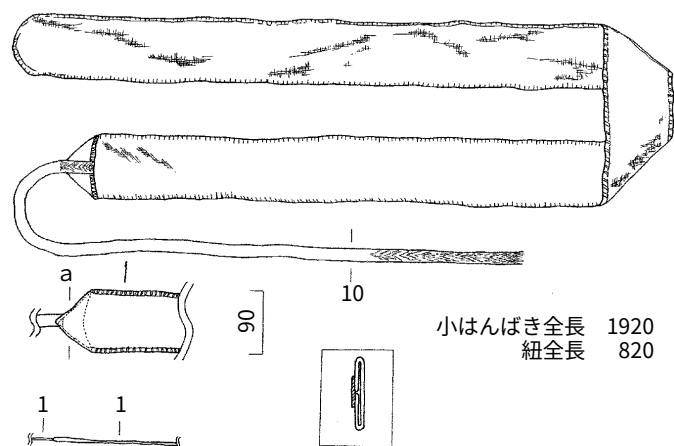


写真番号 189



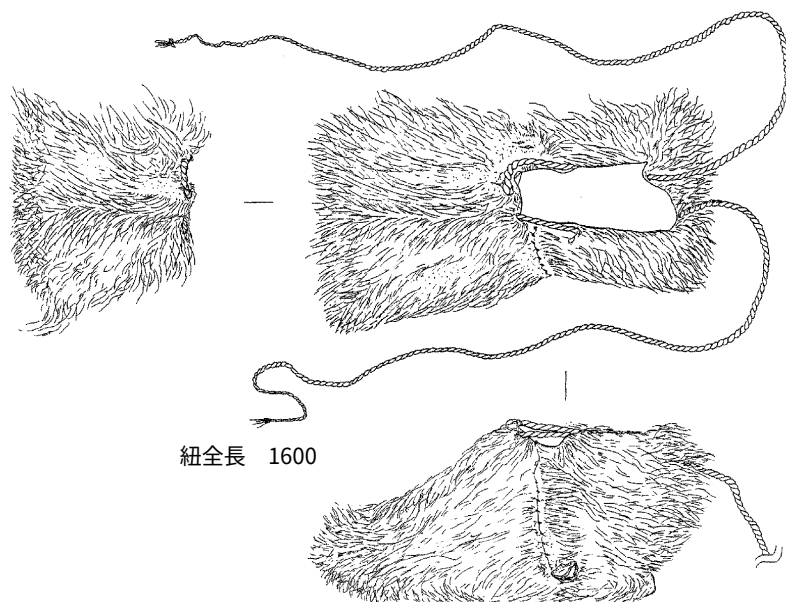
写真番号 190

実測図 96

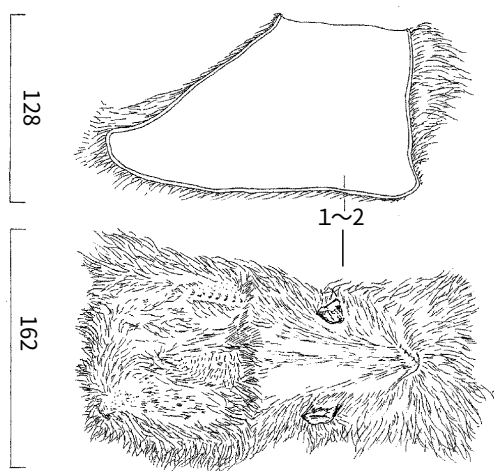


- 写真番号 190
 実測図番号 96
 分類名 足に着けるもの
 資料名 (地方) 小はんばき (ゲートル状)
 よみ Ko-hanbaki (Gétorujō)
 重量 139.2g
 用途 山を歩く時、柴などから足を保護する
 備考 戦時中の兵隊が使用したものかもしれない。詳細不明。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

小はんばき全長 1920
 紐全長 820



紐全長 1600

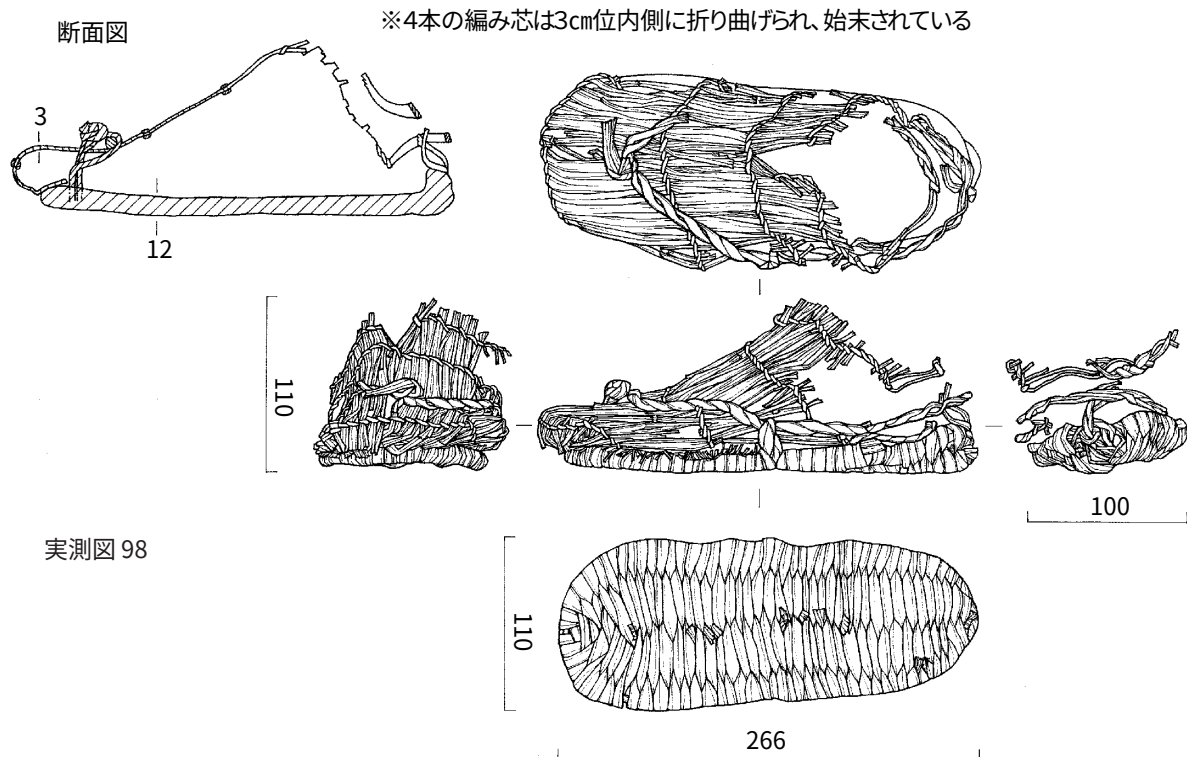


写真番号 191



写真番号 192

- 写真番号 191・192
 実測図番号 97 (写真番号 191)
 分類名 履き物
 資料名 (地方) あぶけぐるみ
 よみ Abuke-gurumi
 地区別の呼称 根子地区…毛たび 比立内地区…毛たび 打当地区…毛たび
 重量 191…片方 100 g 192…250g
 材料 カモシカの毛皮
 用途 「またぎ (狩猟)」の時の履き物。素足に履くのではなく、「あくど (踵)」に「こはばき」を着けてから履く。
 使用方法 履く時は水に浸けて柔らかくしてから履く。
 備考 付け札には「あぶけぐるみ」の名称が付いているが、3地区の聞き取り調査では確認できなかった。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 193・194
 実測図番号 98 (写真番号 193)
 分類名 履き物
 資料名 (地方) つまご
 よみ Tsuma-go
 地区別の呼称 根子地区…つまご 比立内地区…つまご
 打当地区…ちまご
 重量 193…160g 194…410g
 材料 藁材
 用途 冬の履き物。マタギも「毛たび」を持っていない人は履いた。「蚊よけ」として夏も履く事があった。川など、ヘビがいるところでも履いていた。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 角館さえ



写真番号 193

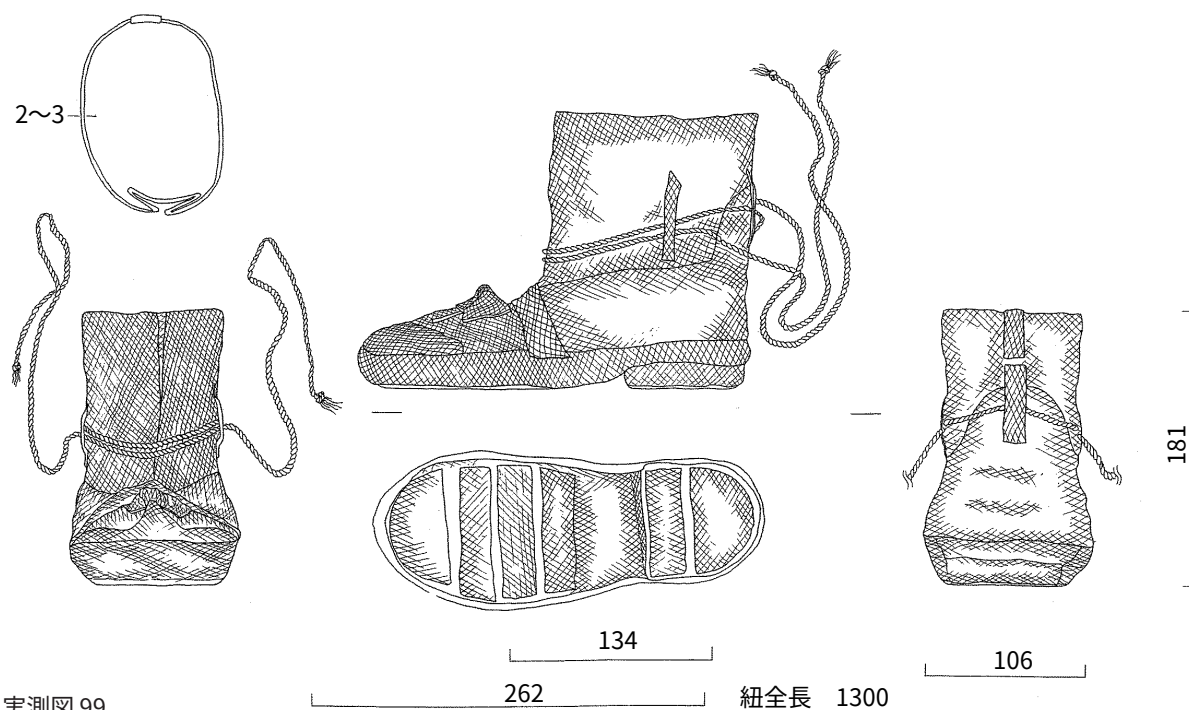


写真番号 194



写真番号 195

写真番号 195
 分類名 履き物
 資料名 (地方) わらじ
 よみ Waraji
 重量 205g
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)



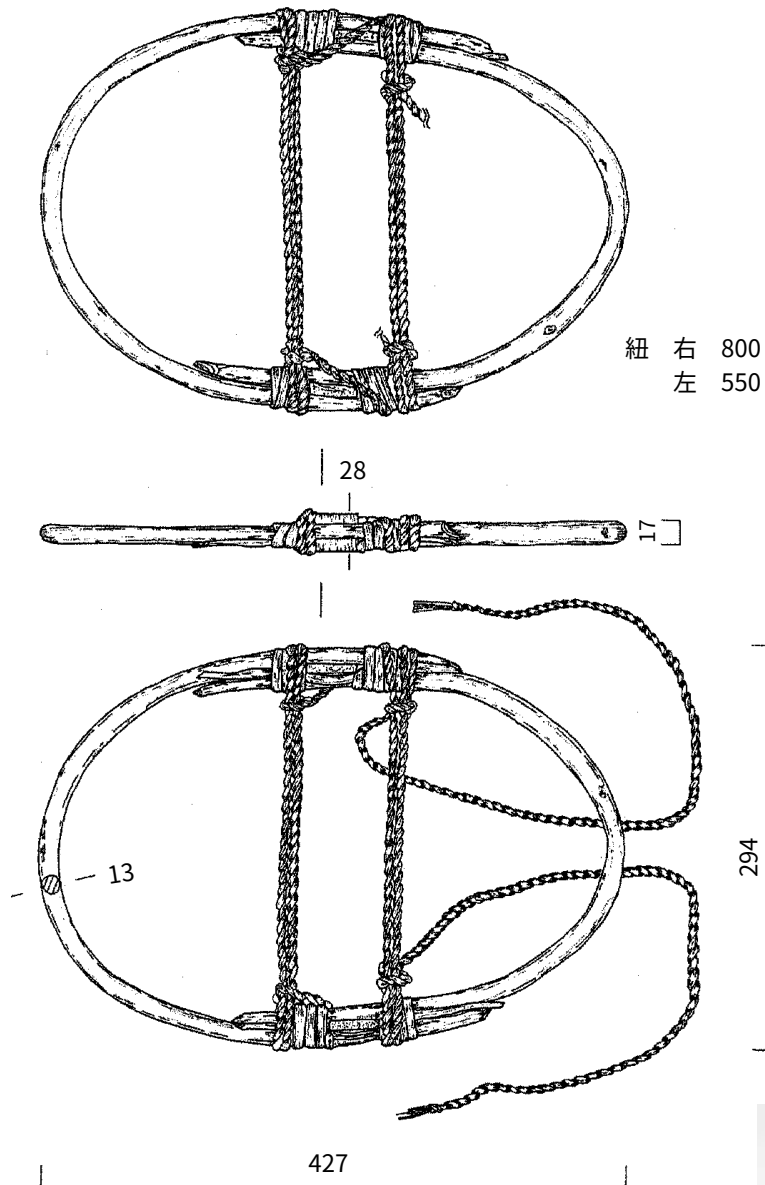
実測図 99



写真番号 196

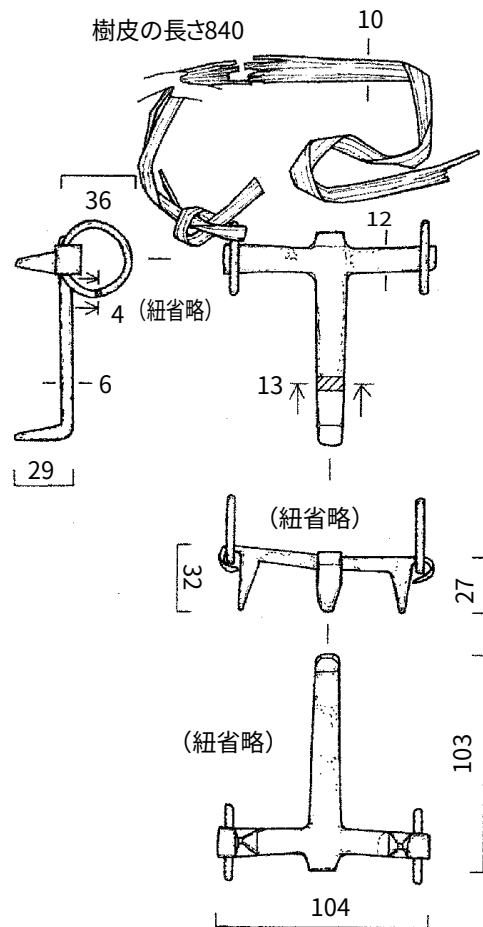
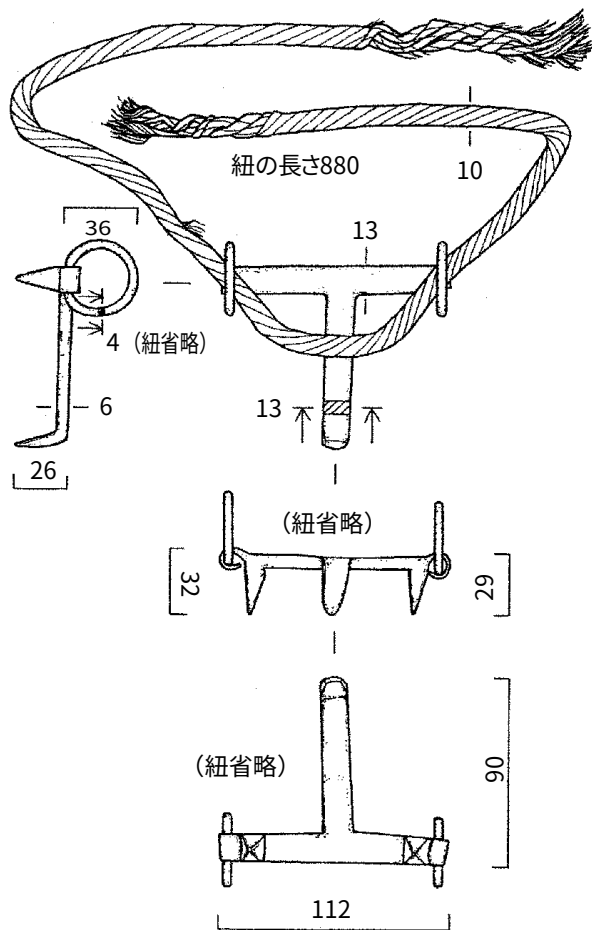
写真番号 196
 実測図番号 99
 分類名 履き物
 資料名（地方） 生ぼっこ
 よみ Nama-bokko
 地区別の呼称 根子地区…生ぼっこ 比立内地区…生ぼっこ 打当地区…生ぼっこ
 重量 740g
 材料 生ゴム
 用途 [つまご] の後に出てきた履き物。「またぎ（狩猟）」や山仕事の時に履いた。
 収蔵施設 マタギ資料館（収蔵庫）
 作図者名 田崎美紀子

実測図 100



写真番号 197

- 写真番号 197
 実測図番号 100
 分類名 履き物
 資料名 (地方) かんじき
 よみ Kanjiki
 地区別の呼称 根子地区…かんじき 比立内地区…かんじき 打当地区…きゃんずき
 重量 片方 190 g
 材料 前・後つば (本体) …トリキシバ 巻き締め材…サルナシ つめ (歯) …不明
 はね (足の甲を挟む場所) …マダ皮
 用途 雪の深い時は、足がずぶりと雪の中に入り込み歩けなくなるので、雪の中に足が沈み込まないように必ず履いた。
 製作(入手)方法 前後「つば」の材であるトリキシバは油気があり雪がつかない。夏に採取し、湯に入れて皮を剥き、曲げておく。
 備考 この「かんじき」は通常のものより大きい。大きさは雪質に関係している。この「かんじき」の「つめ」は切られている。「つめ」の大きさは大小ある。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

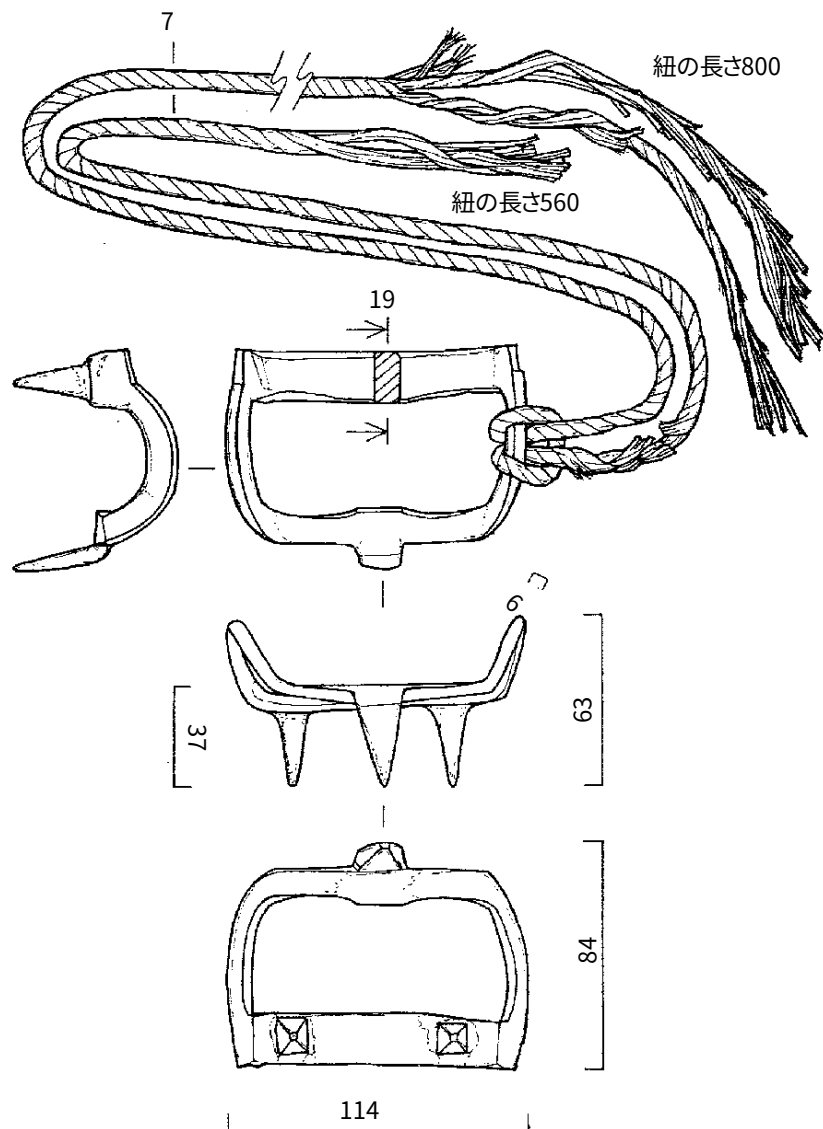


実測図 101



写真番号 198

- 写真番号 198 - 左
 実測図番号 101
 分類名 履き物
 資料名 (地方) つめ
 よみ Tsume
 地区別の呼称 根子地区…かなかんじき 比立内地区…かなかんじき 打当地区…かなきゃんじき
 重量 片方 150 g
 材料 鉄。フジ？
 用途 「春またぎ (狩猟)」の頃は、雪崩がおきたり、雪が解けて固くなっているため滑りやすい。そこで滑り止めとして履く。現在のスパイクと同じ役目。「またぎ」で歩く時のものは爪が長い。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 角館さえ

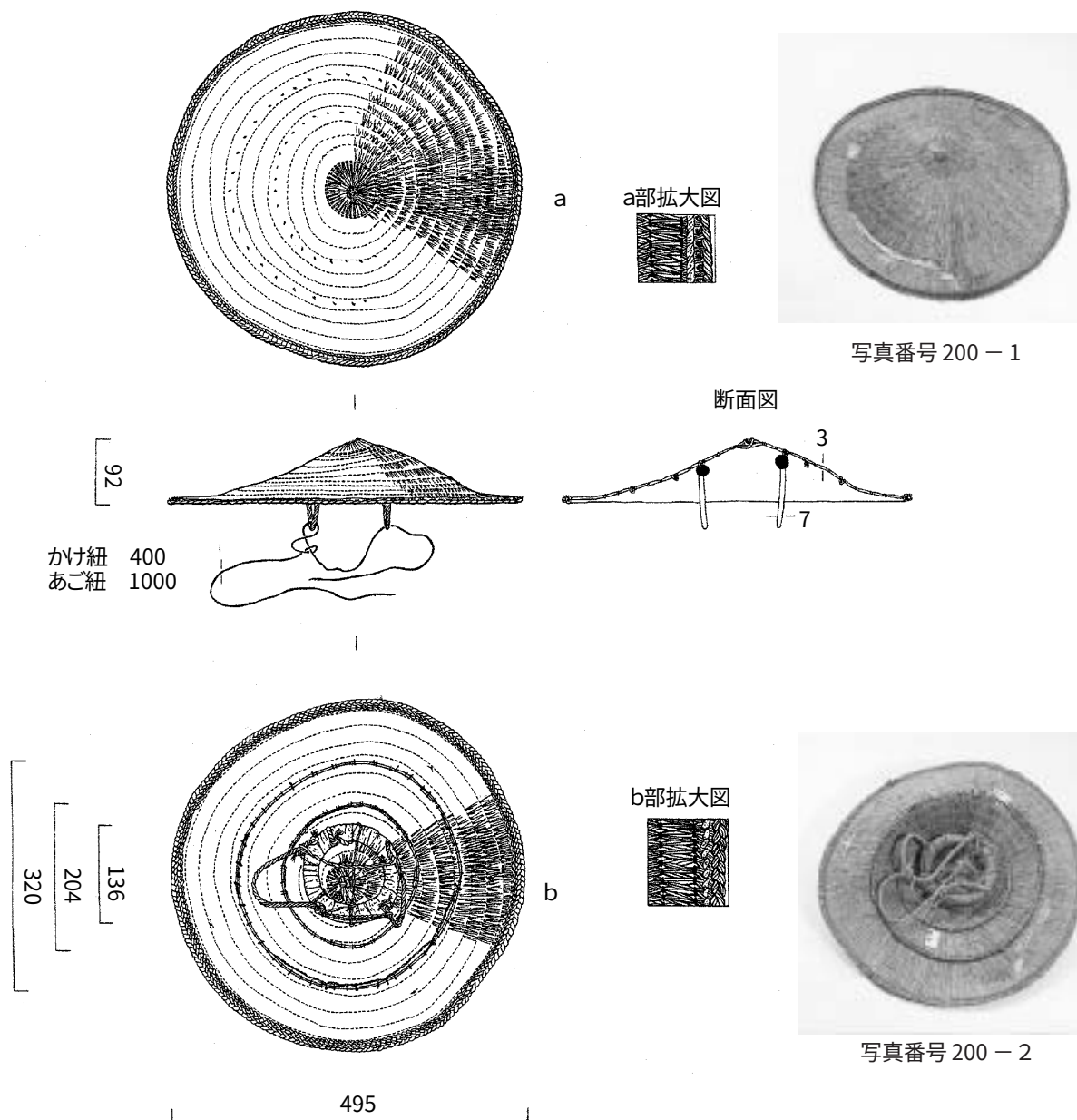


実測図 102



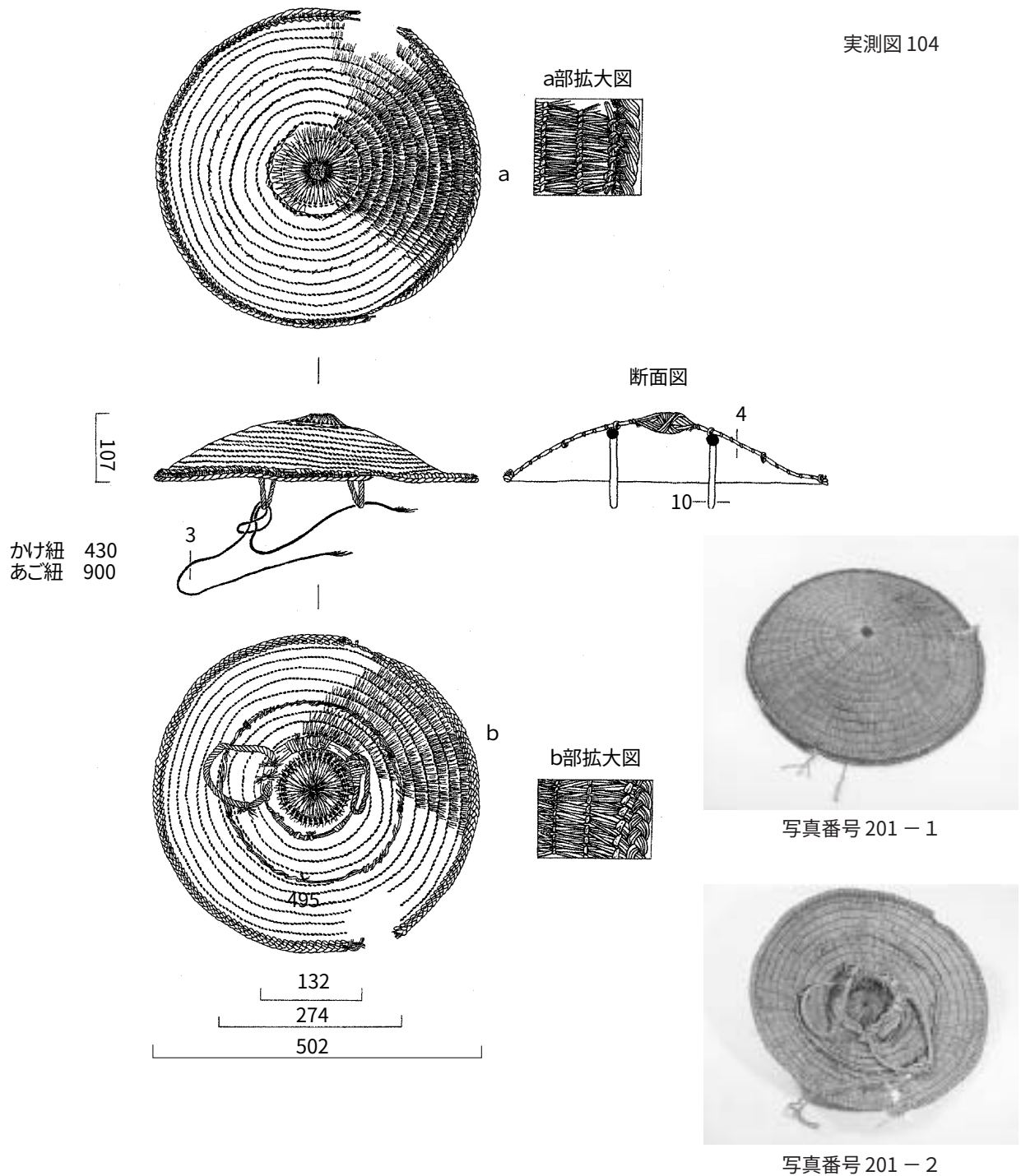
写真番号 199

- 写真番号 199
 実測図番号 102
 分類名 履き物
 資料名(地方) たかつめ(かなかんじき)
 よみ Taka-tsume(Kana-kanjiki)
 重量 片方 242 g
 材料 鉄。麻紐かマンダ(マダ=シナの木)紐か?
 用途 山仕事用。[そり]を引く人が履き物の底に付けて滑り止めとして使用。「またぎ(狩獵)」の時に使うものではない。
 備考 3地区の調査では実物を確認できなかった。
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 角館さえ

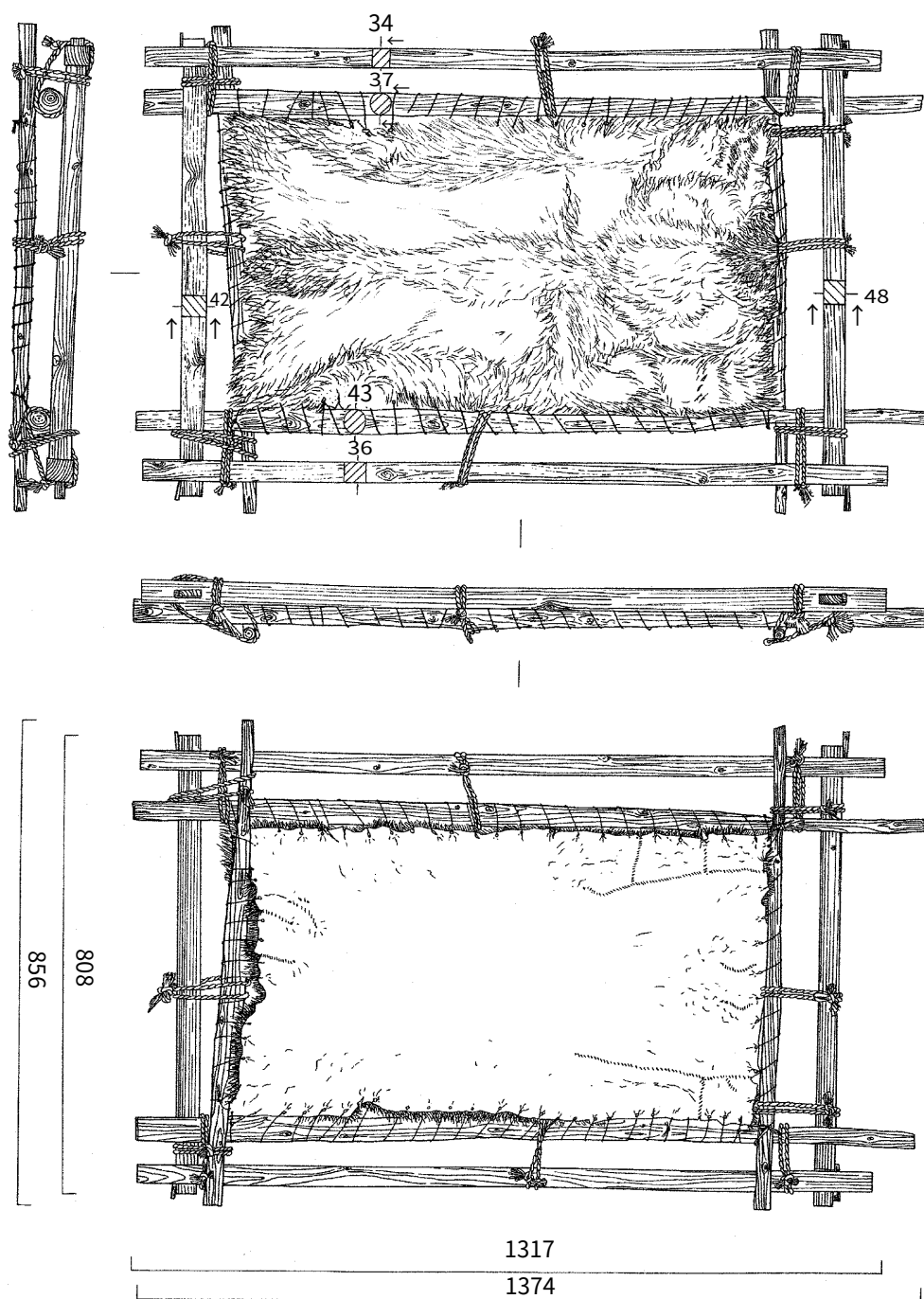


- 写真番号 200 - 1・200 - 2
 実測図番号 103
 分類名 被り物
 資料名 (地方) あまぶた
 よみ Ama-buta
 地区別の呼称 根子地区…あまぶた 比立内地区…山笠・あまぶた 打当地区…山笠・あまぶた
 重量 195 g
 材料 スゲ 藁材 頭に載せる部分…マンダ (マダ=シナの木) の皮
 用途 日よけ 雨よけ 防寒
 使用方法 四角い布を三角にして頭から耳を覆い、顎の下で結ぶ。その上に「あまぶた」を被る。
 旧所有者 福島 相 (荒瀬地区、寄託)
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

実測図 104



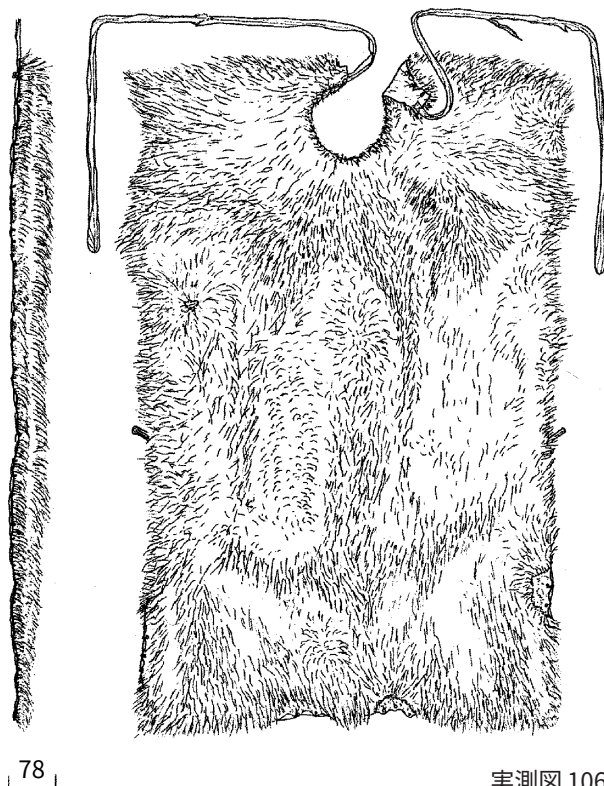
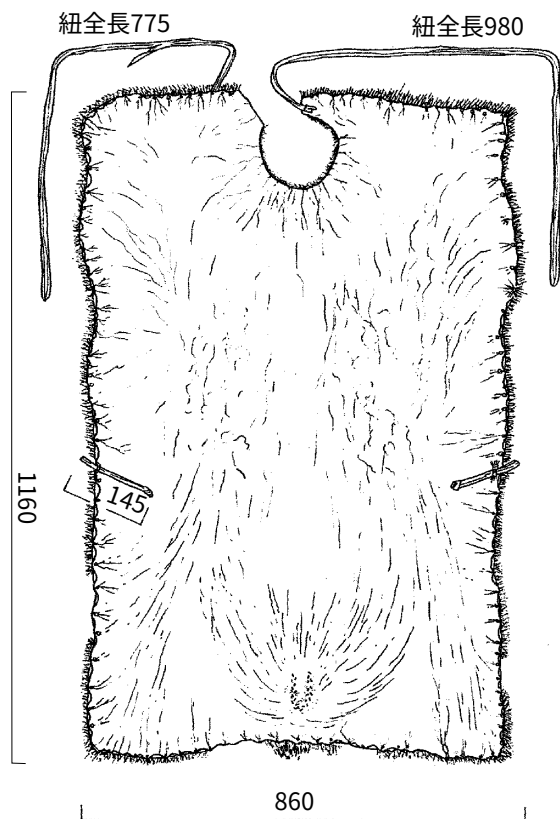
写真番号 201 - 1・201 - 2
 実測図番号 104
 分類名 被り物
 資料名 (地方) あまぶた
 よみ Ama-buta
 地区別の呼称 根子地区…あまぶた 比立内地区…山笠・あまぶた 打当地区…山笠・あまぶた
 重量 225 g
 材料 スゲ材 藁材
 用途 日よけ 雨よけ 防寒
 使用方法 四角い布を三角にして頭から耳を覆い、顎の下で結ぶ。その上に「あまぶた」を被る。
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 田崎美紀子



- 写真番号 202
 実測図番号 105
 分類名 防寒具
 資料名(地方) 皮のばし
 よみ Kawa-nobashi
 重量 4.95 kg
 材料 木杵…スギ材 藁縄 イヌ皮
 用途 動物の皮を剥ぎ取った後、張りのばして乾燥させる。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 202



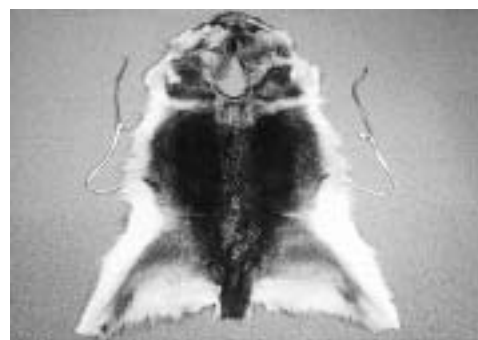
実測図 106



写真番号 203



写真番号 204

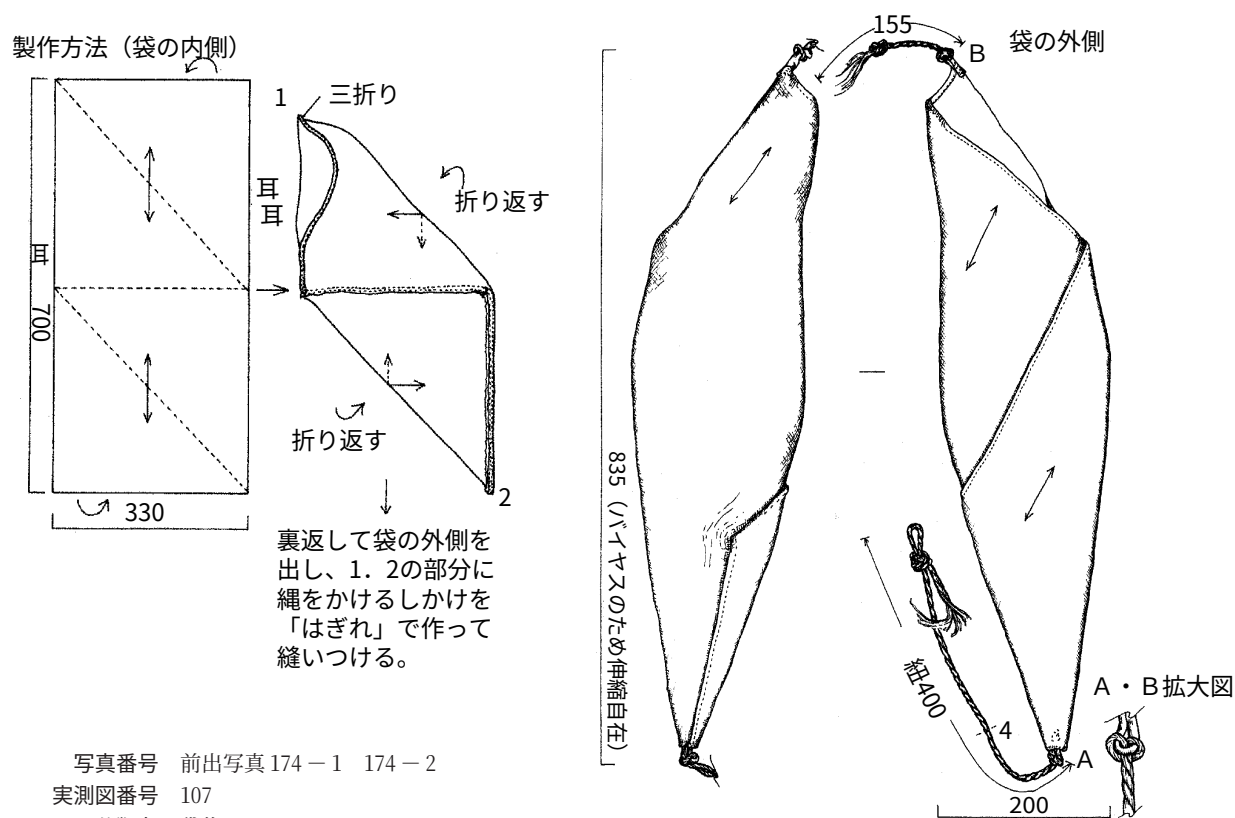


写真番号 205

写真番号 203・204・205
 実測図番号 106 (写真番号 203)
 分類名 防寒具
 資料名 (地方) 着皮
 よみ Ki-gawa
 地区別の呼称 根子地区…皮けら・皮 比立内地区…着皮 打当地区…着皮
 重量 203…1.24 kg 204…700g 205…795g
 材料 アオシシ (カモシカ) の毛皮 和装用の紐 (女物)。
 用途 防寒具
 旧所有者 203…八島八重 204…松橋ミチエ (寄託)
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 田崎美紀子

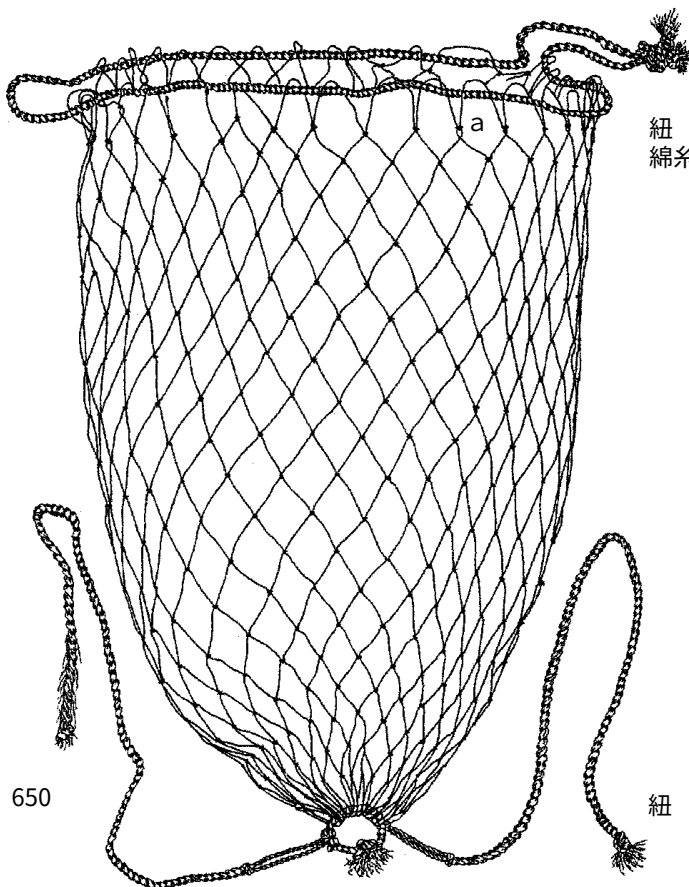
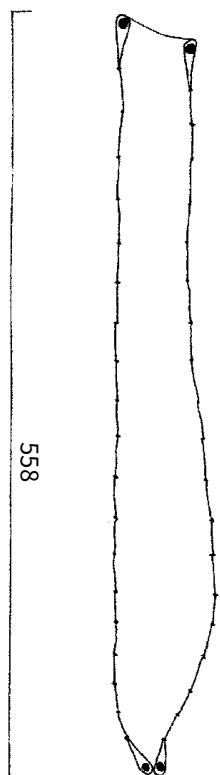
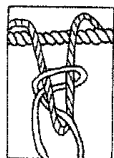
実測図 109、110 の「つかる」は「またぎ（狩猟）」に直接関係する資料ではないが、大変珍しい作り方をしている。初めて出合った製作方法のため実測図を作製した。聞き取り調査をさせて頂いたが、現時点では情報を持っておられる方に巡り会っていない。資料館には同種類の袋物が合計 4 点あるが、阿仁地域ではかつて普通に見られたものだったのだろうか。佐藤富久栄さんにお聞きしたところ、似たようなもののかつてブドウ蔓で作って「こだし」と言っていたのは知っているとの事であった。この資料は付け札に「つかる」とある。岩手県では「こだし」と呼ばれる物も「つかり」と呼ばれている物も両方あるが、こういう製作方法のものにはまだ出合っていない。最初に全長の「みご縄」を用意したのか、作りながら縄を編んでいったのかは不明だが、経芯は 1 本の縄で全て立ち上げられている。底部の作り方は大変合理的で、ある程度の大きさの物を運搬するには充分な構造である。この資料の製作者は時間をかけずに案外簡単にこの「もの」を作り上げる事ができたかもしれない。110 の資料は経芯の立て始めが側面にあるため、作り方も構造も単純になっており理解しやすい。109 の資料は同じ構造でありながら、経芯の始まりが背面の中央部にあった事で、構造を解明するためには時間がかかった。実測作図者側が作図するにあたっては大変難解な資料であった。

実測図 107



- 写真番号 前出写真 174-1 174-2
 実測図番号 107
 分類名 袋物
 資料名（地方） くらげ
 よみ Kurage
 地区別の呼称 根子地区…またぎ袋 比立内地区…くらげ・獲物入れ 打当地区…くらげ
 重量 40g
 材料 生地…麻布・平織り・糸の密度（5mm四方経糸8本×緯糸7本）・太さは0.1～0.3でばらつきがある。藍色の無地。先染め。紐…マダ（シナの木）の皮。縫い糸…茶色の綿糸。
 用途 「またぎ（狩猟）」に行く時はおにぎりや弁当を入れて行き、帰りには捕った獲物を入れて来る。
 製作（入手）方法 手縫い 単衣仕立て
 収蔵施設 マタギ資料館（収蔵庫）
 作図者名 名久井芳枝

a部拡大図



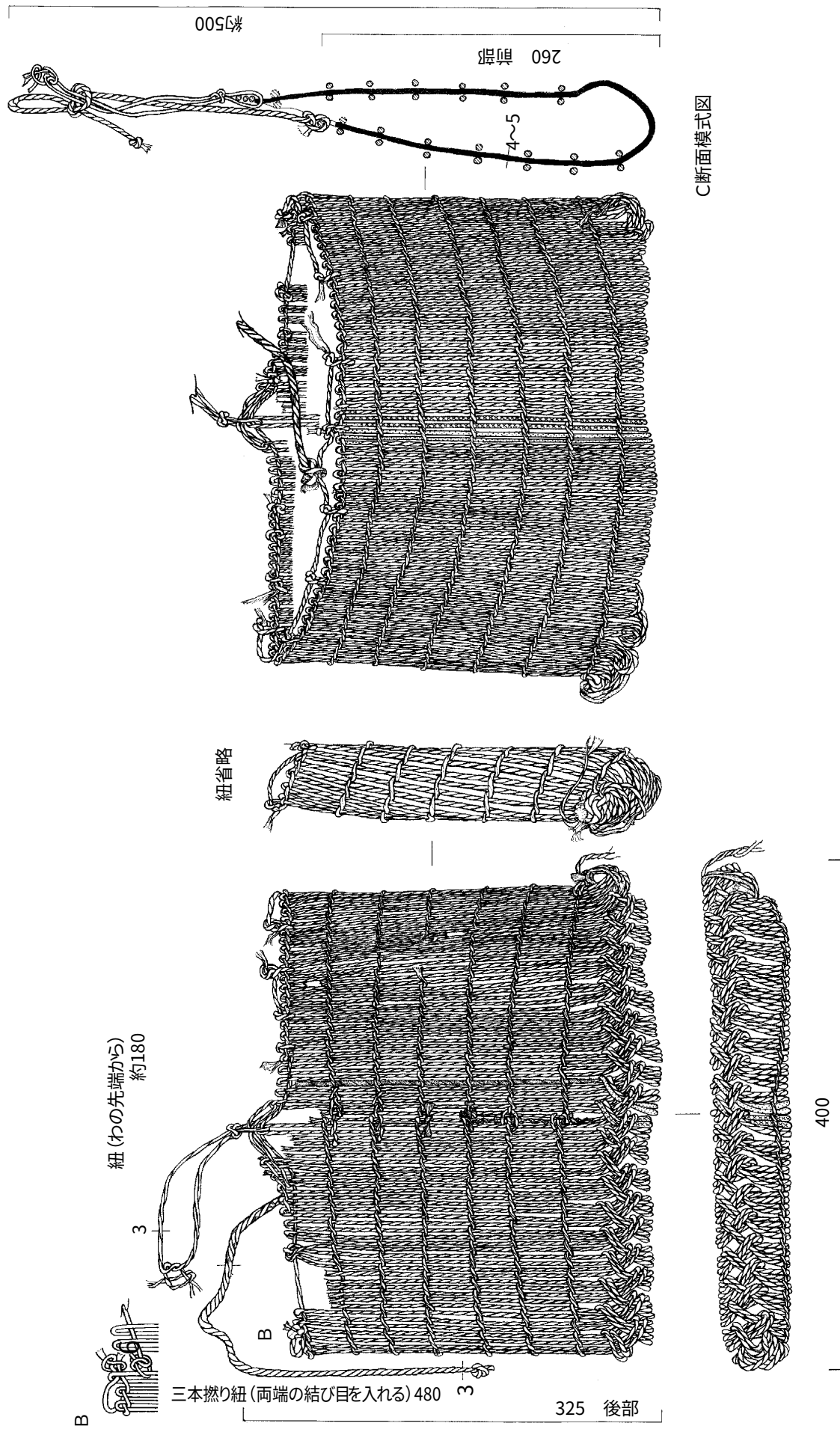
実測図 108

391

- 写真番号 206
 実測図番号 108
 分類名 袋物
 資料名(地方) くらげ(網袋)?
 よみ Kurage?
 地区別の呼称 根子地区…背負い網(獲物入れ)
 重量 140g
 材料 綿糸 カキ渋 マニラ麻のロープ
 用途 マミ、バンドリ(ムササビ)、テン、ムジナ(タヌキ)、ウサギ、ヤマドリなどの小さい獲物を入れる。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 206



実測図番号 109 「つかる」

「つかる」の構造と製作手順（聞き取り調査が出来ないため、製作手順は推測である。）

1. 製作する際、「みご縄」を引っ掛ける事ができる縄あるいは蔓状の素材が、楕円形に上下2本張り渡された台があると便利だと感じた。いずれ台の存在は確認できないが、A図のように「みご縄」を掛けたいと思う。途中「みご縄」を綯いながら製作した可能性もあるが、いずれ経芯の材は1本の縄で構成されている。

2. 経芯の張り方

背面の①が経芯の始まりで経芯1本目である。②で経芯1本目が折り返してUの字を描いて経芯2本目となって立ち上がる。③で経芯2本目が折り返してUの字を描いて経芯3本目となる。経芯38本目までは①～③と同様の手順である。

3. 側面部の経芯と底部を製作する（背面図の右側）。

- ④ 側面は経芯39本目～54本目で構成し、底部を作り始める。
- ⑤ 経芯39本目～46本目でできた底部のU字状4個の中側に経芯47を通してU字状に折り返す。折り返した経芯は48となって立ち上がる。経芯49、51、53も47と同様にすることで側面の底部が形作られる（当資料はこの部分が破損しており、別素材によって内側で結ばれ補修されている）。

4. 前面の経芯を張りながら、中央部までの底部を製作する。

- ⑥ 前面の55本目の経芯は、背面31本目～34本目でできた二つのU字状の中を通り、背面部の経芯37本目～40本目でできたU字状2個に外から中へ通して折り返し、31本目～34本目でできた二つのU字状の中を再び通って、56本目の経芯となる。57本目の経芯も同様の手順である。

- ⑦ 59本目61本目の経芯は、背面の27本目～30本目でできた2個のU字状の中を通り、31本目～4本目でできたU字状の部分2個に外側から中へ通して折り返し、再び27本目～30本目でできた2個のU字状の中を通って60本目62本目の経芯になる。

- ⑧ ⑥と⑦と同様に繰り返す。前面の経芯89本目は背面の経芯1本目2本目でできたU字状の部分にくぐり、背面の経芯3本目～6本目でできたU字状1個に外側から中へ通して折り返し、経芯90本目となって立ち上がる。

これで背面から見ると右半分の経芯と底部が出来上がった事になる。

5. 前面の残り半分の経芯をたてる。

- ⑨ 前面の経芯91本目～132本目をたてると、底部にU字状の部分が21個できる。

6. 側面部の経芯と底部を製作する（背面図の左側）。

- ⑩ 経芯133本目～138本目をたてると底部にU字状の部分が3個できる。139本目の経芯をそのU字状3個分に外側から通して折り返すと140本目の経芯となる（破損）。141本目143本目の経芯も同様に折り返すと142本目144本目の経芯が立ち上がると同時に左側面部の底部ができる。

7. 背面左側の経芯を張りながら底部を製作する。

- ⑪ 145本目の経芯を前面の経芯123本目～126本目を抱え込むように折り返すとそれが146本目の経芯となって立ち上がる。

- ⑫ 147本目～177本目までの経芯を同様に折り返す。

- ⑬ 経芯179本目は前面の経芯87本目～90本目を抱え込むように折り返して、180本目の経芯となって立ち上がる。

- ⑭ 180本目の経芯で「つかる」全体の経芯が張り渡され、底部も完成する。

8. 緯芯を6段編み込む。

- ⑮から⑰は各段の編み始めであり、1段毎完結する。

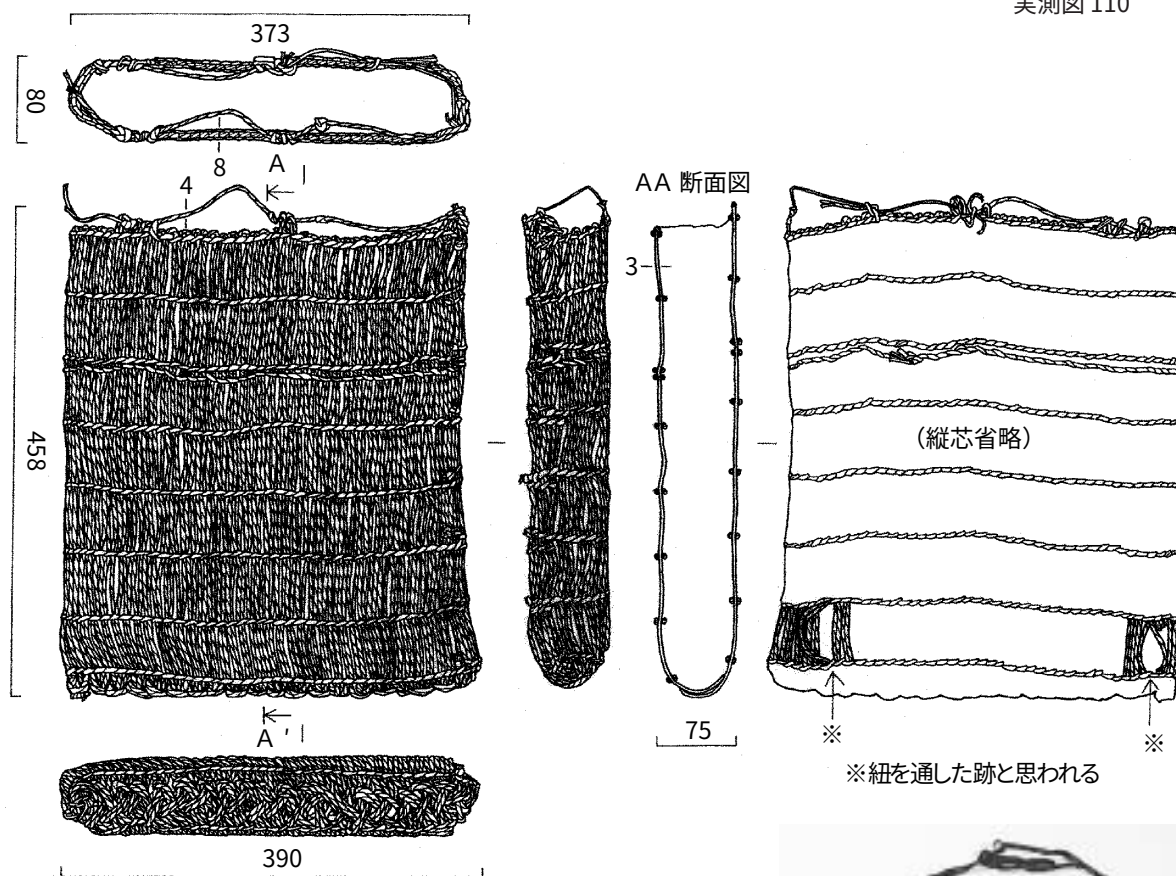
9. 口縁部を編み込み、Bのように始末する。

10. 持つ、あるいは下げるための紐を取り付けて完了する（C断面模式図）



写真番号 207

※実測図番号110の「つかる」はほぼ109の「つかる」と同様の作り方であるが、経芯の立て始めが側面（真ん中の側面図）にきているため、片方の面で全体の半分の経芯を立てることができ、次の面に移る時は経芯を立てる事と底部を製作する事が同時に進行していく。実際に「つかる」を製作する時は、非常に簡単に底のある袋物ができたとと思われる。実測図を製作する際も、109に比べ110の「つかる」は構造の解明が容易であった。



写真番号 208



写真番号 209

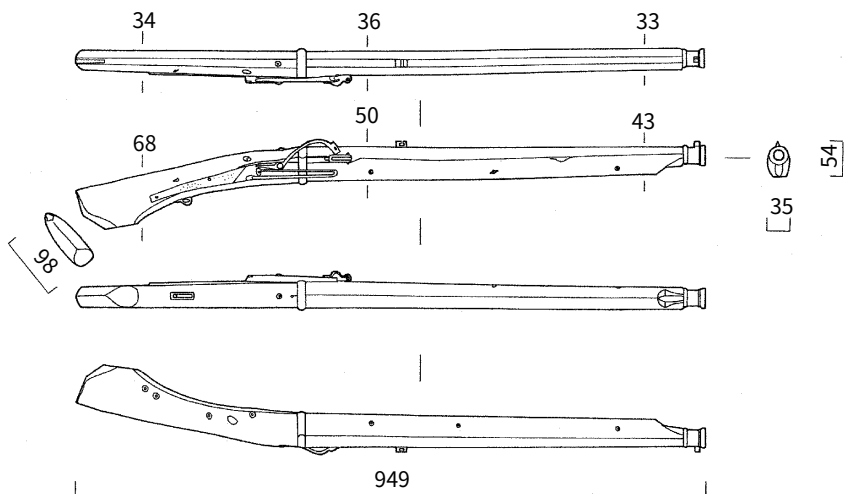


写真番号 210

- | | | |
|----------|---|--|
| 写真番号 | 208・209・210 |  |
| 実測図番号 | 110 (写真番号 208) | |
| 分類名 | 袋物 | 写真番号 210 |
| 資料名 (地方) | つかる・つかるっこ | |
| よみ | Tsukaru・Tsukarukko | |
| 重量 | 208…385g 209…190g 210…305g | |
| 材料 | みご縄 (稲藁の穂先の部分で作った縄) | |
| 用途 | 山仕事用の道具や弁当入れ。「またぎ (狩猟)」の時には使わない。 | |
| 備考 | 付け札には「つかる」という名称があったが、3地区の聞き取り調査では確認できなかった。なお根子地区では、かつて似たような形のものがブドウ蔓の皮で作られ、「こだし」と呼んでいた。 | |
| 収蔵施設 | マタギ資料館 (収蔵庫) | |
| 作図者名 | 角館さえ | |

狩猟用具

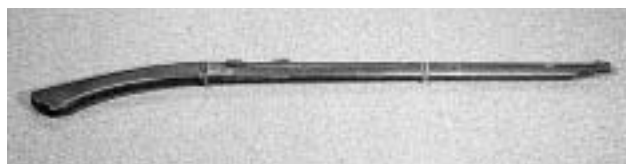
実測図 111



写真番号 211
 実測図番号 111
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) 火縄銃
 よみ Hi-nawa-jû
 重量 3.4 kg
 備考 銃砲刀剣類登録証…登録記号番号—秋田県
 第 29049 号
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 湯沢こずえ



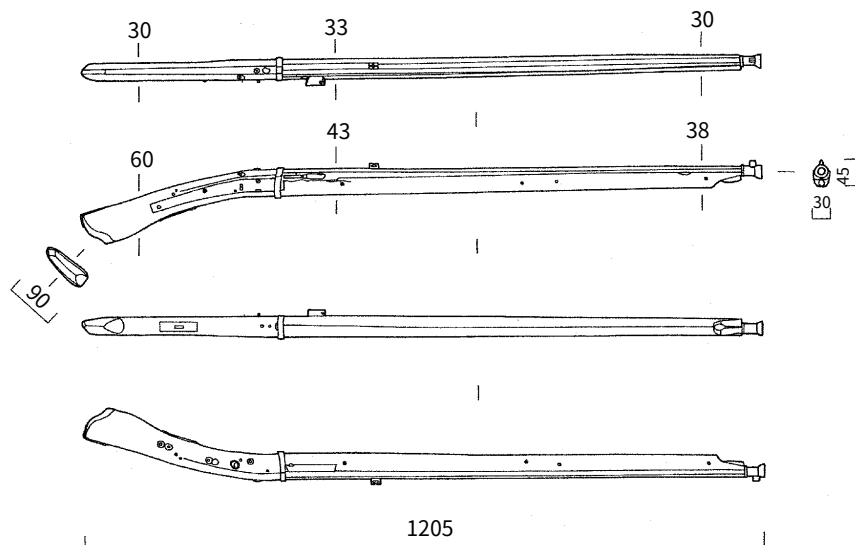
写真番号 211



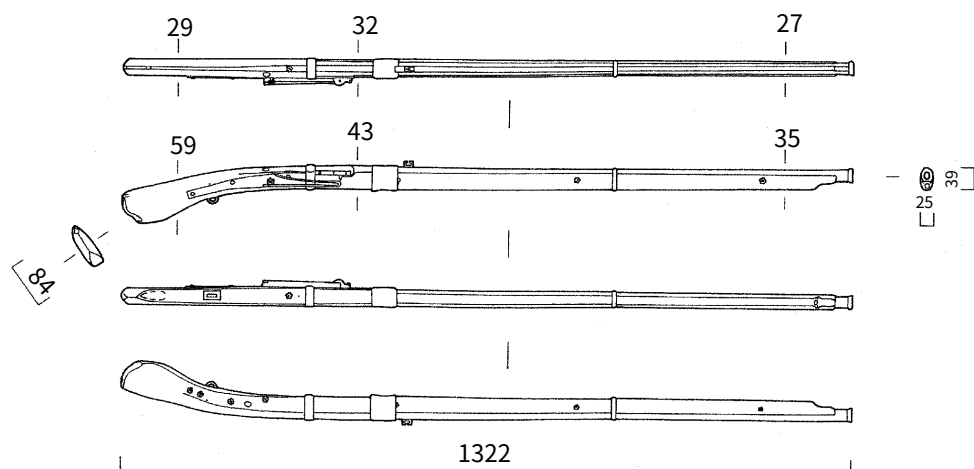
写真番号 212

写真番号 212
 実測図番号 112
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) 火縄銃
 よみ Hi-nawa-jû
 重量 2.5 kg
 備考 銃砲刀剣類登録証…登録記号番号—秋田県
 第 27483 号
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 小原るり子

実測図 112



実測図 113



写真番号 213
 実測図番号 113
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) 火縄銃
 よみ Hi-nawa-jû
 重量 2.5 kg
 備考 銃砲刀剣類登録証…登録記号番号一秋田県第 27478 号
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 三浦あゆ子



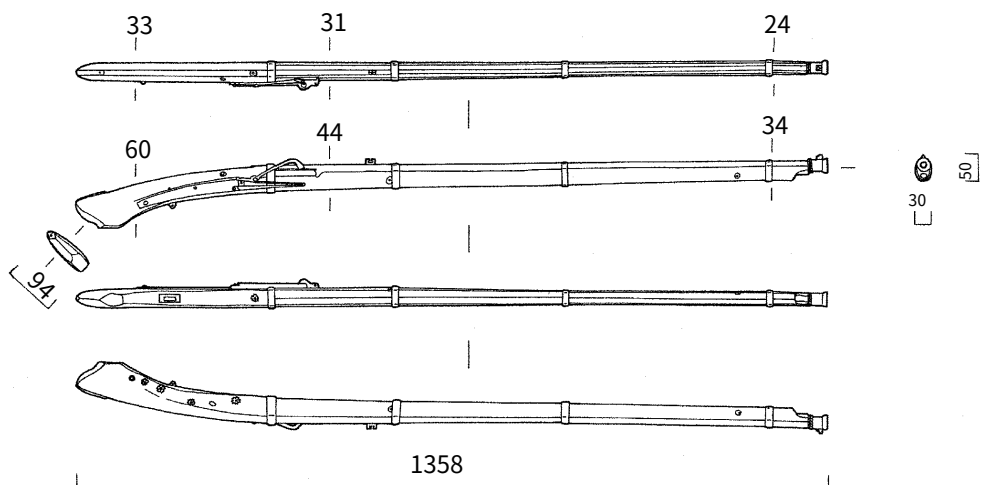
写真番号 213



写真番号 214

写真番号 214
 実測図番号 114
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) 火縄銃
 よみ Hi-nawa-jû
 重量 3.3 kg
 備考 銃砲刀剣類登録証…登録記号番号一秋田県第 23753 号
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 田崎美紀子

実測図 114



写真番号 215
分類名 狩猟用具
資料名(地方) 火縄
よみ Hi-nawa
重量 80g 160 cm
収蔵施設 マタギ資料館(展示室)



写真番号 215

写真番号 216
分類名 狩猟用具
資料名(地方) 村田銃
よみ Murata-jû
重量 2.5 kg
収蔵施設 マタギ資料館(展示室)

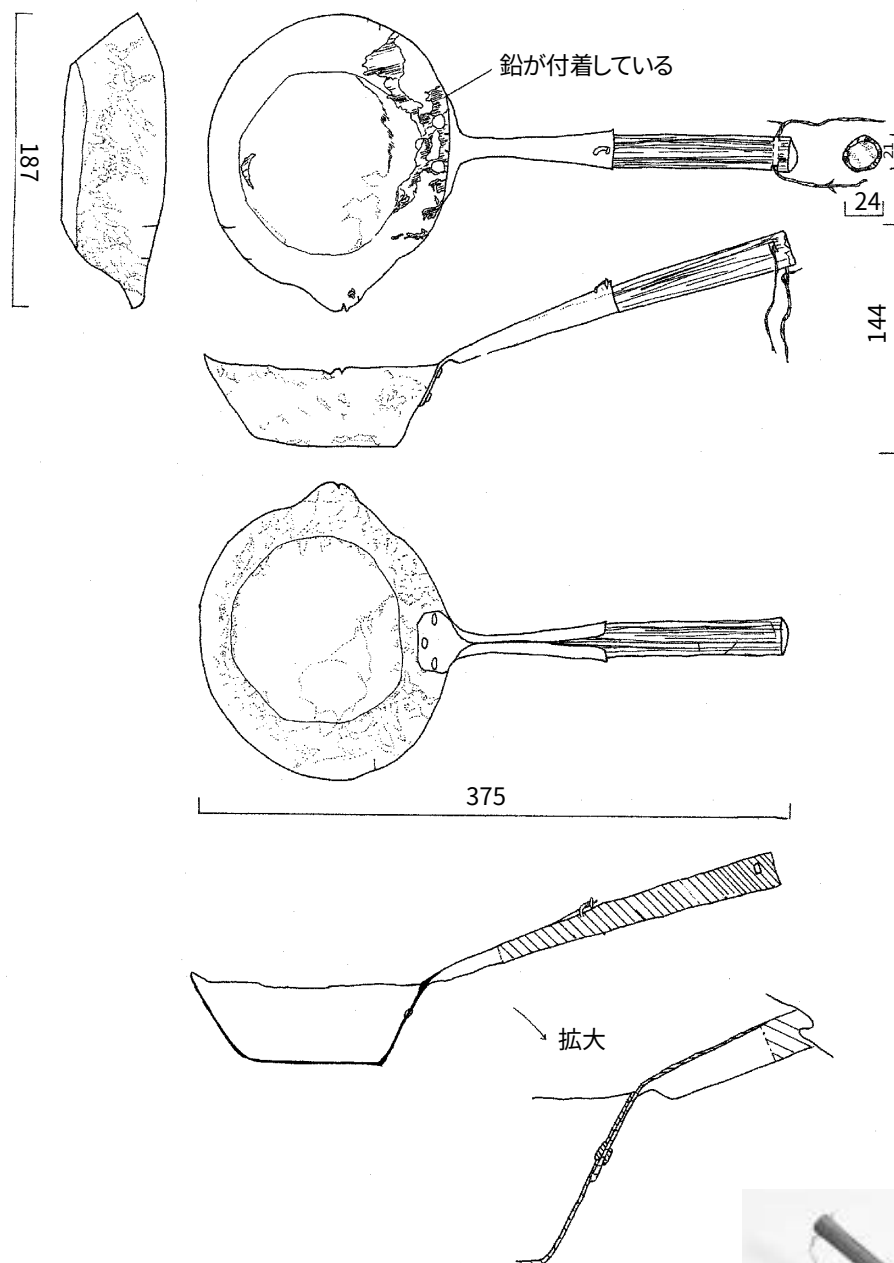


写真番号 216

写真番号 217
分類名 狩猟用具
地区別の呼称 根子地区…ぼんど 比立内地区…弾帯
打当地区…弾帯
重量 785 g
材料 革材
用途 [薬莖(実弾)]を入れて持ち歩く用具
旧所有者 青森県在住の方から寄贈された
収蔵施設 マタギ資料館(展示室)



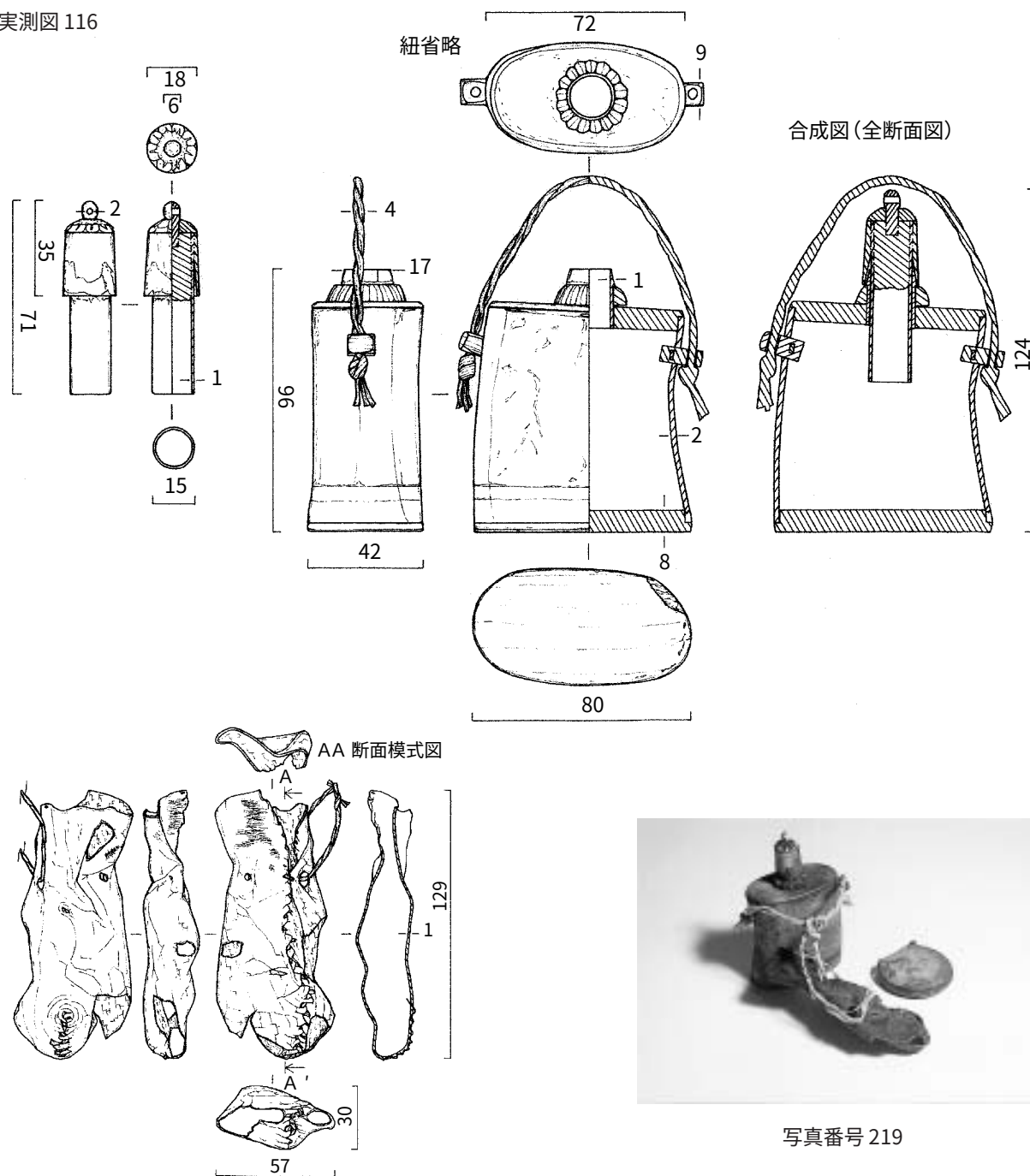
写真番号 217



写真番号 218

写真番号 218
 実測図番号 115
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) くみじゃくし
 よみ Kumi-jakushi(E-zara)
 地区別の呼称 根子地区…柄ざら 比立内地区… 打当地区…
 重量 390g
 材料 鉄材 木部材質不明
 用途 [村田銃] の [弾] を作る時に鉛を溶かす道具
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 丸谷仁美

実測図 116



写真番号 219

写真番号 219 - 左

実測図番号 116

分類名 狩猟用具

資料名 (地方) 火薬入れ

よみ Kayaku-ire

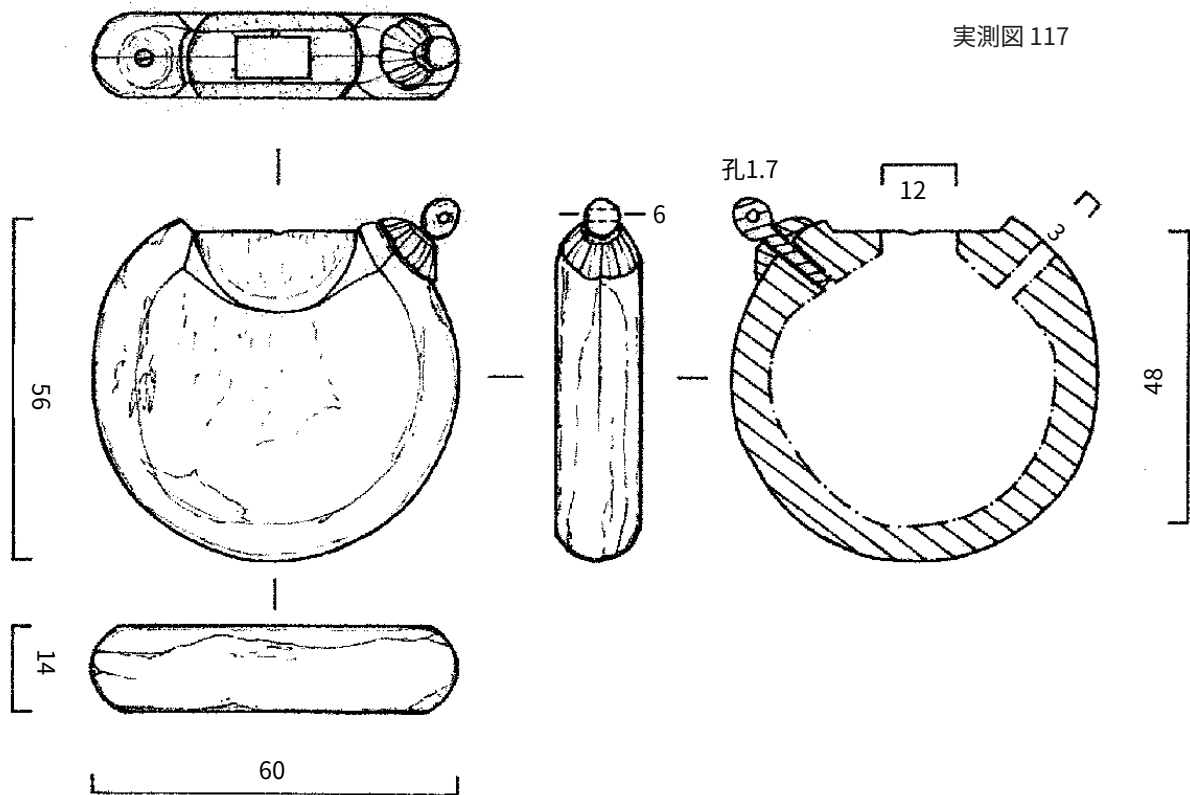
重量 本体…78 g 皮袋…78 g

用途 火薬を入れて常に山に持ち歩く。〔弾〕は〔弾〕で持って歩いているが、例えばウサギを追い掛けている時にクマの足跡に出合ったりする場合があります、猟の対象がクマに切り替わる場合があります。そういう時用意した〔実弾〕が足りなかったりするので、空になった〔薬莢〕に、経験を生かして目分量で火薬を詰め、〔厚紙〕入れて押し、次に必要な〔弾〕をこめて押し、更に〔厚紙〕入れて押して〔実弾〕を作る。そういう時に使用する火薬を入れたものが、このような〔火薬入れ〕である。

備考 〔火薬入れ〕は湿気を嫌うため、精巧な作りであった。マタギの人たち自身が自分で製作した。サクラ皮のものもある。〔火縄銃〕の火薬入れの事を「どくすりっぱ」という (松橋時幸談)。

収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)

作図者名 角館さえ



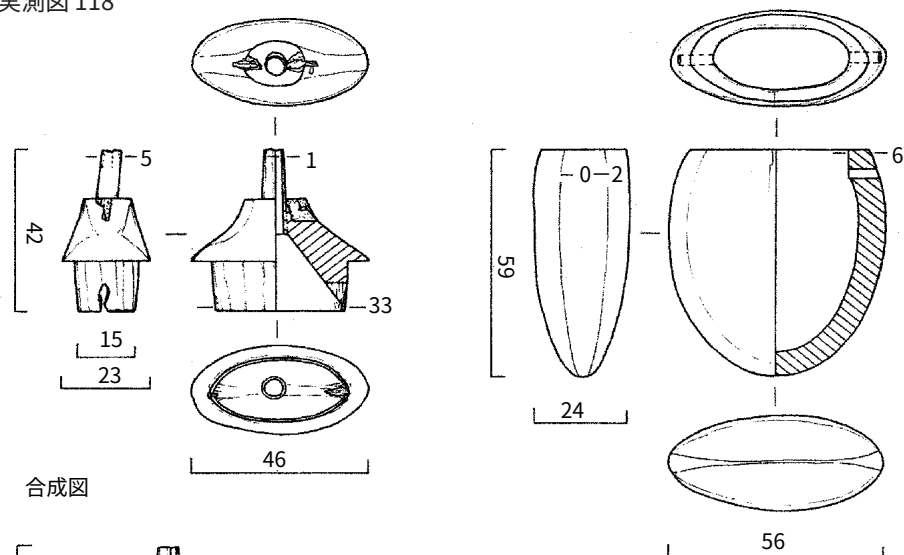
実測図 117



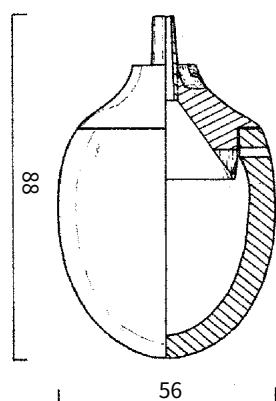
写真番号 219

写真番号 219 一右
 実測図番号 117
 分類名 狩猟用具
 資料名（地方） 火薬入れ
 よみ Kayaku-ire
 重量 16 g
 材料 木部材質不明
 用途 実測図 116 に同じ
 備考 実測図 116 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館（展示室）
 作図者名 角館さえ

実測図 118



合成図



写真番号 220
 実測図番号 118
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) 火薬入れ
 よみ Kayaku-ire
 重量 15 g
 材料 木部材質不明
 用途 実測図 116 に同じ
 備考 実測図 116 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 角館さえ



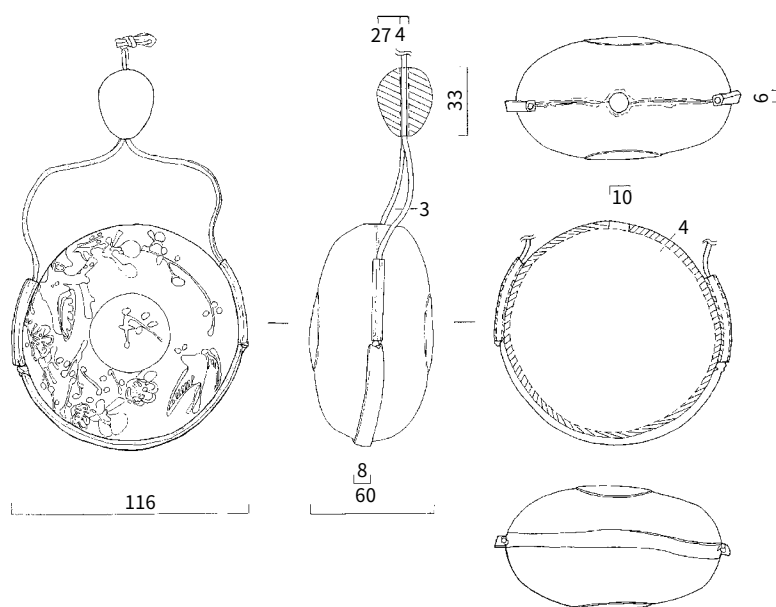
写真番号 220



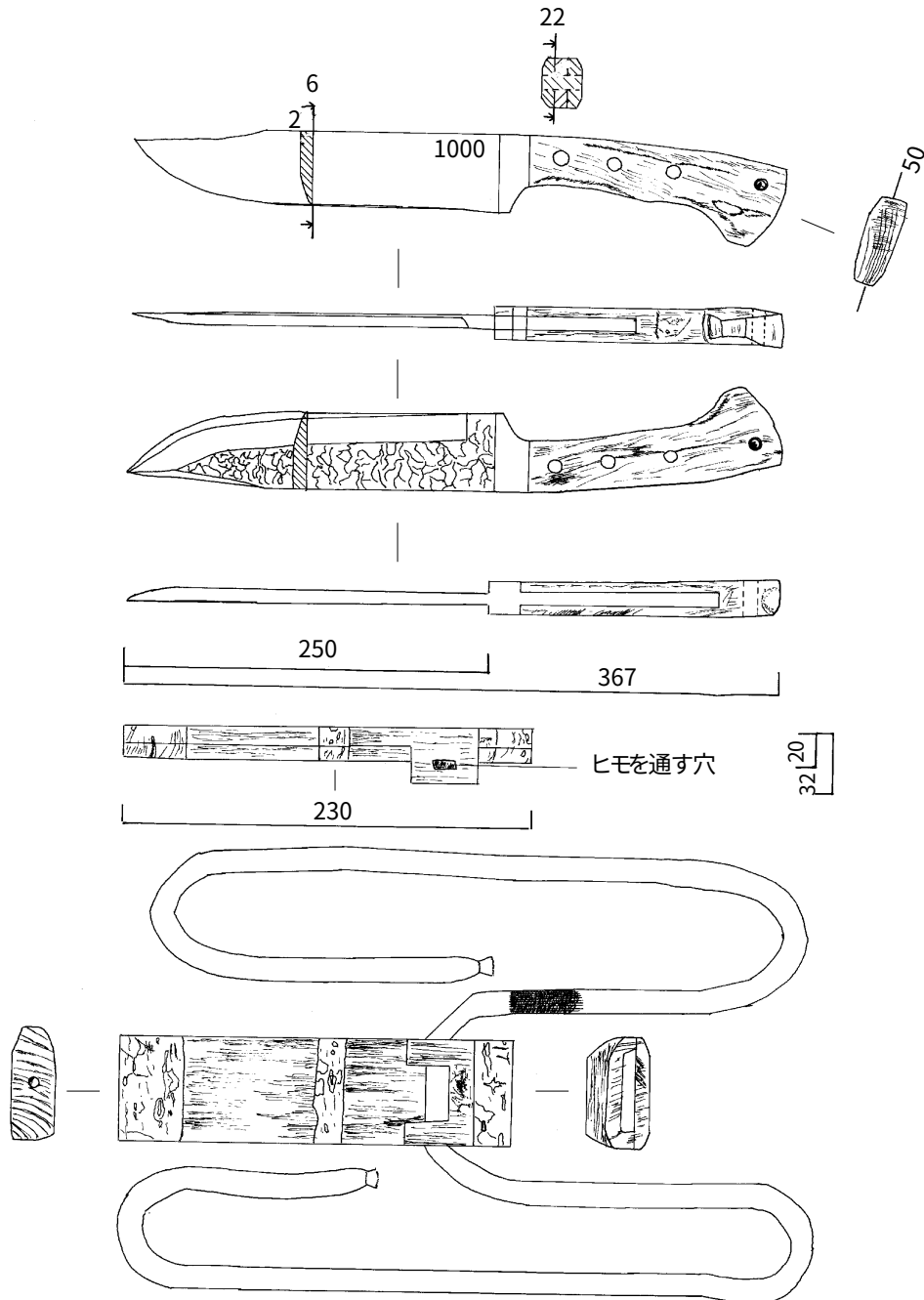
写真番号 221

写真番号 221
 実測図番号 119
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) 火薬入れ
 よみ Kayaku-ire
 重量 199g
 用途 実測図 116 に同じ
 備考 実測図 116 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 田崎美紀子

実測図 119



実測図 120

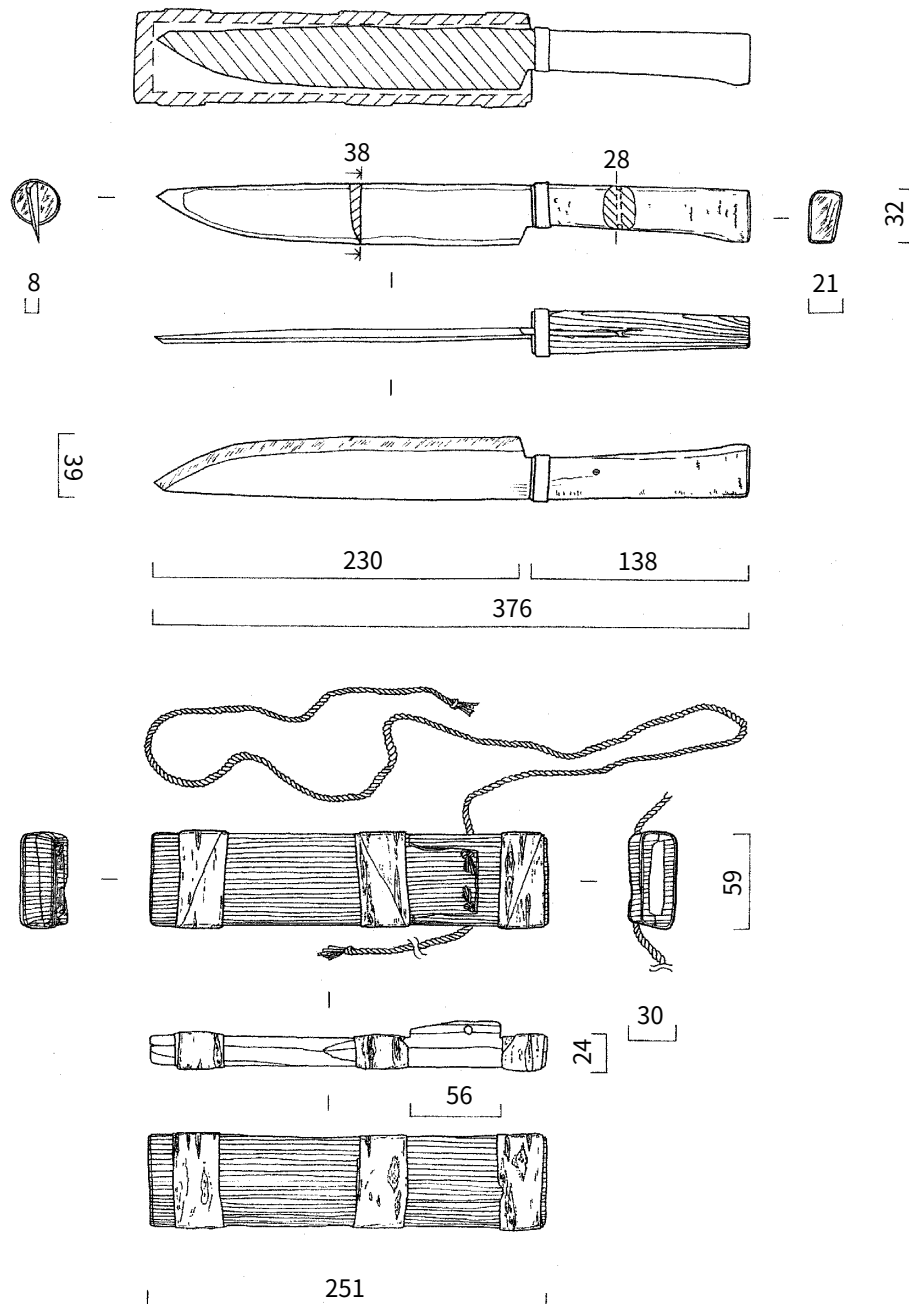


- 写真番号 222
 実測図番号 120
 分類名 狩猟用具
 資料名（地方） ながさ・さや
 よみ Nagasa・Saya
 重量 780 g
 材料 身…鉄材 さや…木部材質不明 サクラ皮
 用途 クマを銃で撃つ事が間に合わず、とっさにこれで闘うこともある。木を伐る事も、動物を解体する事も出来る。
 製作(入手)方法 「さや」は一木の材を割って、それぞれの内部を身が収まるように彫る。彫った2枚のスギ材を重ね合わせて、3箇所にサクラ皮を巻いて固定する。
 収蔵施設 マタギ資料館（展示室）
 作図者名 丸谷仁美



写真番号 222

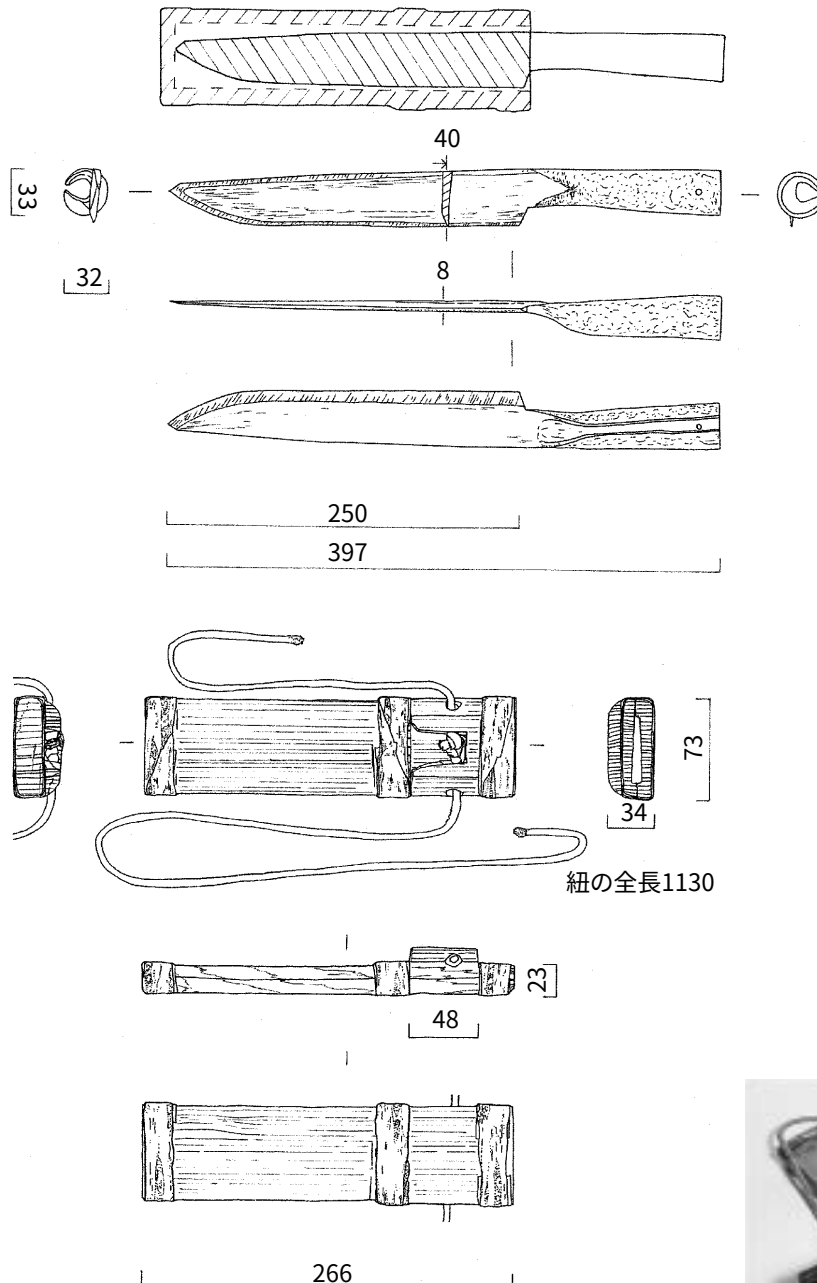
実測図 121



写真番号 223

写真番号 223
 実測図番号 121
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) ながさ・さや
 よみ Nagasa・Saya
 重量 ながさ 350 g・さや 97 g
 材料 身…鉄材 さや…木部材質不明 サクラ皮
 用途 実測図 120 に同じ
 製作(入手)方法 実測図 120 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子

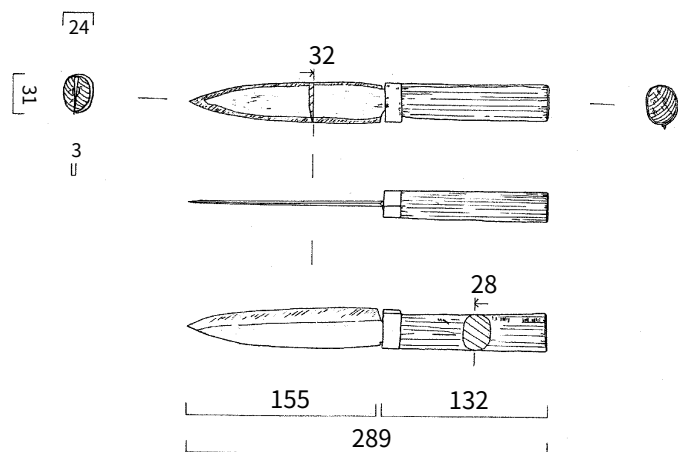
実測図 122



写真番号 224

- 写真番号 224
 実測図番号 122
 分類名 狩猟用具
 資料名 (地方) ふくろながさ・さや
 よみ Hukuro-nagasa・Saya
 重量 ふくろながさ 523.7g さや 125g
 材料 身…鉄材 さや…スギ材 サクラ皮
 用途 腰に差している「ふくろながさ」は、クマを銃で撃つ事が間に合わない場合、とっさにこれで闘うこともある。また身が長くて重いものは、川岸の立ち木を伐って橋を架けたりすることもできる。必要に応じて、柄を現地調達することで「たて」としても使用する。
 製作(入手)方法 「さや」は一本のスギ材を割って、それぞれの内部を刃が収まるように彫る。2枚のスギ材を重ね合わせて、3箇所サクラ皮を巻いて固定する。
 備考 当資料は旧所有者について調査中であるが、「ふくろながさ型たて」は昭和50年代の後半に松橋時幸により考案されたものである。
 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
 作図者名 ふくろながさ…田崎美紀子 さや…小原るり子

実測図 123

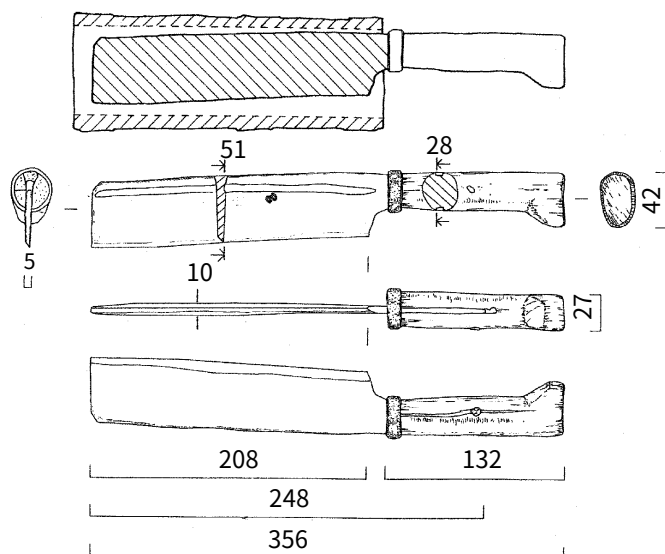


写真番号 225
 実測図番号 123
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) こより
 よみ Koyori
 重量 120.3 g
 材料 身…鉄材 木部材質不明
 用途 小刀として色々な場面で使用されたと思われるが、詳細不明。
 備考 つけ札の名称は「こより」であるが、3地区の調査では確認できなかった。
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 225

実測図 124

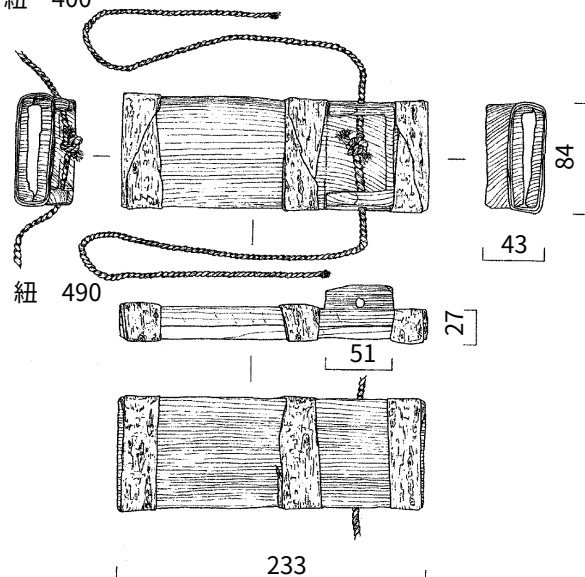


写真番号 226
 実測図番号 124
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) 鉈・さや
 よみ Nata・Saya
 重量 鉈 500 g さや 100 g
 材料 身…鉄材 さや…木部材質不明
 サクラ皮
 用途 山仕事や山歩きの際に必ず携帯し、木を伐採する。「またぎ(狩猟)」用ではない。
 製作(入手)方法 「さや」は一木の材を割って、それぞれの内部を身が収まるように彫る。彫った2枚のスギ材を重ね合わせて、3箇所にはサクラ皮を巻いて固定する。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子

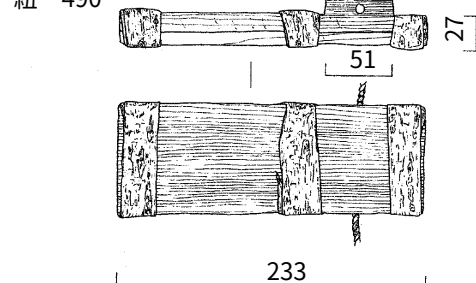


写真番号 226

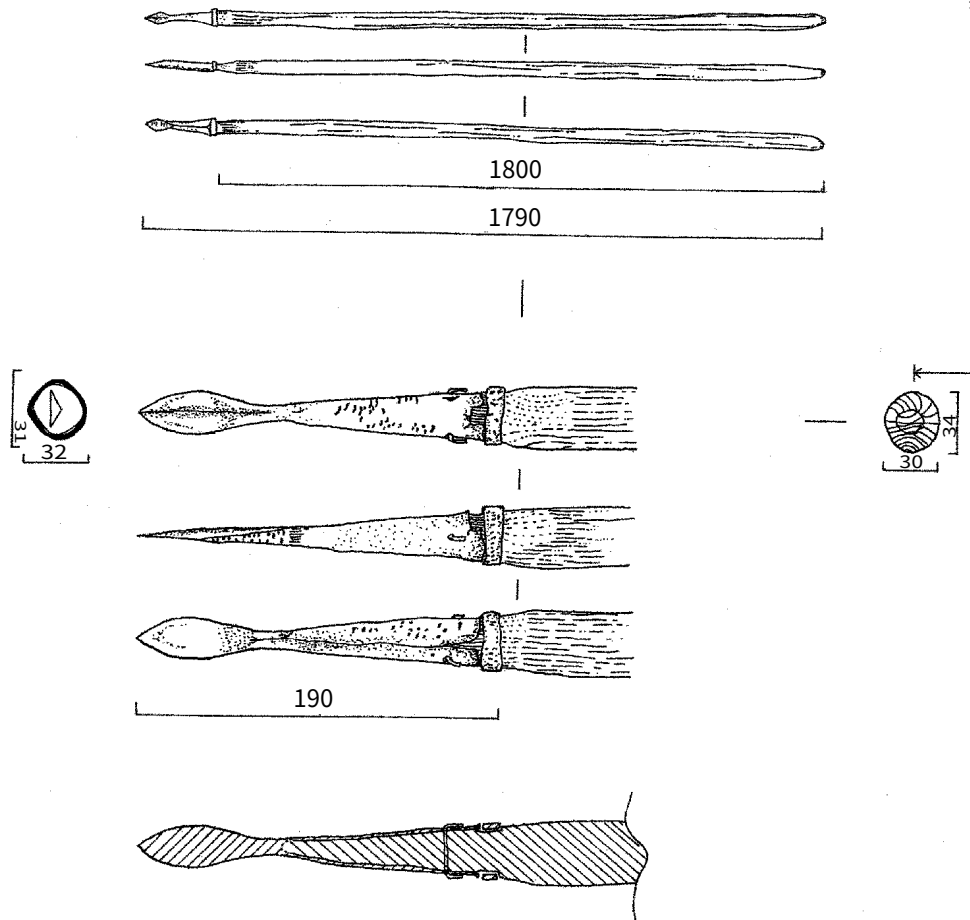
紐 400



紐 490



実測図 125



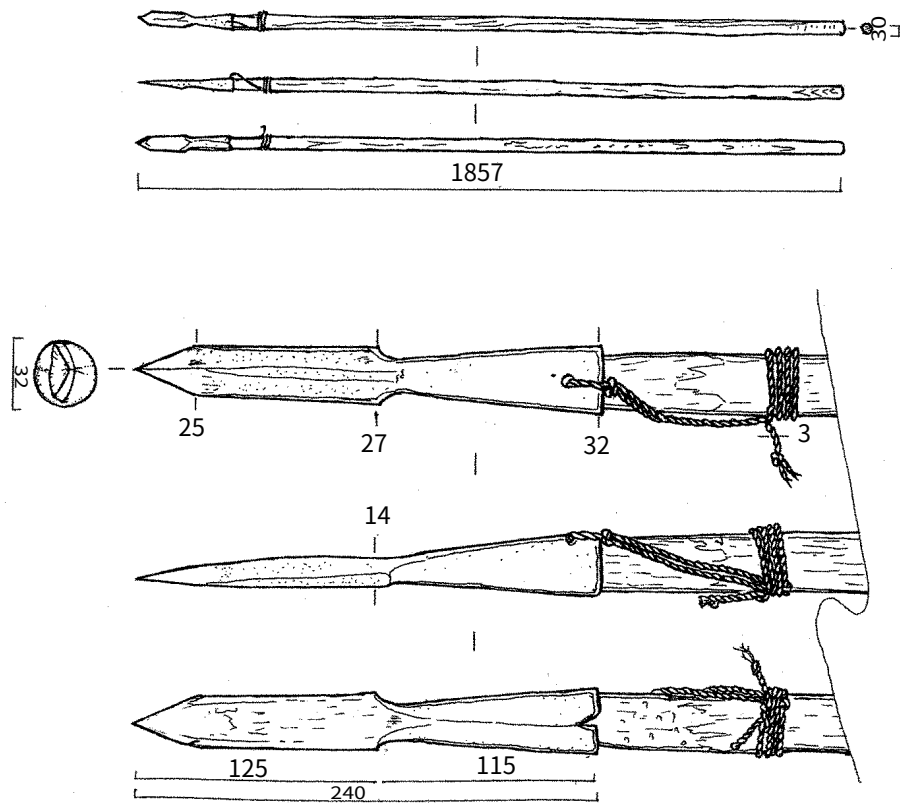
写真番号 227

写真番号 227
 実測図番号 125
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) たて(やり型)
 よみ Tate(Yari-gata)
 重量 1.1kg
 材料 身…鉄材 木部材質不明

用途 [たて] はクマとの接近戦になった場合、クマが立ち上がって腹を見せる状態になるのでそこを突く。また穴の中で子育てしているクマの傍をマタギが通ったような場合、クマがマタギの存在に気づくと、うなり声を出すことがある。マタギの側はそれでクマがいることが分かる。そのような時、クマの穴をのぞき込む事になるが、その際必ず [たて] の穂先を目の高さに構える。穴からクマが出て来た時、[たて] を突きだしたままマタギの方は反射的に顔をぐっと後ろに退く。クマの方は [たて] に突き刺さる。その時クマは目の前にあるものをクマ自身が持って引き込む習性があるため、[たて] の柄も自分で持って引き込んでしまう。それゆえより深く [たて] が突き刺さる事になる。

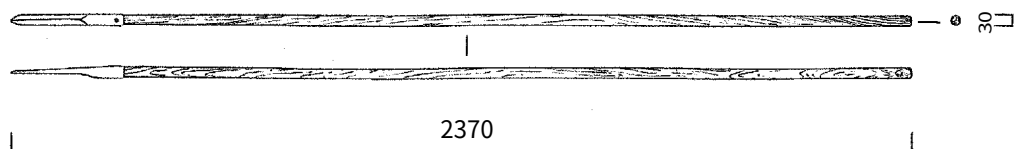
収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 武田千鳥

実測図 126

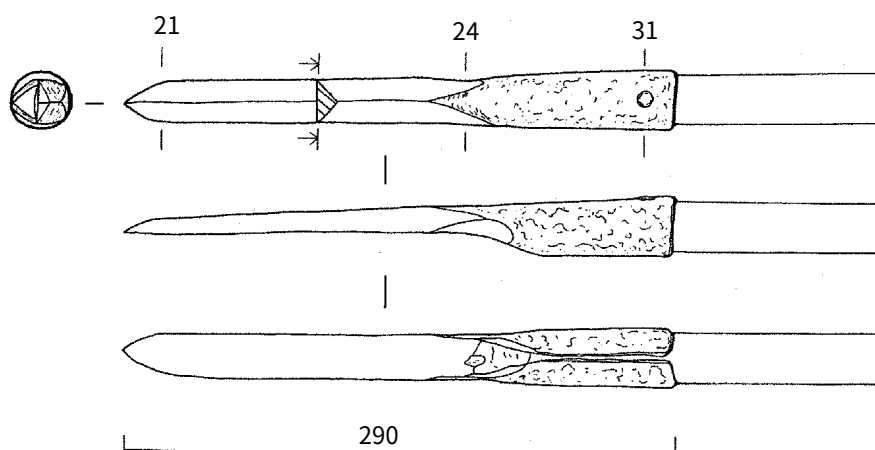


写真番号 228

写真番号 228
 実測図番号 126
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) たて(やり型)
 よみ Tate(Yari-gata)
 重量 1.15kg
 材料 身…鉄材 木部材質不明
 用途 実測図 125 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 湯沢こずえ

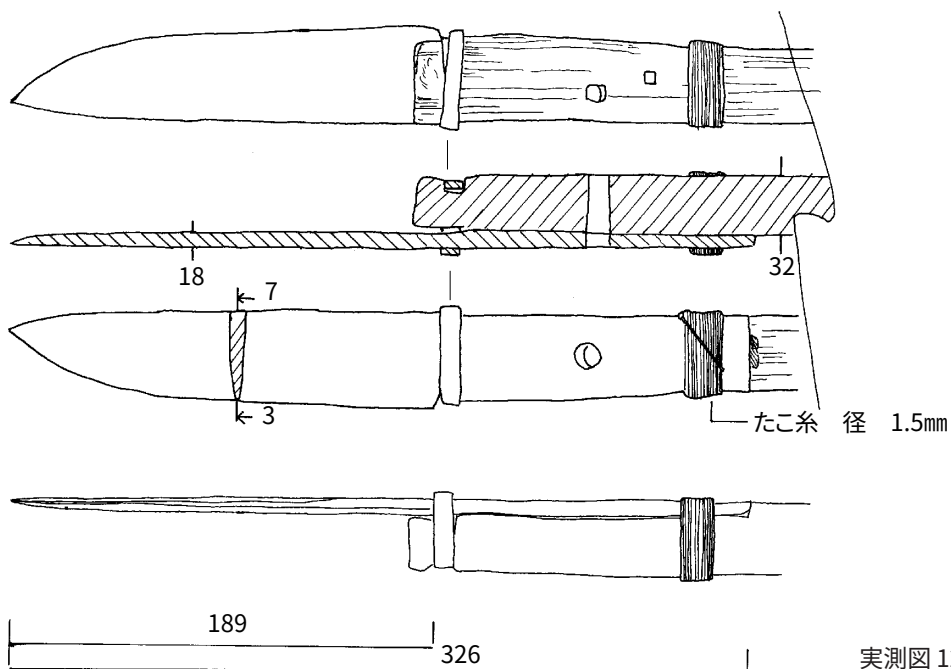
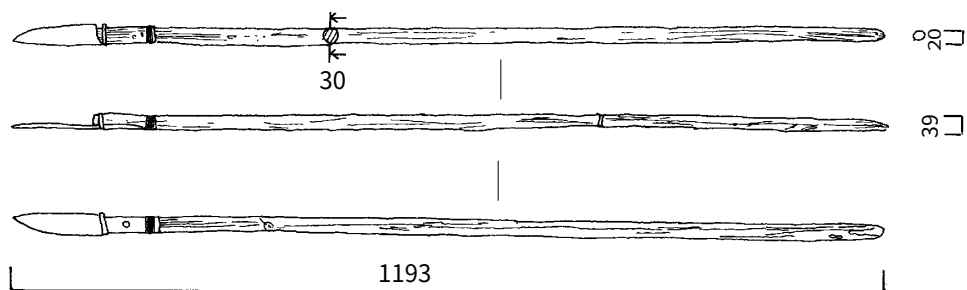


実測図 127



写真番号 229

写真番号 229
 実測図番号 127
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) たて(やり型)
 よみ Tate (Yari-gata)
 重量 1.4kg
 材料 身…鉄材 木部材質不明
 用途 実測図 125 に同じ
 備考 銃砲刀剣類登録証…登録記号番号一秋田県 第 23752 号
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子

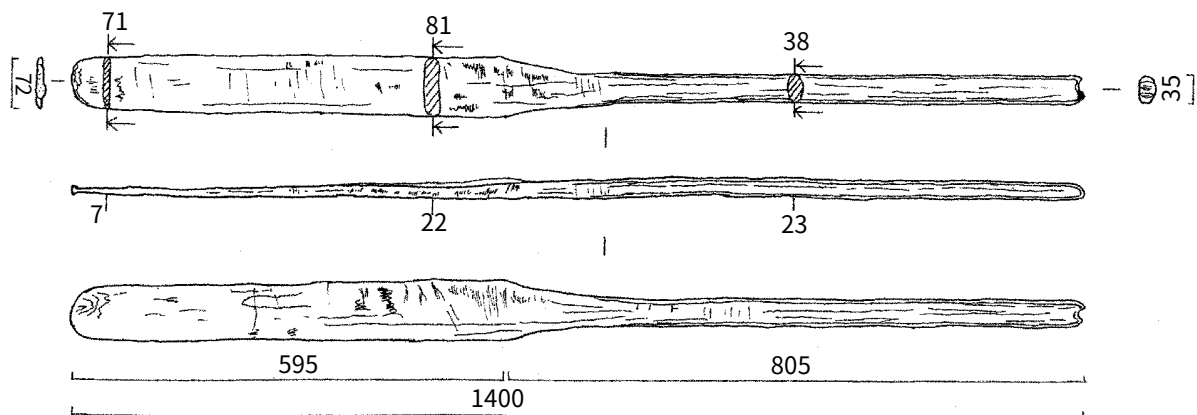


実測図 128



写真番号 230

- 写真番号 230
 実測図番号 128
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) たて(ながさ型)
 よみ Tate(Nagasa-gata)
 重量 1.4 kg
 材料 身…鉄材 木部材質不明
 用途 実測図125に同じだが、この「ながさ型たて」の場合は、たとえば山でクマを捕ってさばいたり料理したりする場合などに、柄から取り外して「包丁」代わりに使った。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 丸谷仁美

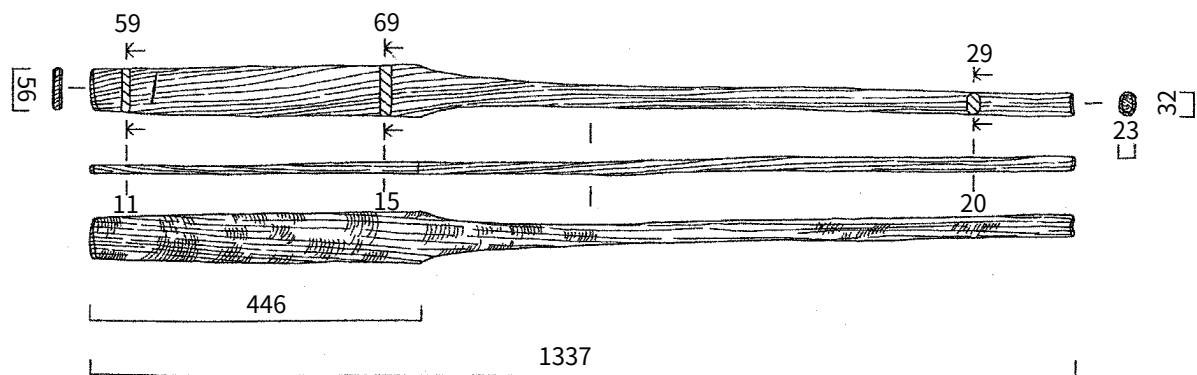


実測図 129



写真番号 231

写真番号	231
実測図番号	129
分類名	狩猟用具
資料名(地方)	おなぎえ(大ながえ)
よみ	Onagye(Ô-nagae)
地区別の呼称	根子地区…おなぎえ・またぎべら 比立内地区…大ながえ・またぎべら 打当地区…おなぎえ・またぎべら
重量	970 g
用途	山の斜面を歩く時、山側に杖のように突いて歩いたり、傾斜地を登る時に胸まである雪を漕ぐようによけたり、雪洞を掘ったり、ウサギが逃げ込んだ穴を掘ったり、銃座にもした。アオシシ(カモシカ)などを捕まえた時、獲物の急所を叩いて殺したりするが、これは鉄砲で撃っても急所をはずれた場合に獲物が歩きまわり、人間の方が危なくなる場合もあるので、叩いて殺す事もある。また「春またぎ(狩猟)」の時には、急な斜面を下りる時に、[またぎべら]を股に挟んで柄の部分で両手で持って[長靴]で滑り下りる。そうして使っていると[またぎべら]は反ってくる。
収蔵施設	マタギ資料館(展示室)
作図者名	湯沢こずえ

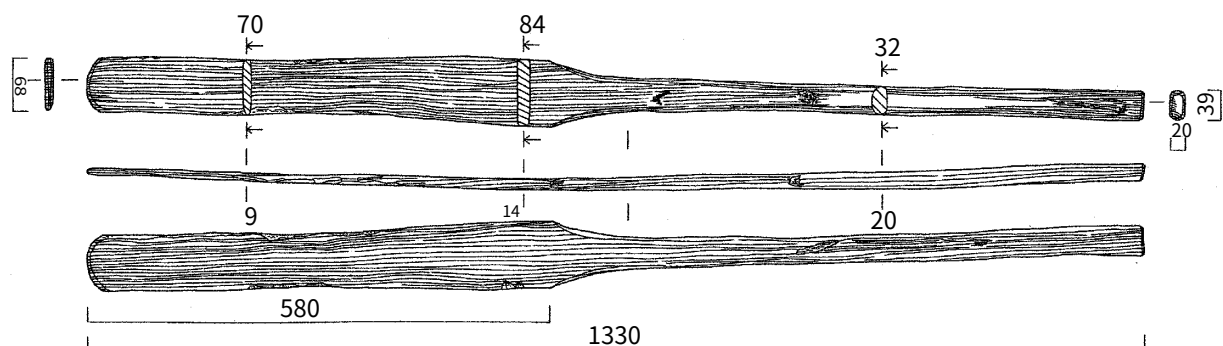


実測図 130

写真番号 232
 実測図番号 130
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) おなぎえ(大ながえ)
 よみ Onagye(Ô-nagae)
 地区別の呼称 根子地区…おなぎえ・またぎべら 比立内地区…大ながえ・またぎべら 打当地区…おなぎえ・またぎべら
 重量 730g
 用途 実測図 129 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 232

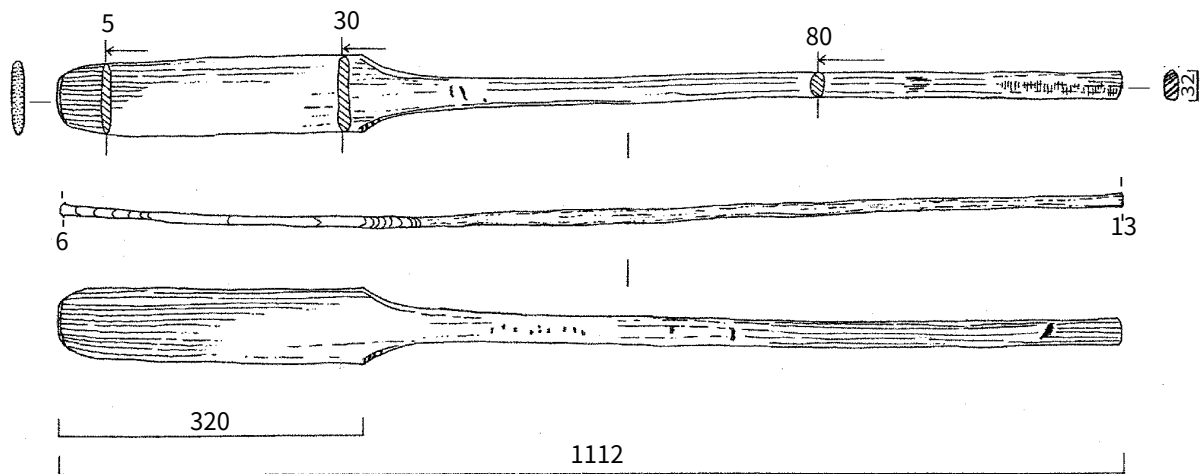


実測図 131

写真番号 233
 実測図番号 131
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) おなぎえ(大ながえ)
 よみ Onagye(Ô-nagae)
 地区別の呼称 根子地区…おなぎえ・またぎべら 比立内地区…大ながえ・またぎべら 打当地区…おなぎえ・またぎべら
 重量 770g
 用途 実測図 129 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 233

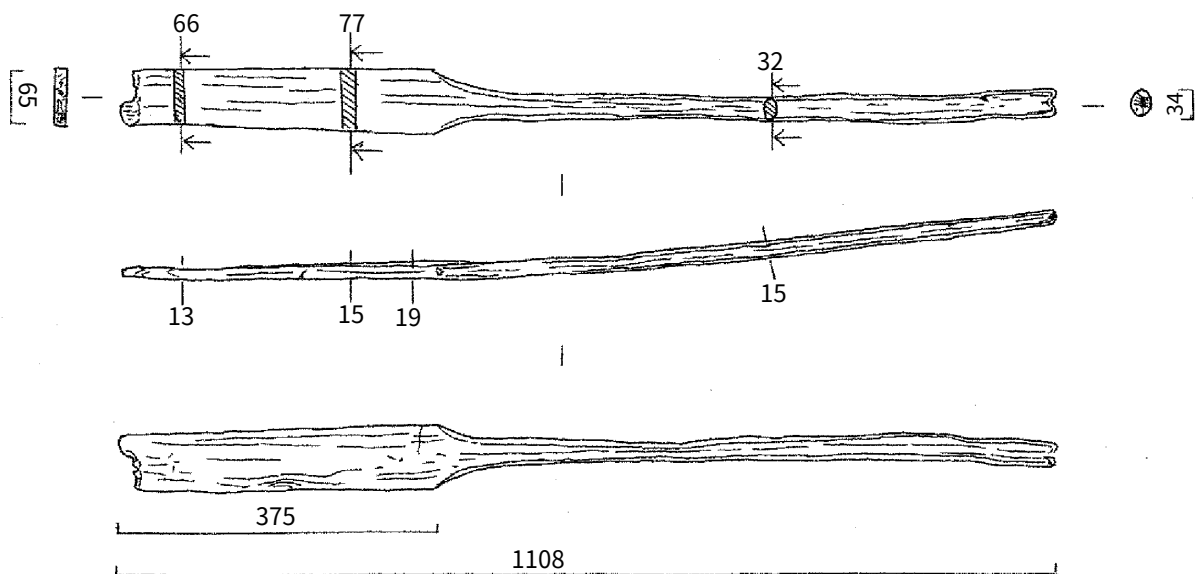


実測図 132

写真番号 234
 実測図番号 132
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) こなぎえ (小ながえ)
 よみ Konagyae(Ko-nagae)
 地区別の呼称 根子地区…こなぎえ・またぎべら 比立内地区…小ながえ・またぎべら 打当地区…こなぎえ・またぎべら
 重量 460g
 用途 実測図 129 に同じであるが、小型なので携帯しやすい。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 武田千鳥



写真番号 234

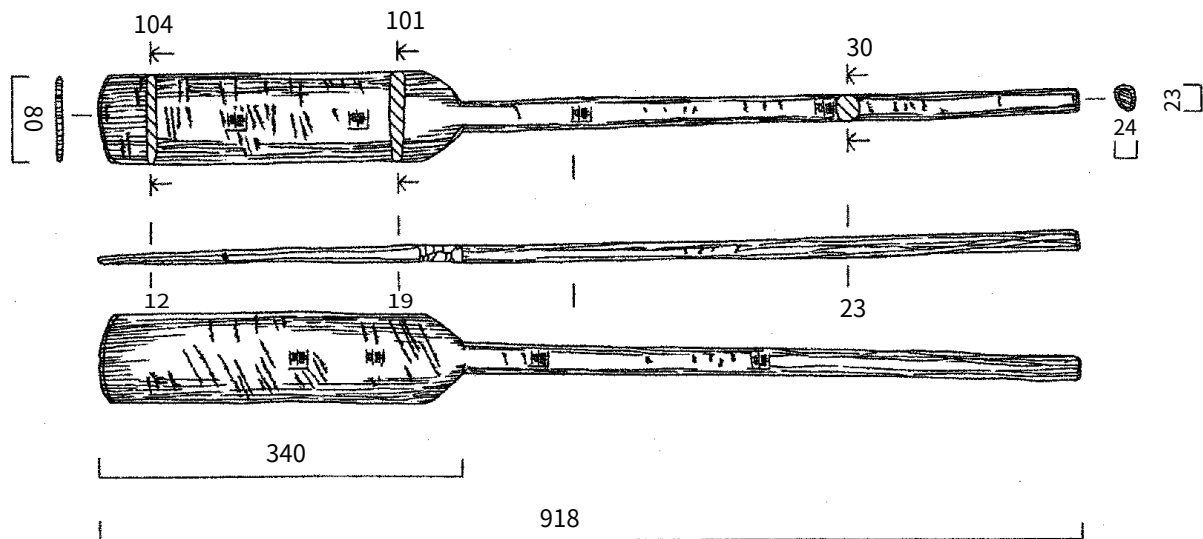


実測図 133

写真番号 235
 実測図番号 133
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) こなぎえ (小ながえ)
 よみ Konagyae(Ko-nagae)
 地区別の呼称 根子地区…こなぎえ・またぎべら 比立内地区…小ながえ・またぎべら 打当地区…こなぎえ・またぎべら
 重量 575g
 用途 実測図 129 に同じであるが、小型なので携帯しやすい。
 収蔵施設 マタギ資料館 (収蔵庫)
 作図者名 湯沢こずえ



写真番号 235



実測図 134

写真番号 236
 実測図番号 134
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) なぎえ(ながえ)
 よみ Nagye(Na-gae)
 重量 385g
 用途 実測図 129 に同じであるが、小型なので携帯しやすい。
 収蔵施設 マタギ資料館(収蔵庫)
 作図者名 田崎美紀子

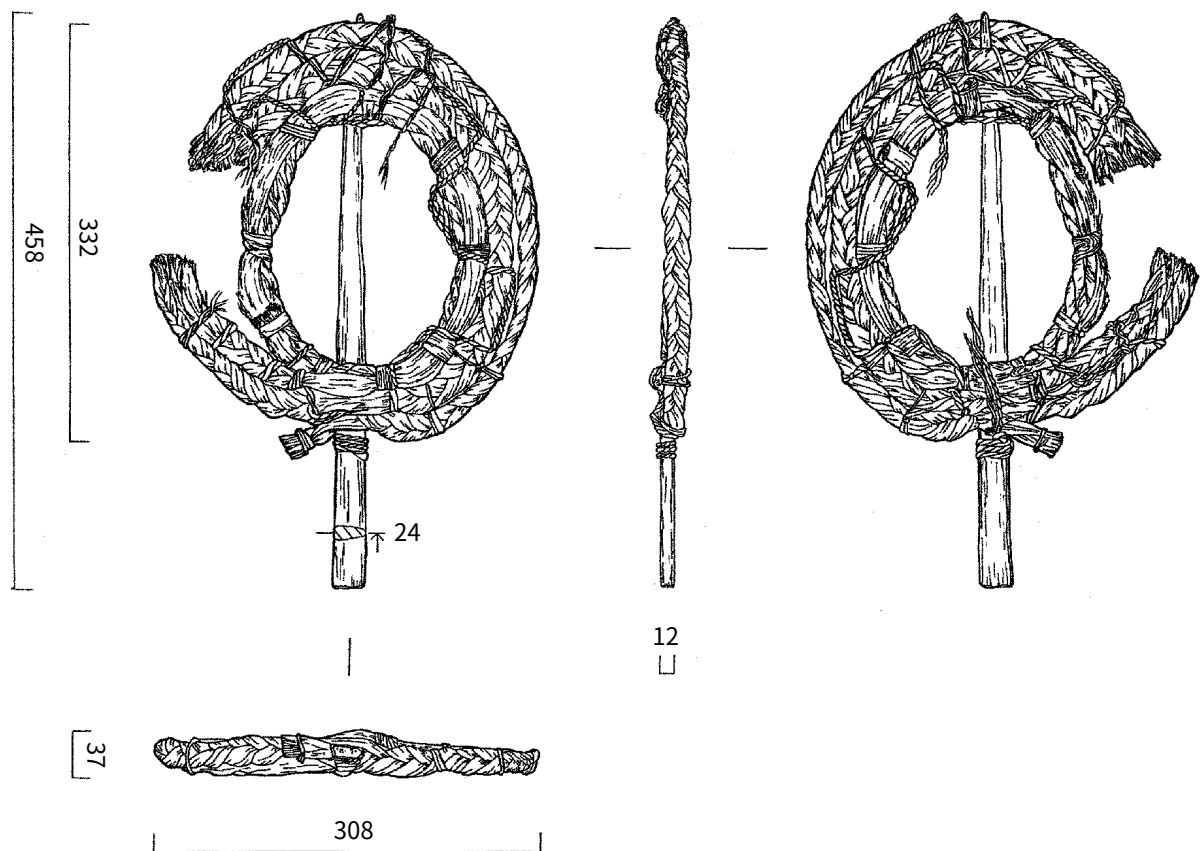


写真番号 236

写真番号 237
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) さって
 よみ Satte
 重量 946g
 用途 雪をかき分ける。雪洞を掘る。銃の台座にもなった。カヤぶき屋根の雪下ろしにも使用。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)



写真番号 237

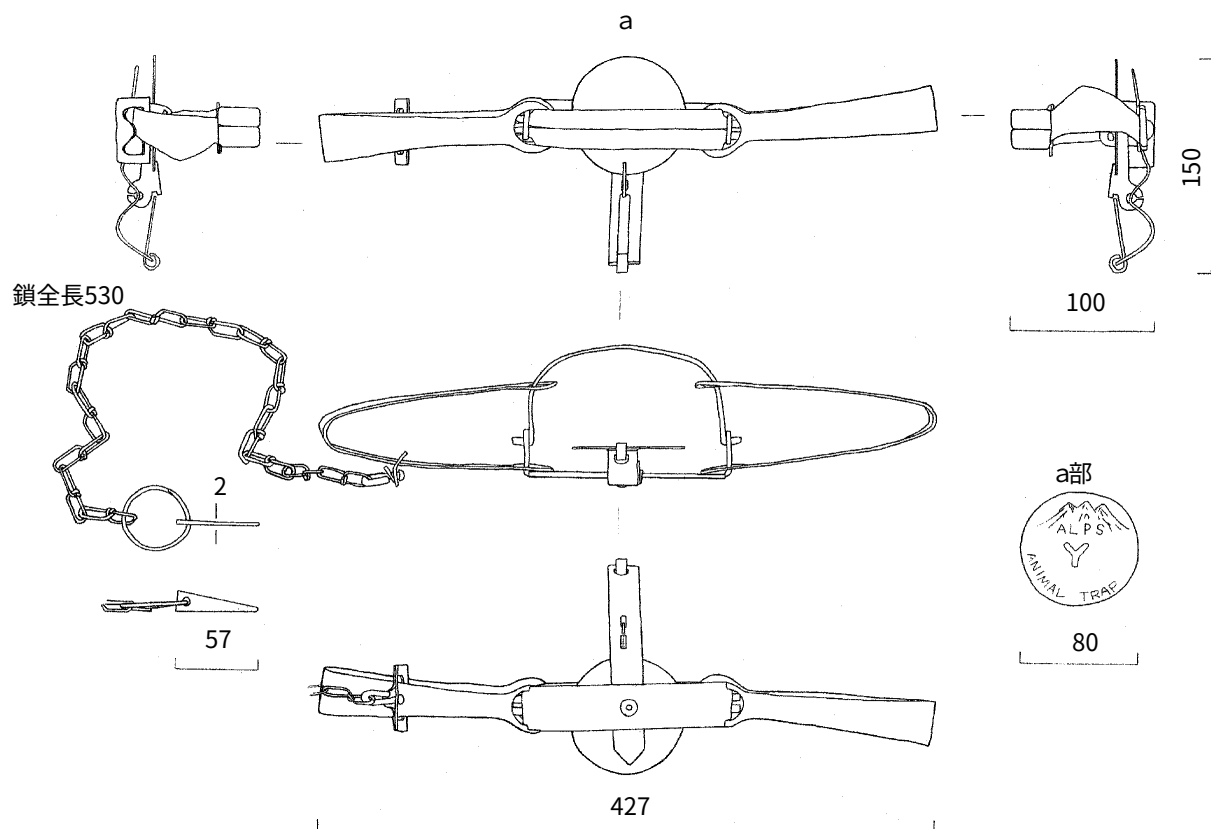


実測図 135



写真番号 238

写真番号 238
 実測図番号 135
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) わらだ
 よみ Warada
 地区別の呼称 根子地区…なげわ 比立内地区…わらだ 打当地区…わらだ
 重量 204 g
 材料 藁材
 用途 ウサギを捕まえるための。
 使用方法 実測図 74・75 に同じ
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子

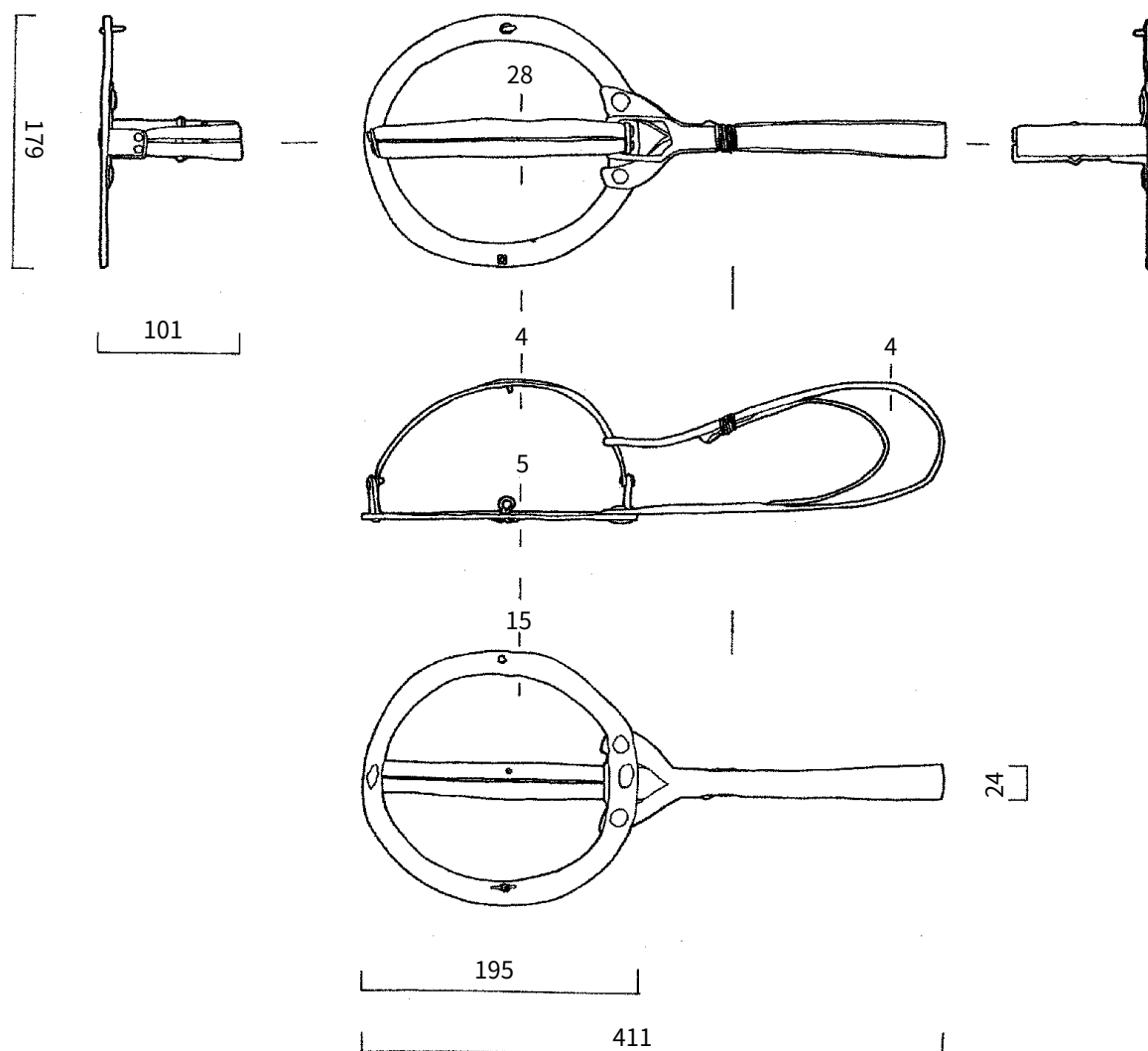


実測図 136

写真番号 239
 実測図番号 136
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) とらばさみ
 よみ Tora-basami
 重量 876g
 材料 鉄材
 用途 小さいクマも捕れる。大きいクマでは壊される。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 239

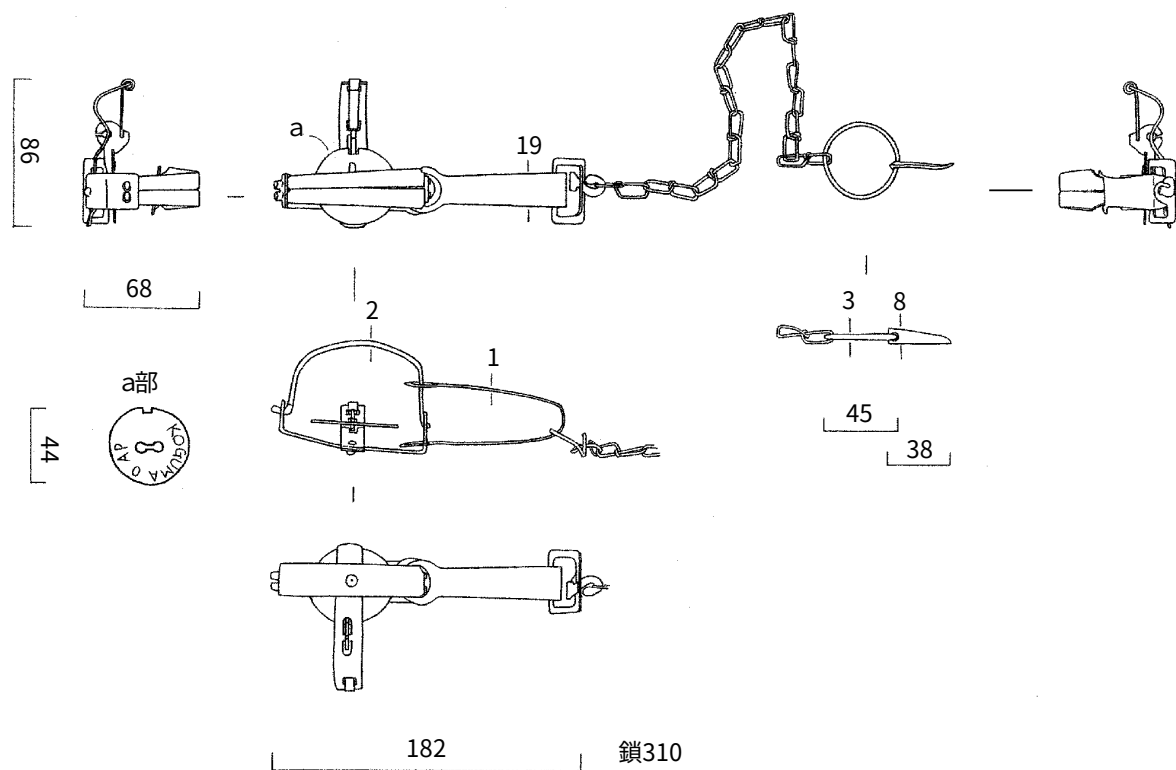


実測図 137



写真番号 240

写真番号 240
 実測図番号 137
 分類名 狩猟用具
 資料名(地方) とらばさみ
 よみ Tora-basami
 重量 934g
 材料 鉄材
 用途 小さいクマも捕れる。大きいクマでは壊される。
 旧所有者 山田清美(笑内地区、寄託)
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子

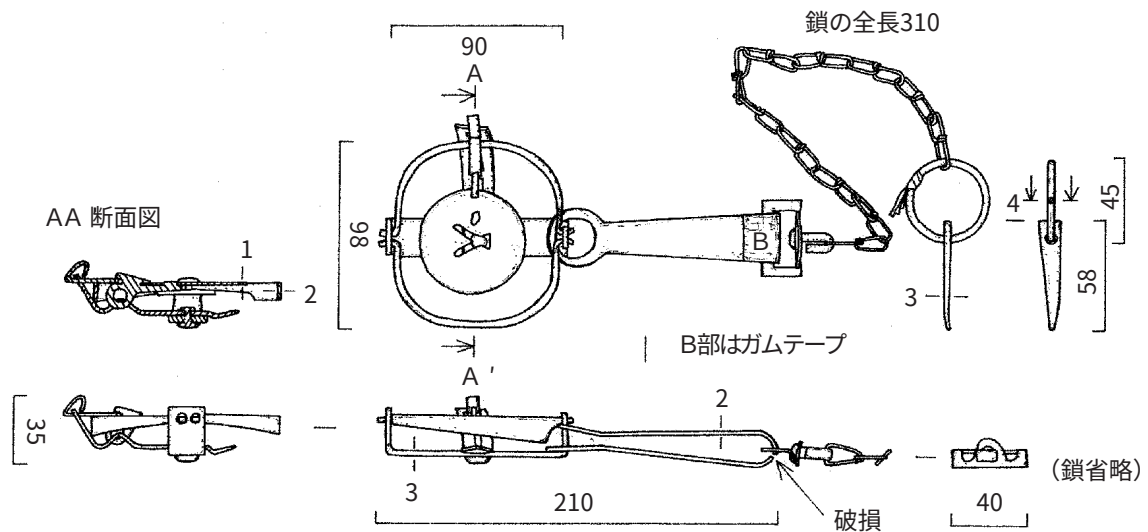


実測図 138



写真番号 241

写真番号 241
 実測図番号 138
 分類名 狩猟用具
 資料名（地方） がばさみ
 よみ Ga-basami
 重量 241…240g
 材料 鉄材
 用途 イタチ・テン・ヤマドリなどを捕る。
 収蔵施設 マタギ資料館（展示室）
 作図者名 田崎美紀子

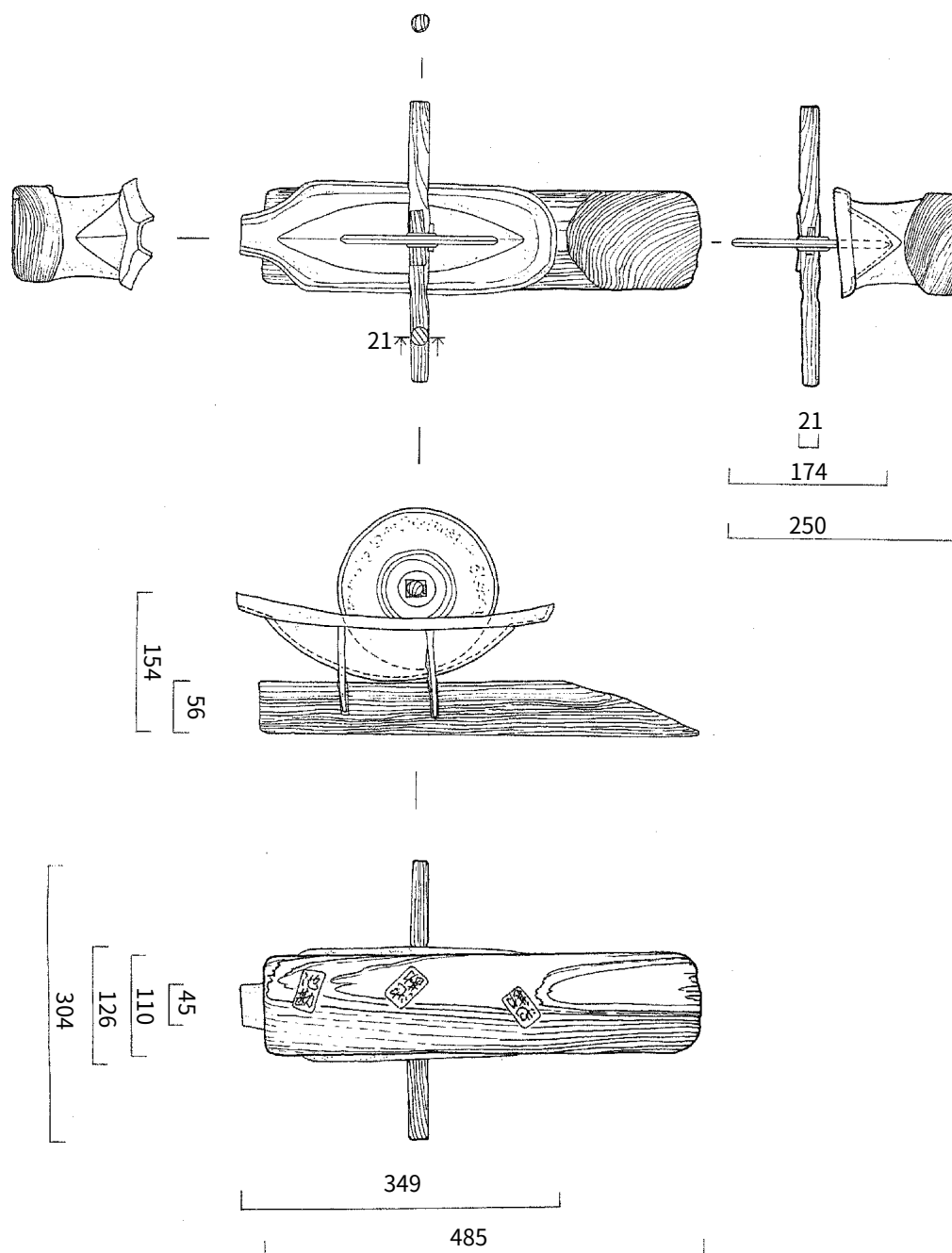


実測図 139



写真番号 242

- 写真番号 242
- 実測図番号 139
- 分類名 狩猟用具
- 資料名 (地方) がばさみ
- よみ Ga-basami
- 重量 280 g
- 材料 鉄材
- 用途 [がばさみ] は小型でテン、キツネ、マミを捕る。
- 製作(入手)方法 購入
- 備考 大型のものは [とらばさみ] でクマ、アオシシ (カモシカ) などの大きい獣を捕る (現在は禁止)。
- 収蔵施設 マタギ資料館 (展示室)
- 作図者名 角館さえ



- 写真番号 243
 実測図番号 140
 分類名 製薬用具
 資料名(地方) 薬研
 よみ Yagen・Ragen
 地区別の呼称 根子地区…らげん 比立内地区…やげん
 打当地区…やげん
 重量 3.08 kg
 用途 薬を作る時の粉碎器。
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 243

写真番号 244
 分類名 薬の素材
 資料名(地方) クマの頭骨
 よみ Kuma-no-tokotsu
 重量 650g
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)



写真番号 244

写真番号 245
 分類名 薬の素材
 資料名(地方) クマの胆
 よみ Kuma-no-i
 重量 0.5g
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)

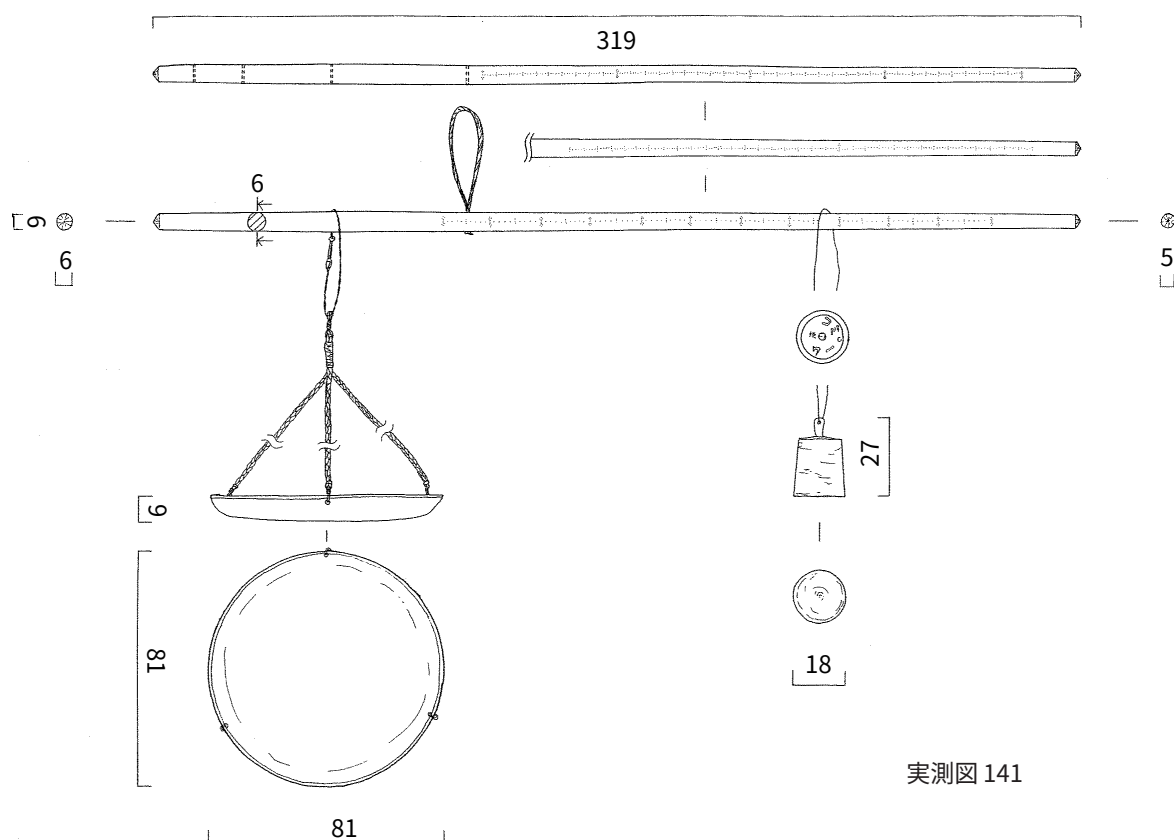


写真番号 245

写真番号 246
 分類名 薬の素材
 資料名(地方) ムササビの胆
 よみ Musasabi-no-i
 重量 0.5g
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)



写真番号 246



実測図 141

写真番号 247
 実測図番号 141
 分類名 製薬用具
 資料名(地方) 匁ばかり
 よみ Monme-bakari
 重量 本体…262g
 用途 クマの胆などを量る
 収蔵施設 マタギ資料館(展示室)
 作図者名 田崎美紀子



写真番号 247

信仰・慣習

写真番号 248・249・250
 分類名 信仰・慣習
 資料名（地方） 山立根本之巻
 よみ Yamadachi-konpon-no-maki
 収蔵施設 マタギ資料館（展示室）



写真番号 248



写真番号 249



写真番号 250

写真番号 251
 分類名 信仰・慣習
 資料名（地方） 鉾子
 よみ Choshi
 旧所有者 福田謹治郎（寄託）
 収蔵施設 マタギ資料館（展示室）



写真番号 251